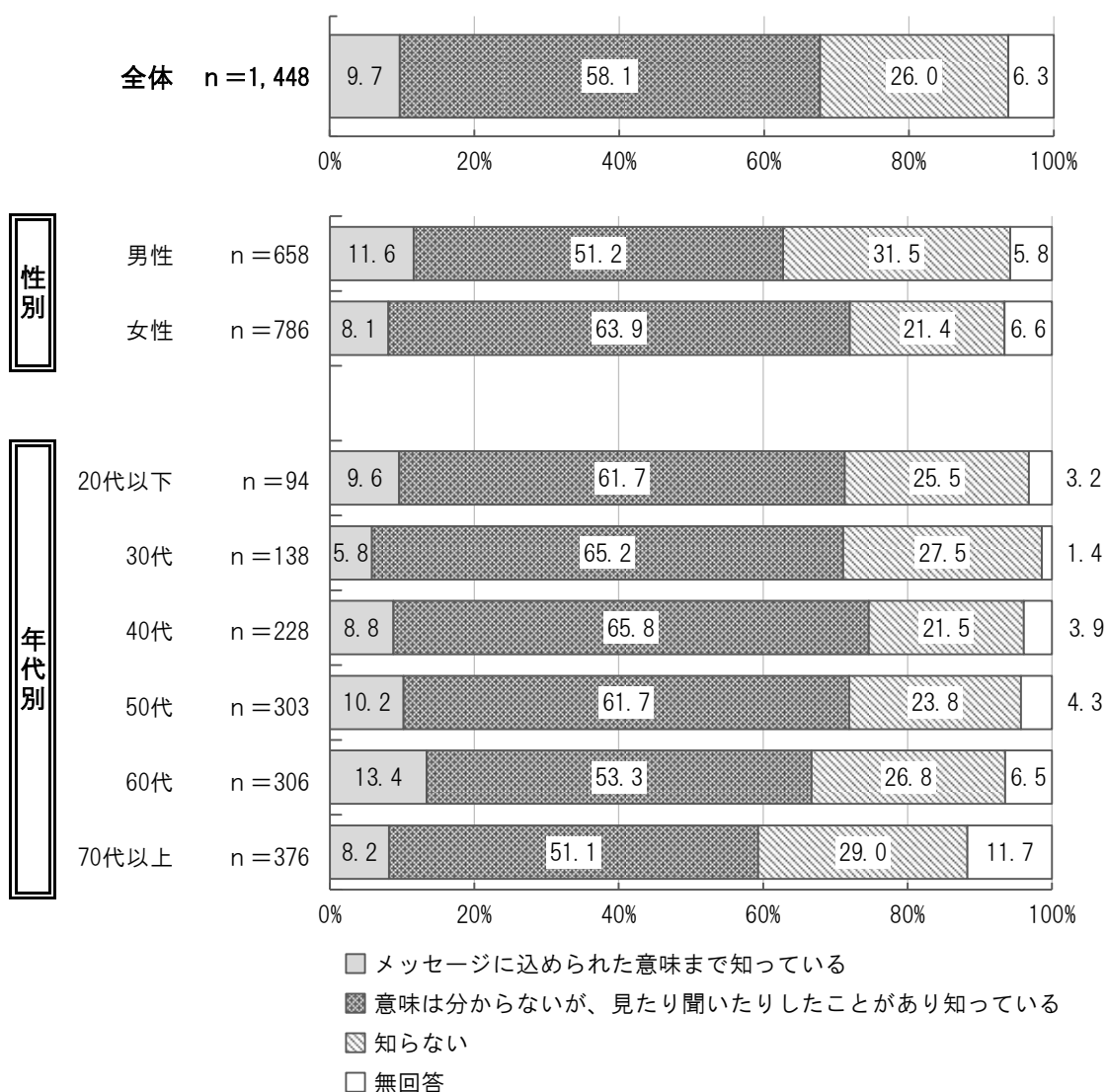


(1) ブランドメッセージの認知度

問1 富士市ブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」を知っていますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

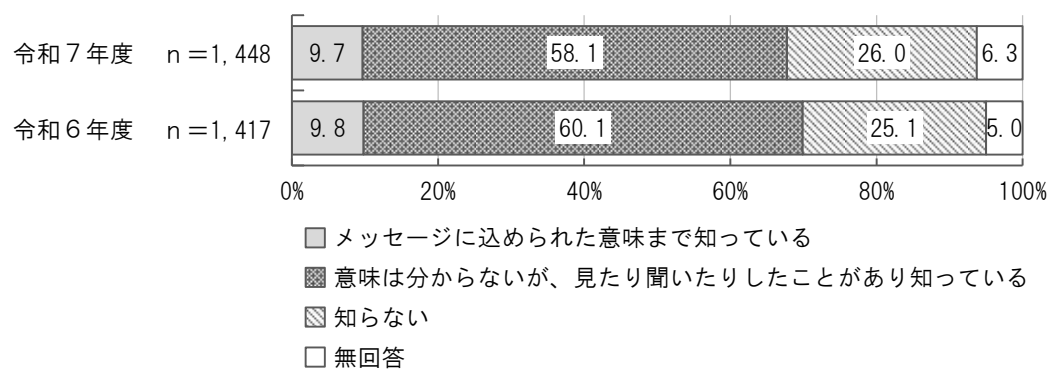


富士市ブランドメッセージの認知度は、「知らない」が26.0%となっている。「メッセージに込められた意味まで知っている」(9.7%)と「意味は分からないが、見たたり聞いたたりしたことがあり知っている」(58.1%)を合わせた『知っている』は67.7%となっている。

性別で見ると、男性において「知らない」が31.5%と女性より多くなっており、「メッセージに込められた意味まで知っている」も、数ポイントではあるが女性よりも多くなっている。女性においては「意味は分からないが、見たたり聞いたたりしたことがあり知っている」が63.9%と、男性の51.2%より多くなっている。

年代別では、30代・40代において「意味は分からないが、見たたり聞いたたりしたことがあり知っている」が65%以上と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、「知らない」は70代以上が29.0%と全世代で最も多く、次いで30代が27.5%、60代が26.8%となっている。

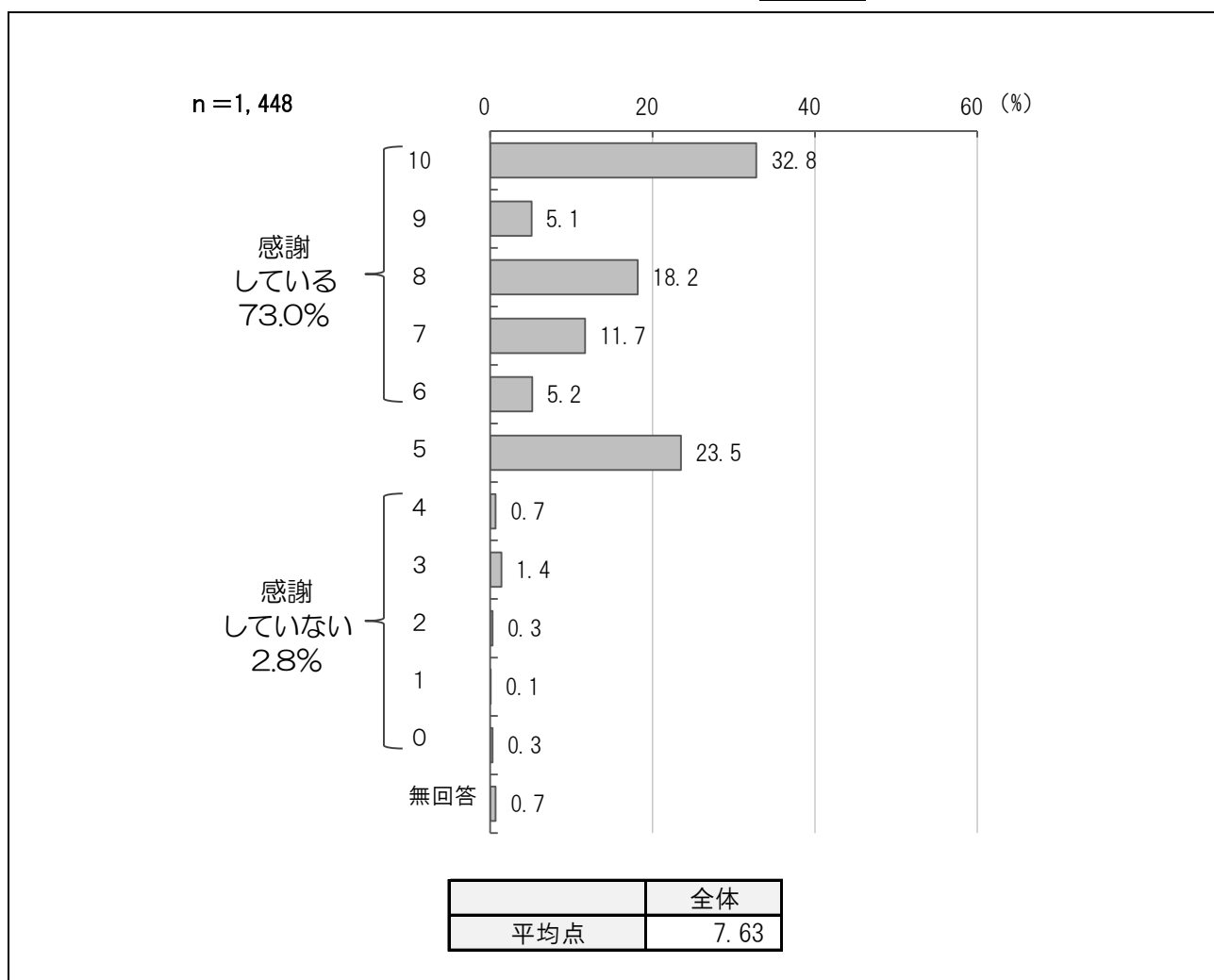
<経年比較>



令和 6 年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

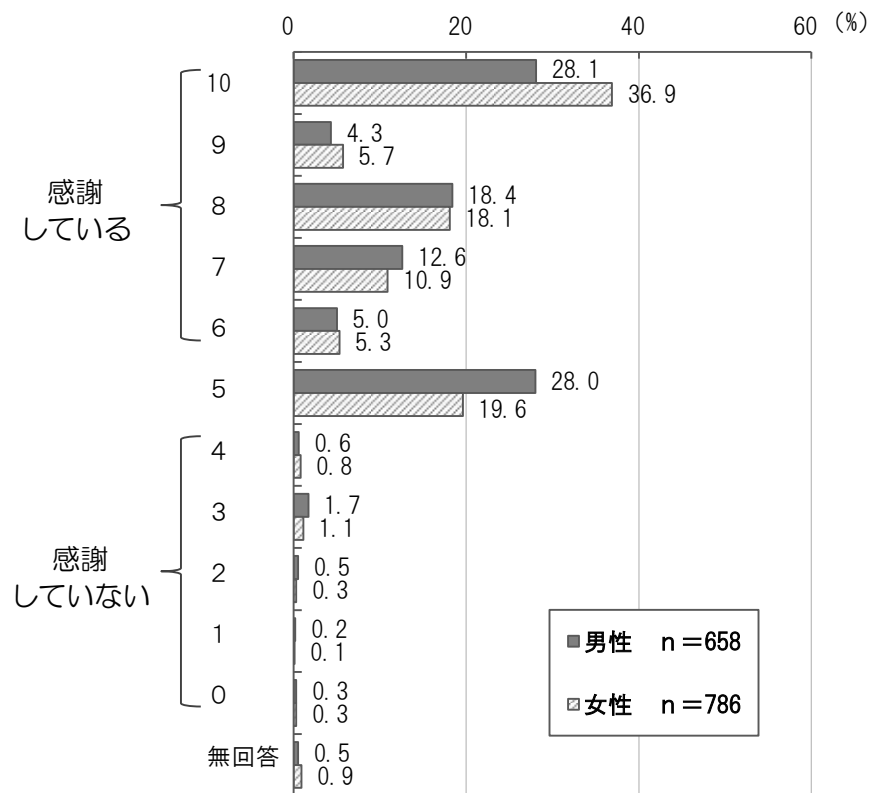
(2) 地域のために活動している人への感謝度（10点評価）

問2 あなたは、地域（まち）のために活動している人に対し、どの程度の気持ちで感謝していますか。次の気持ちを表した数字（10 から 0 まで）から 1つだけ 選んで○をつけてください。



地域のために活動している人への感謝度は、「10」が 32.8%と最も多く、次いで「5」が 23.5%、「8」が 18.2%となっている。また、『感謝している』（「10」～「6」の合計）は 73.0%、『感謝していない』（「4」～「0」の合計）は 2.8%で、平均点は 7.63 となっている。

<性別>

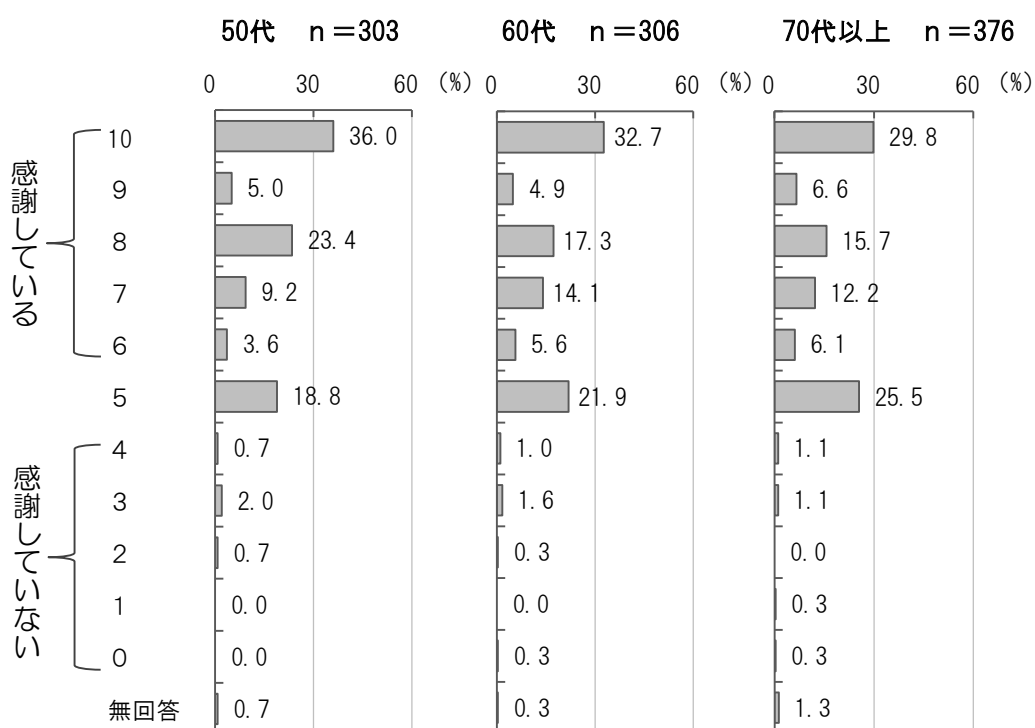
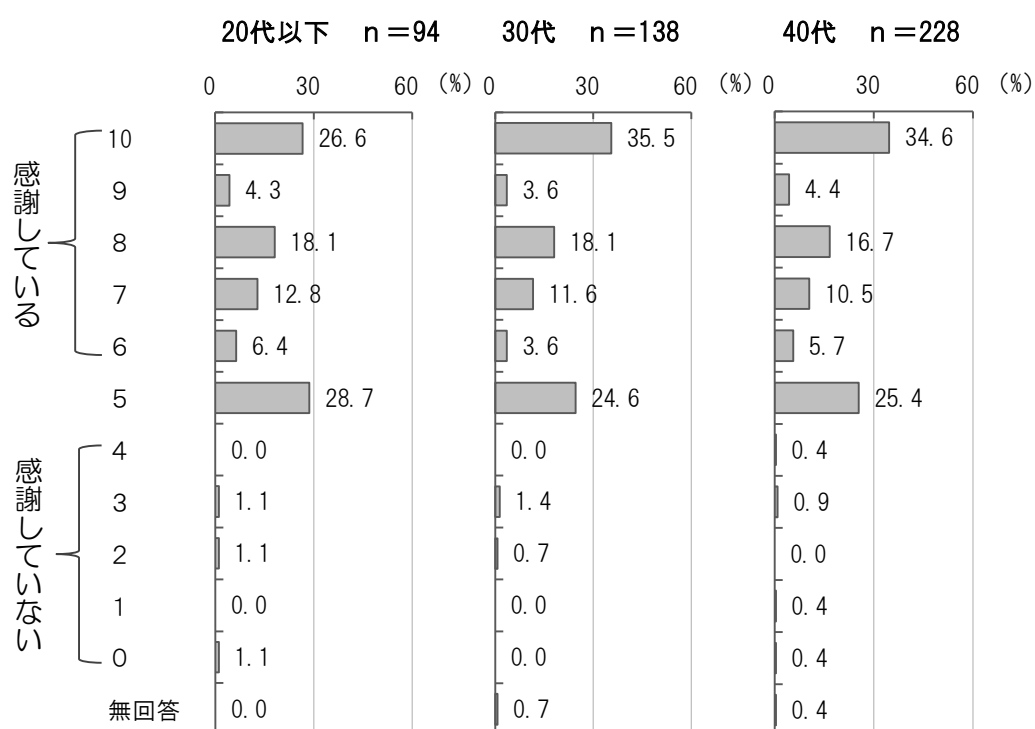


	男性	女性
感謝している	68.4%	77.0%
感謝していない	3.2%	2.5%
平均点	7.37	7.86

性別で見ると、男性において「5」が28.0%と、女性より多くなっている。女性においては「10」が36.9%と、男性より多くなっている。また、『感謝している』は女性において77.0%と、男性の68.4%に比べて多くなっている。

平均点は、男性においては7.37、女性においては7.86となっている。

<年代別>

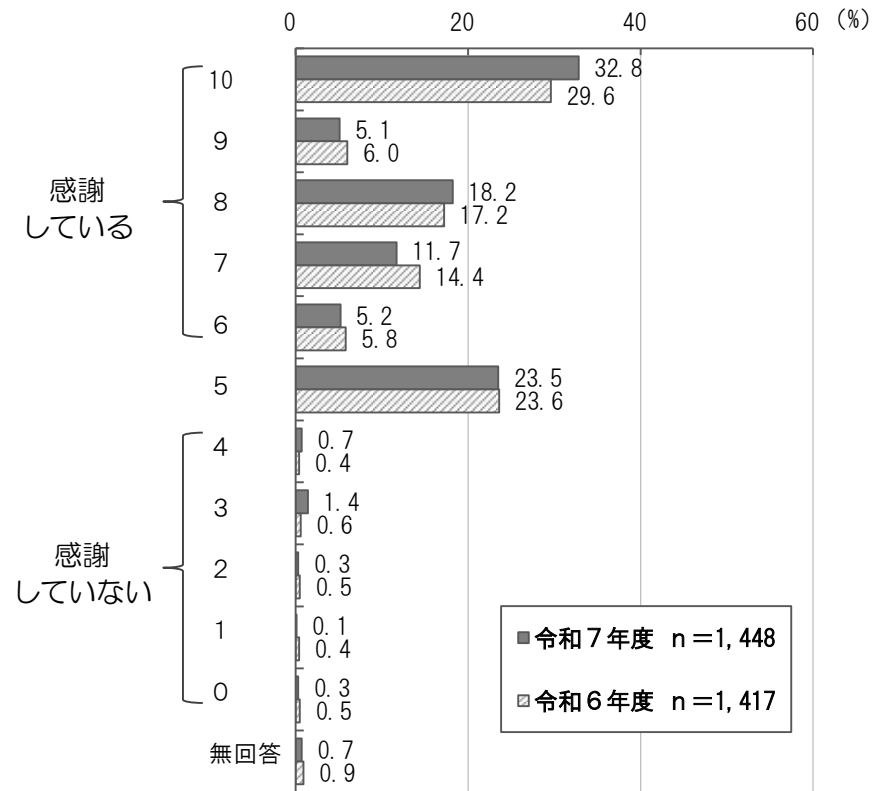


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
感謝している	68.1%	72.5%	71.9%	77.2%	74.5%	70.5%
感謝していない	3.2%	2.2%	2.2%	3.3%	3.3%	2.7%
平均点	7.26	7.70	7.63	7.87	7.63	7.51

年代別では、50 代において「8」が 23.4%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、20 代以下以外の全年代において「5」より「10」が多くなっている。

平均点は、50 代において 7.87 と、全年代で最も高くなっている。

<経年比較>

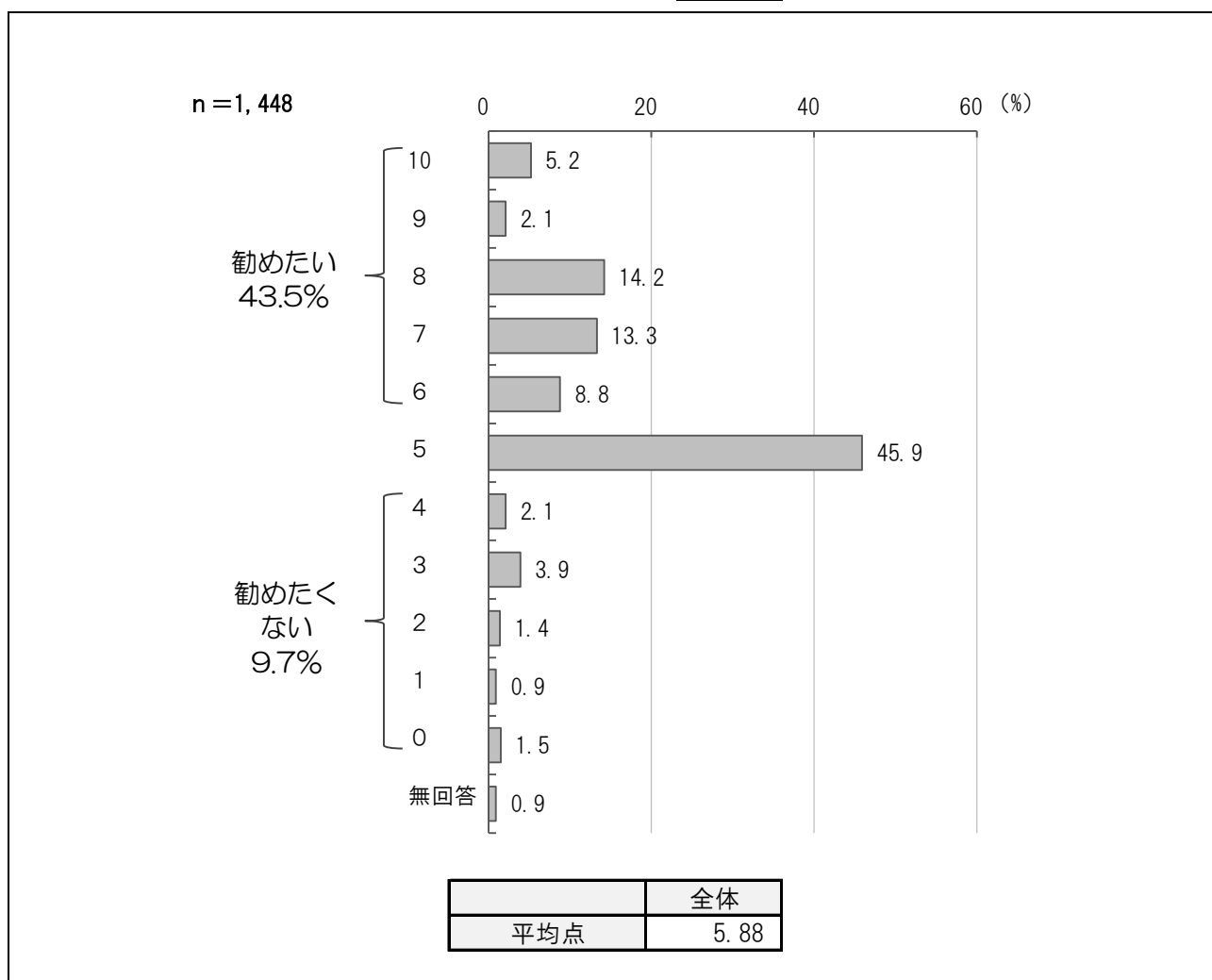


	令和7年度	令和6年度
平均点	7.63	7.54

令和6年度の調査結果と比較すると、「10」が 3.2 ポイント増加しており、平均点はやや高くなっている。

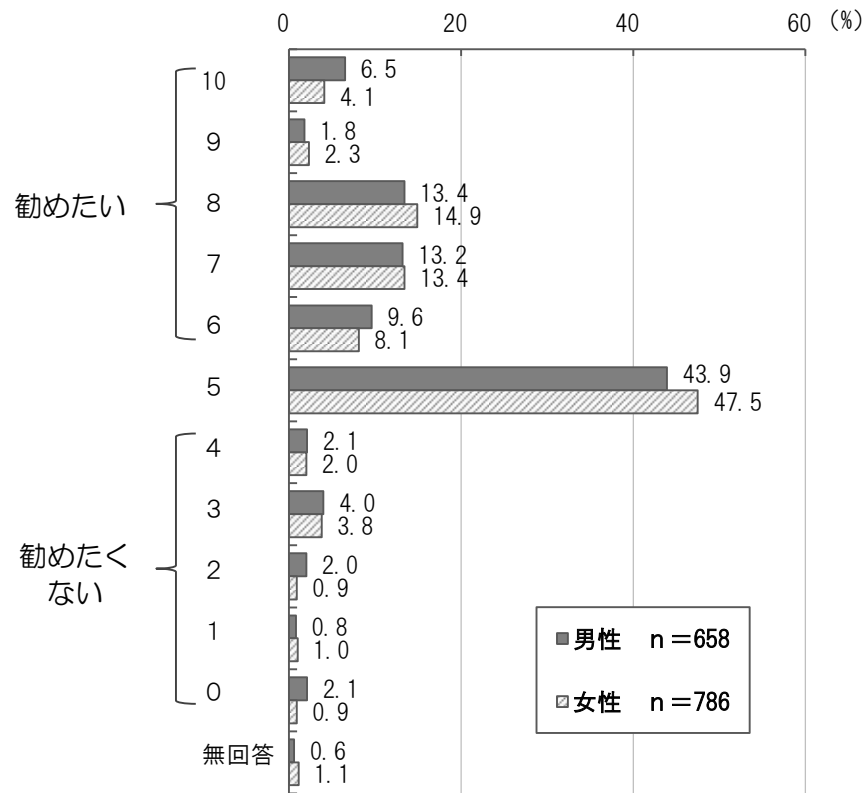
(3) 地域の魅力の推奨度 (10 点評価)

問3 あなたは、地域(まち)の魅力を、どの程度の気持ちで友人にお勧めしたいと思いますか。
次の気持ちを表した数字(10から0まで)から1つだけ選んで○をつけてください。



地域の魅力の推奨度は、「5」が45.9%と最も多く、次いで「8」が14.2%、「7」が13.3%となっている。また、『勧めたい』(「10」～「6」の合計)は43.5%、『勧めたくない』(「4」～「0」の合計)は9.7%で、平均点は5.88となっている。

<性別>

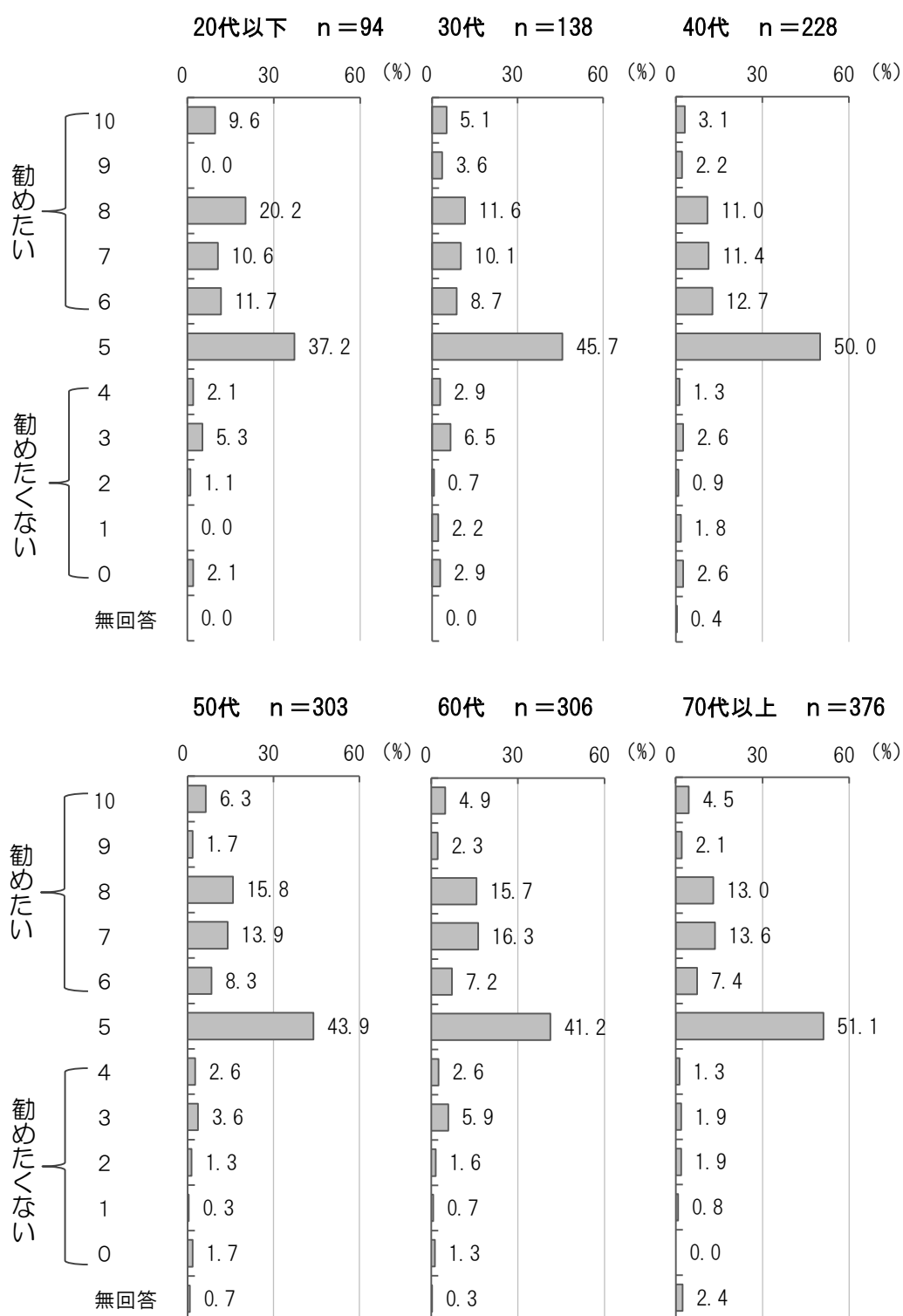


	男性	女性
勧めたい	44.5%	42.7%
勧めたくない	10.9%	8.7%
平均点	5.87	5.89

性別で見ると、女性において「5」が47.5%と、男性より多くなっている。

平均点は、男性においては5.87、女性においては5.89 となっている。

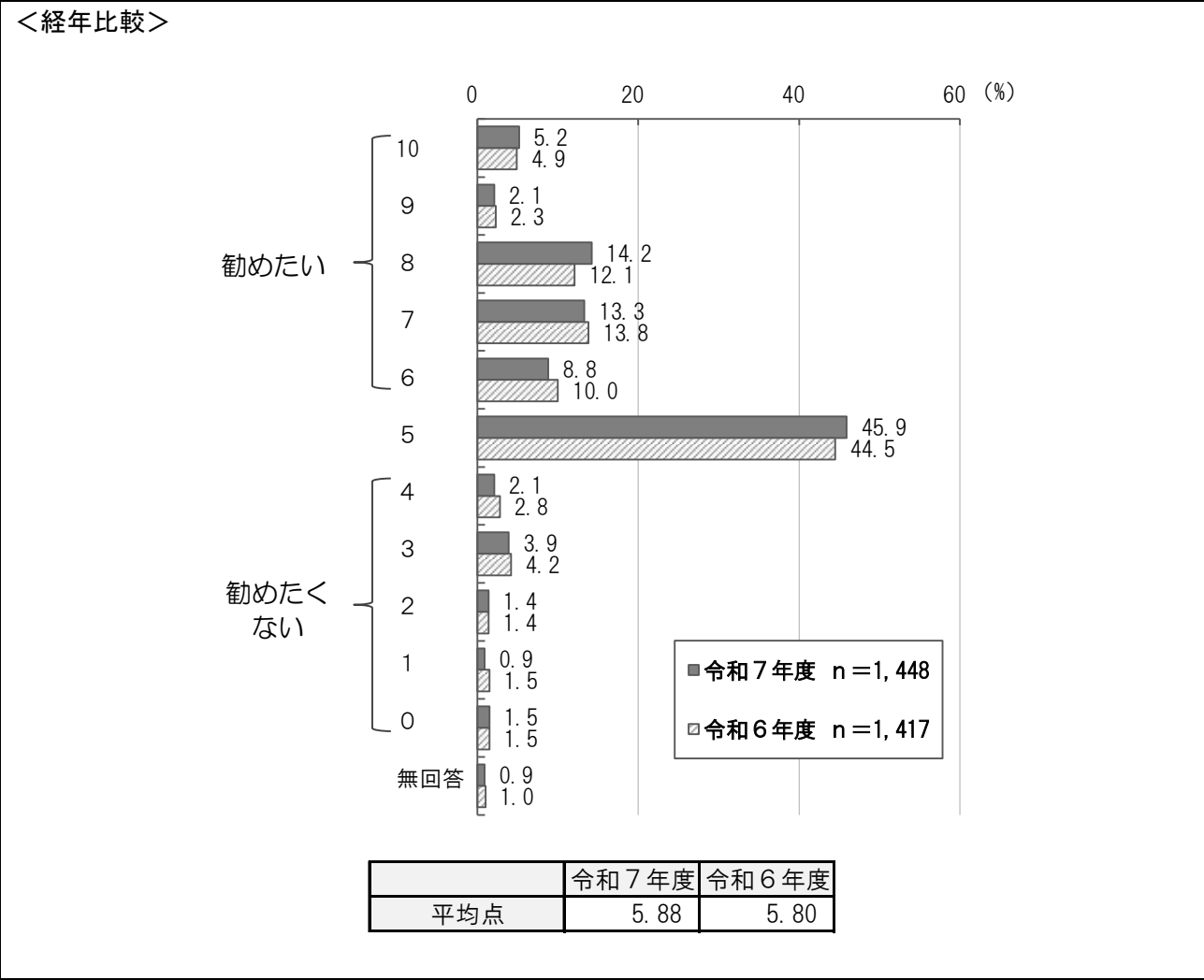
<年代別>



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
勧めたい	52.1%	39.1%	40.4%	45.9%	46.4%	40.7%
勧めたくない	10.6%	15.2%	9.2%	9.6%	12.1%	5.9%
平均点	6.15	5.62	5.63	5.99	5.92	5.93

年代別では、どの年代においても「5」が多く、40代・70代以上においては5割以上となっている。また、『勧めたい』は20代以下において52.1%と、ほかの年代に比べて多く、30代において4割以下と、ほかの年代に比べて低くなっている。30代において『勧めたくない』が15.2%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

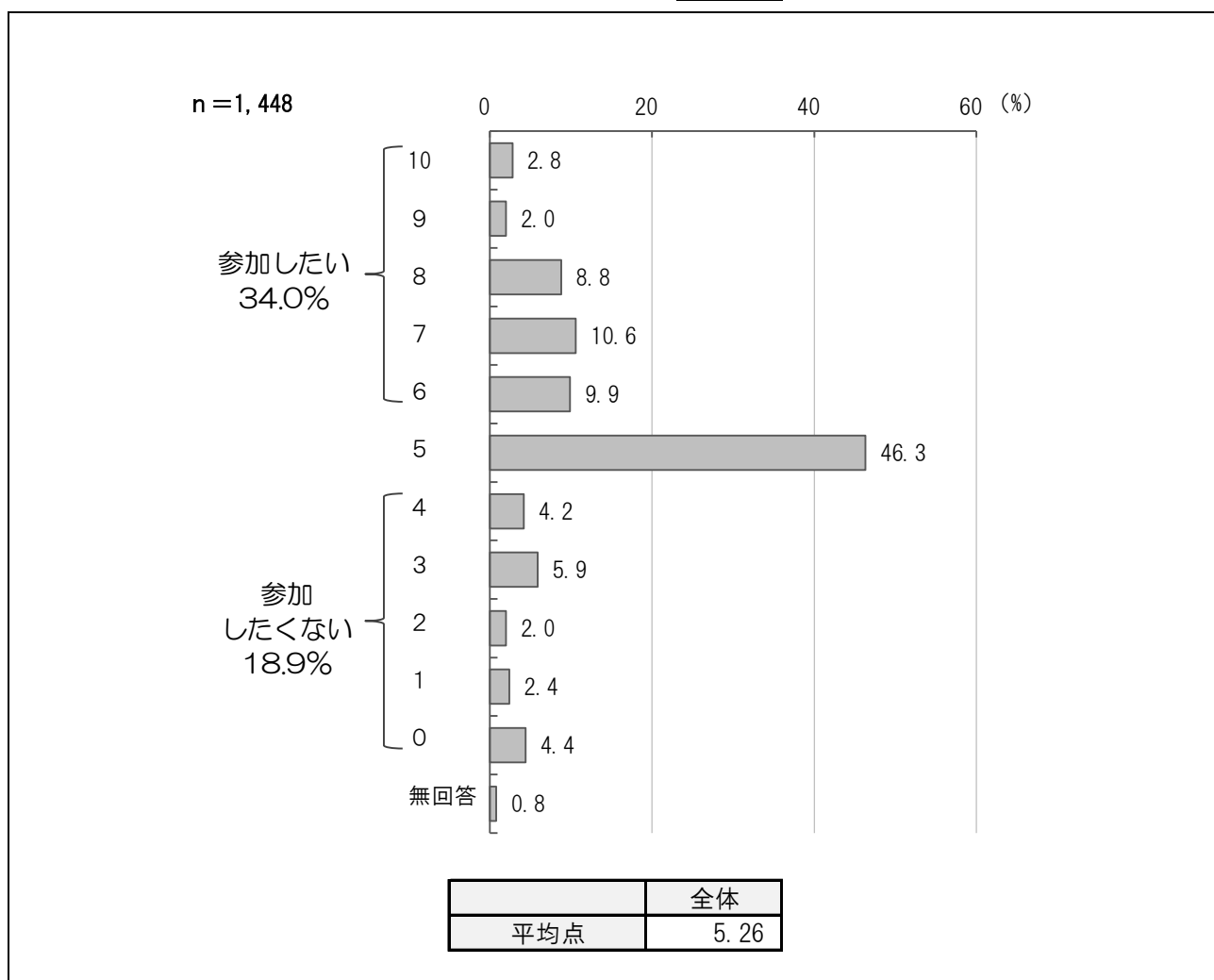
平均点は、20代以下において6.15と、全年代で最も高くなっている。



令和6年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られないが、平均点はやや高くなっている。

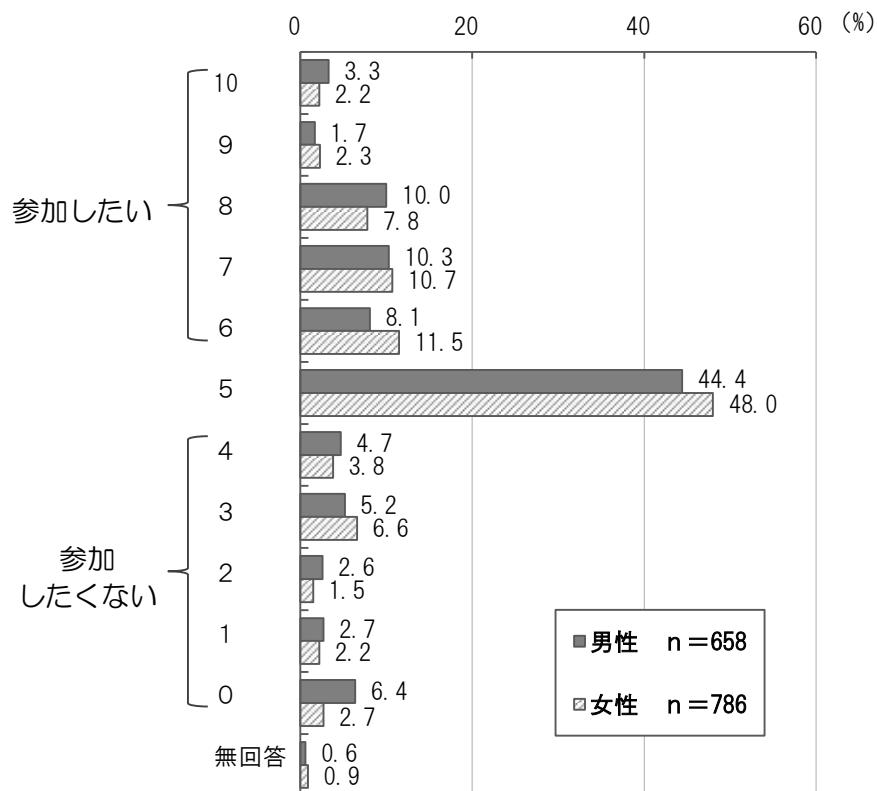
(4) 地域活動の参加意向 (10 点評価)

問4 あなたは、地域（まち）をよくする活動に、どの程度の気持ちで参加したいと思いますか。
次の気持ちを表した数字（10 から 0 まで）から 1つだけ選んで○をつけてください。



地域活動の参加意向は、「5」が46.3%と最も多く、次いで「7」が10.6%、「6」が9.9%となっている。また、『参加したい』（「10」～「6」の合計）は34.0%、『参加したくない』（「4」～「0」の合計）は18.9%で、平均点は5.26となっている。

<性別>

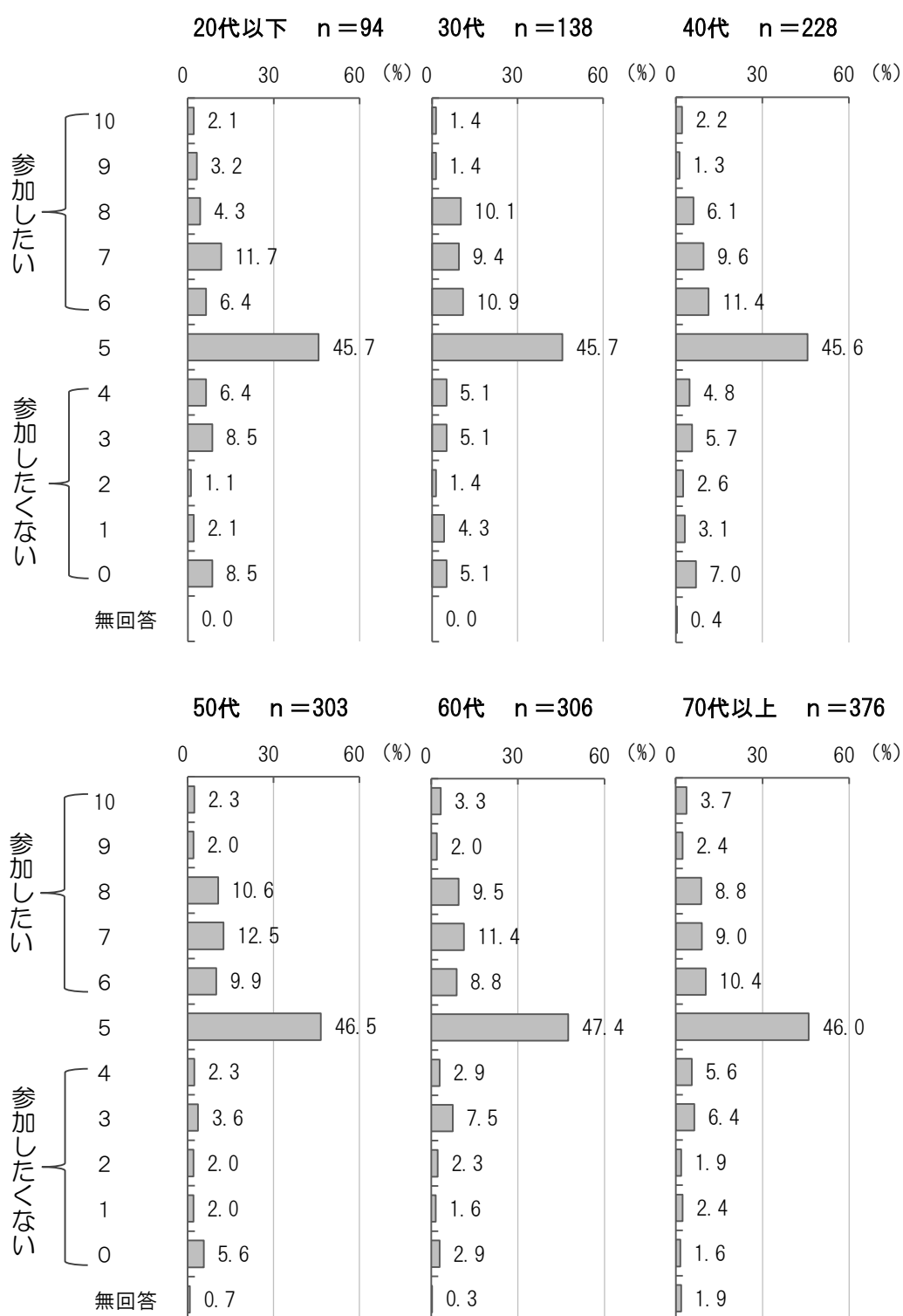


	男性	女性
参加したい	33.4%	34.4%
参加したくない	21.6%	16.8%
平均点	5.17	5.33

性別で見ると、男性において「0」が6.4%と、女性より多くなっている。女性においては「6」が11.5%、「5」が48.0%と、男性より多くなっている。また、『参加したくない』は男性において21.6%と、女性の16.8%に比べて多くなっている。

平均点は、男性においては5.17、女性においては5.33となっている。

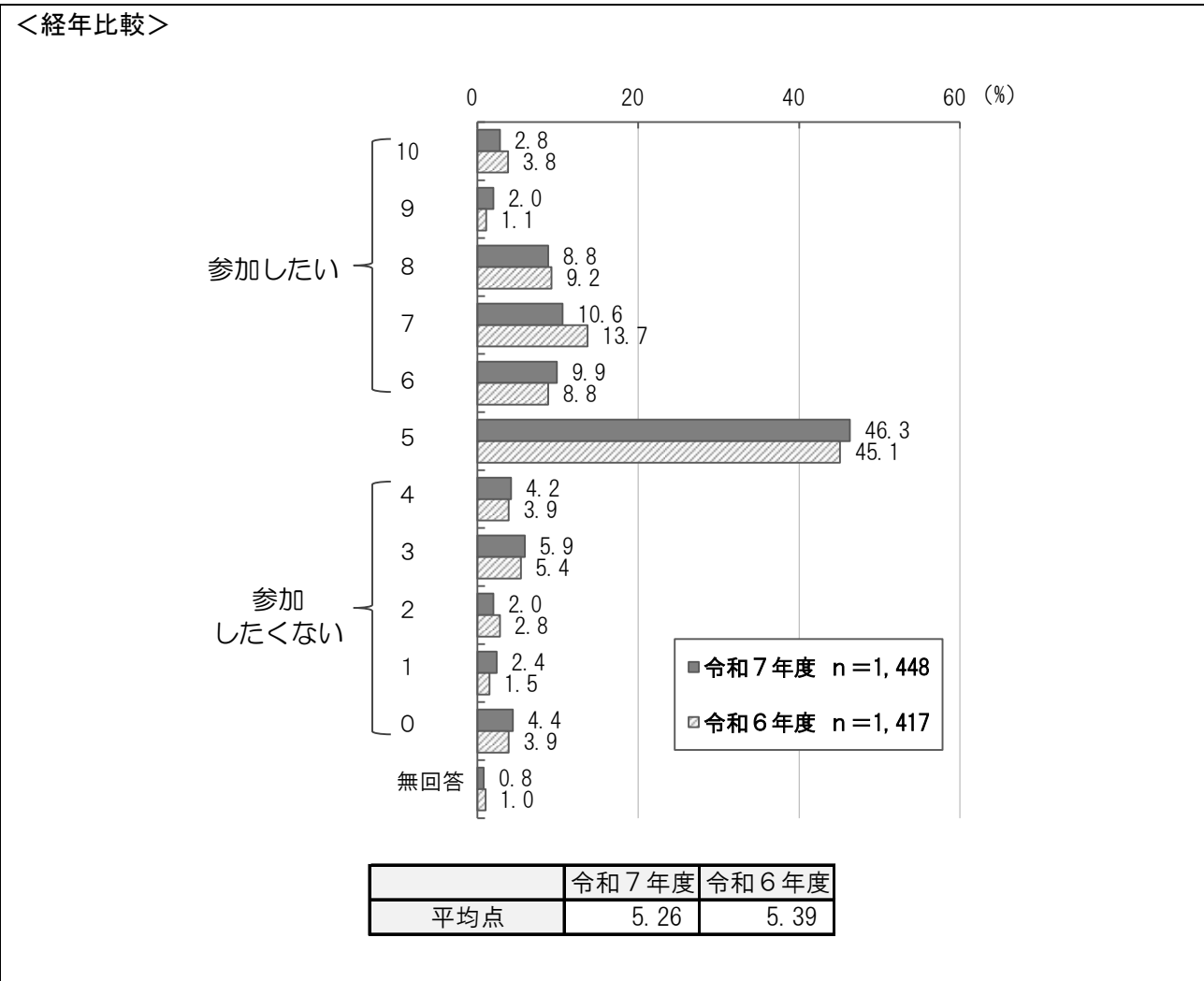
<年代別>



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
参加したい	27.7%	33.3%	30.7%	37.3%	35.0%	34.3%
参加したくない	26.6%	21.0%	23.2%	15.5%	17.3%	17.8%
平均点	4.88	5.11	4.94	5.35	5.38	5.42

年代別では、どの年代においても「5」が多く、45%程度となっている。また、20 代以下において『参加したくない』が 26.6%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

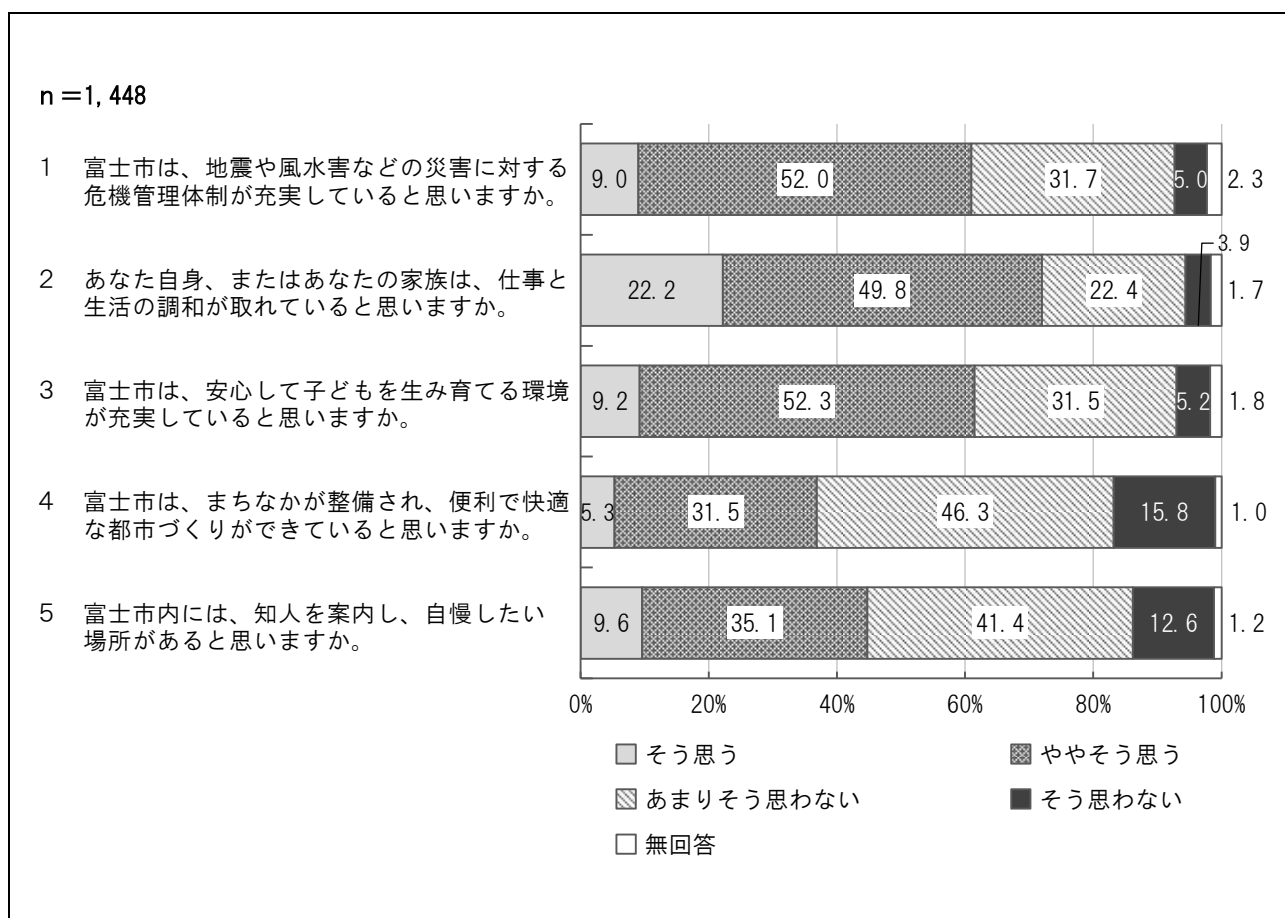
平均点は、70 代以上において 5.42 と、全年代で最も高くなっている。



令和 6 年度の調査結果と比較すると、「7」が 3.1 ポイント減少していて、平均点はやや低くなっている。

(5) 「富士市デジタル田園都市総合戦略」各戦略の満足度

問5 次の各項目の満足度について、あなたの気持ちに近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

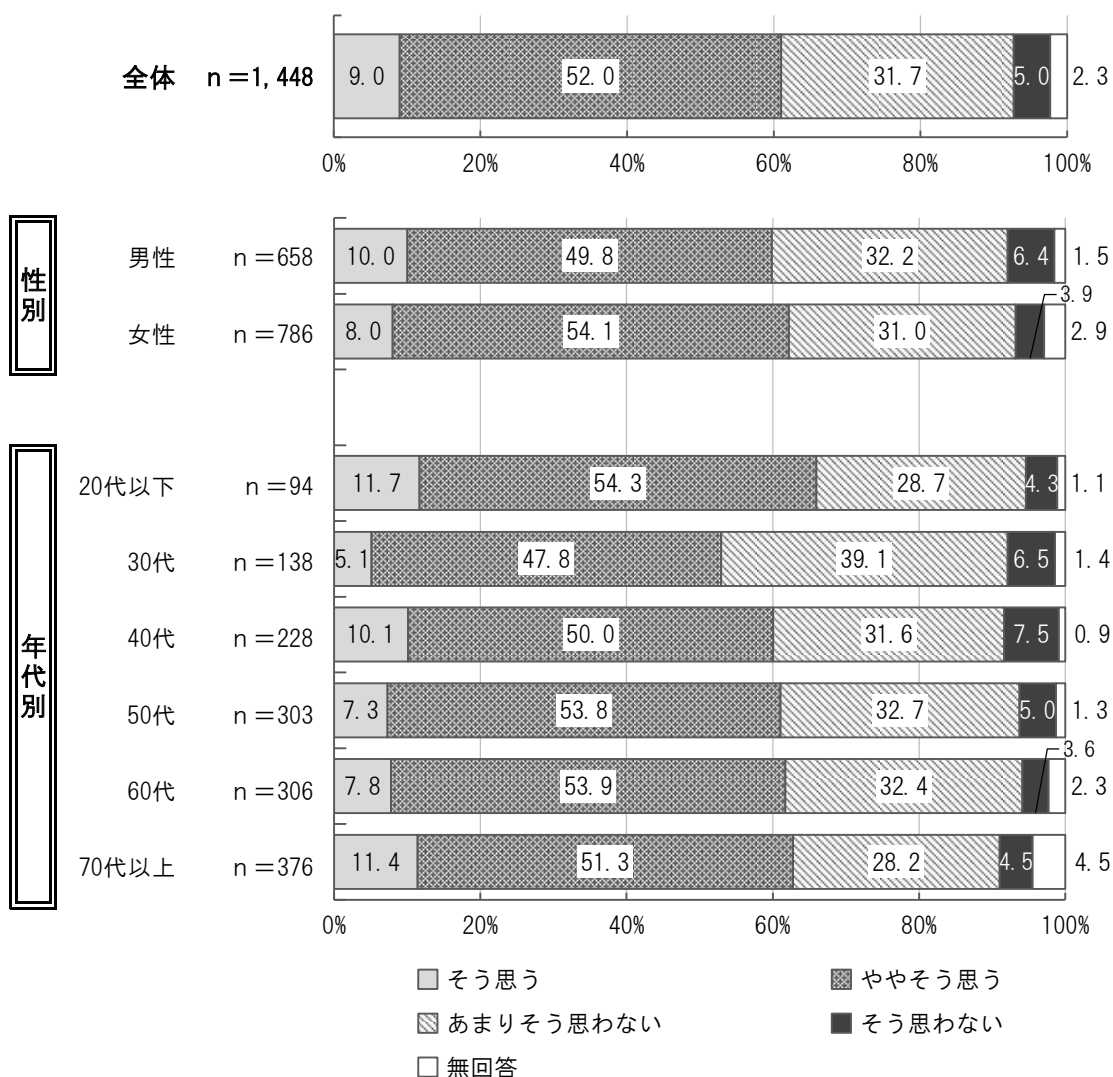


「富士市デジタル田園都市総合戦略」各戦略の満足度において、『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が多い項目は、順に「2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。」（72.0%）、「3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。」（61.5%）、「1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。」（61.0%）となっている。

一方、『そう思わない』（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）が多い項目は、順に「4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。」（62.2%）、「5 富士市内には、知人を案内し、自慢したい場所があると思いますか。」（54.1%）となっている。

※以下、『そう思う』は「そう思う」と「ややそう思う」、『そう思わない』は「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせたものとする。

1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。

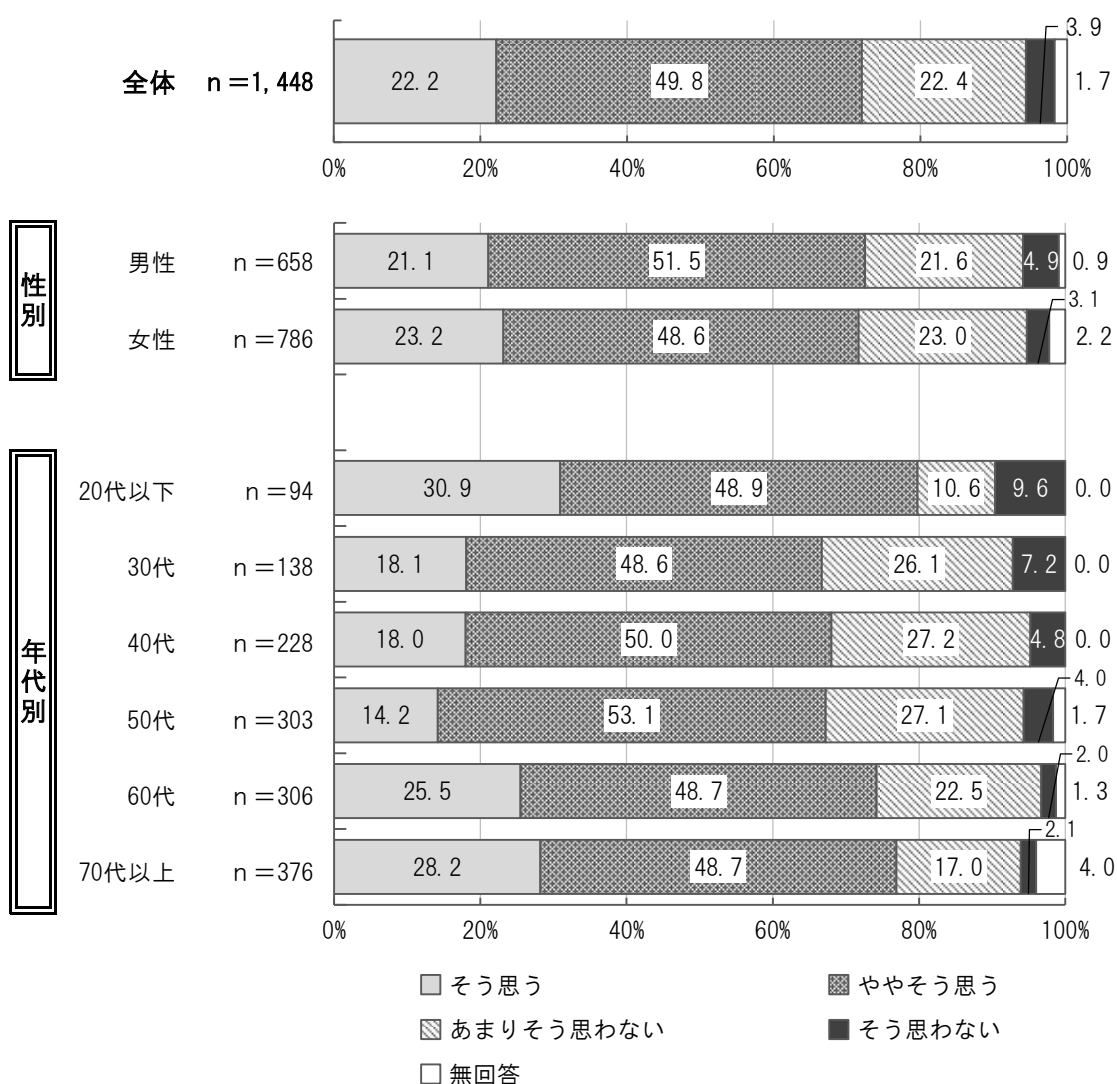


「富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。」という設問については、『そう思う』が61.0%、『そう思わない』が36.7%となっている。

性別で見ると、女性において「ややそう思う」が54.1%と、男性より多くなっている。

年代別では、「あまりそう思わない」は30代において39.1%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『そう思う』は20代以下が66.0%、『そう思わない』は30代が45.7%と、それぞれ全年代で最も多くなっている。

2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。

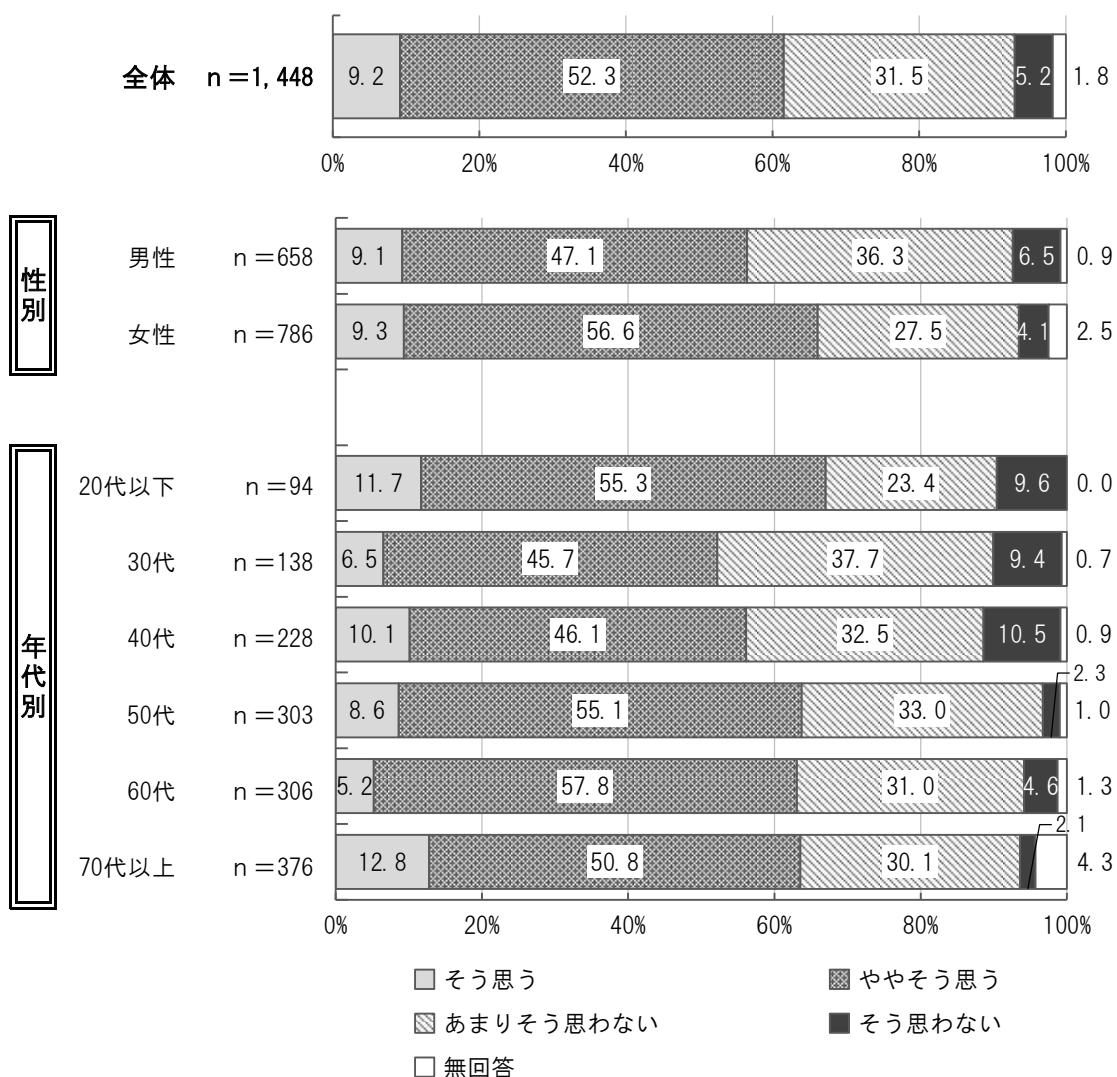


「あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。」という設問については、『そう思う』が72.0%、『そう思わない』が26.3%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、30代・40代・50代において「そう思う」が2割未満と、ほかの年代に比べて少なくなっている。また、『そう思う』は20代以下が79.8%と全年代で最も多く、次いで70代以上が76.9%となっている。『そう思わない』は30代が33.3%と全年代で最も多く、次いで40代が32.0%、50代が31.1%となっている。

3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。

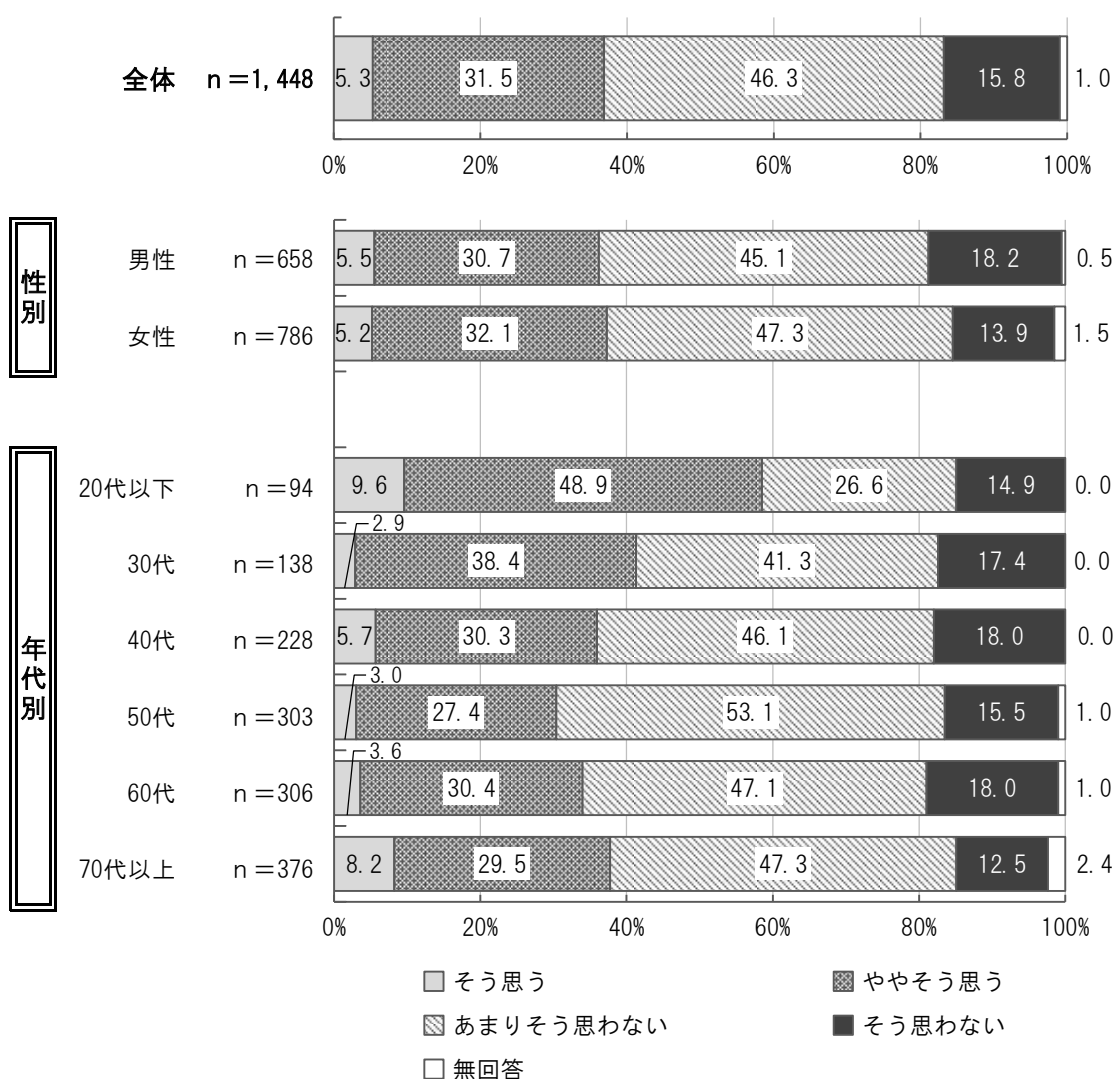


「富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。」という設問については、『そう思う』が61.5%、『そう思わない』が36.7%となっている。

性別で見ると、男性において「あまりそう思わない」が36.3%と、女性より多くなっている。女性においては「ややそう思う」が56.6%と、男性より多くなっている。また、『そう思う』は男性において56.2%と、女性の65.9%に比べて少なくなっている。

年代別では、「あまりそう思わない」が30代において37.7%と、ほかの年代に比べて多く、20代以下においては23.4%と少なくなっている。また、『そう思う』は20代以下が67.0%と全年代で最も多くなっている。『そう思わない』は30代が47.1%と全年代で最も多く、次いで40代が43.0%となっている。

4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。

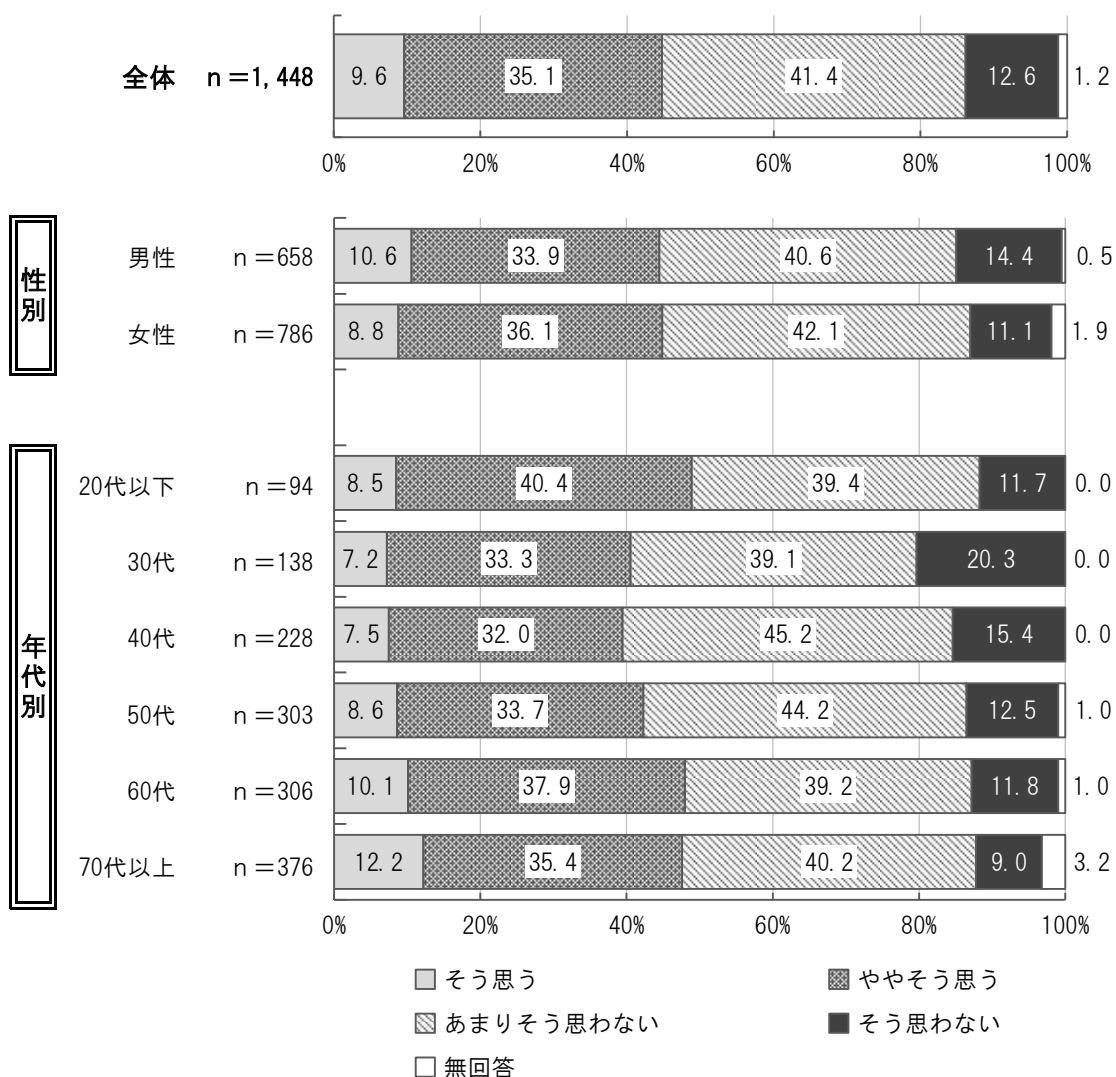


「富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていると思いますか。」という設問については、『そう思う』が36.8%、『そう思わない』が62.2%となっている。

性別で見ると、男性において「そう思わない」が18.2%と、女性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「ややそう思う」が48.9%と、ほかの年代に比べて多くなっている。50代においては「あまりそう思わない」が53.1%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『そう思う』は20代以下が58.5%、『そう思わない』は50代が68.6%と全年代で最も多く、次いで60代が65.0%、40代が64.1%となっている。

5 富士市内には、知人を案内し、自慢したい場所があると思いますか。



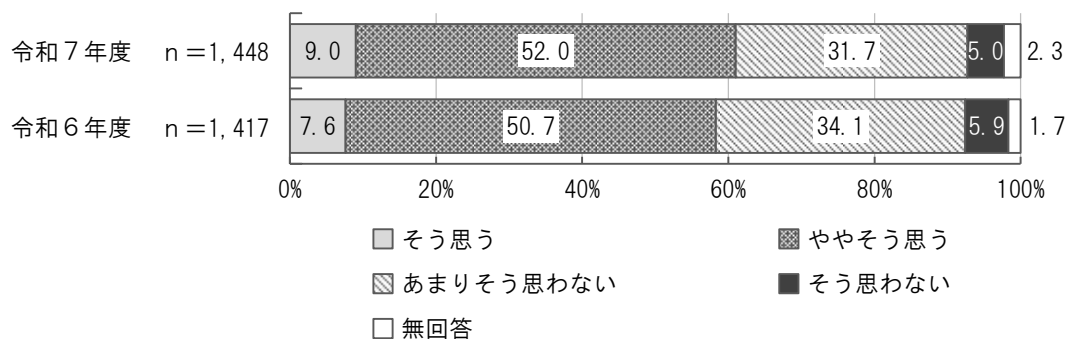
「富士市内には、知人を案内し、自慢したい場所があると思いますか。」という設問については、『そう思う』が 44.7%、『そう思わない』が 54.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

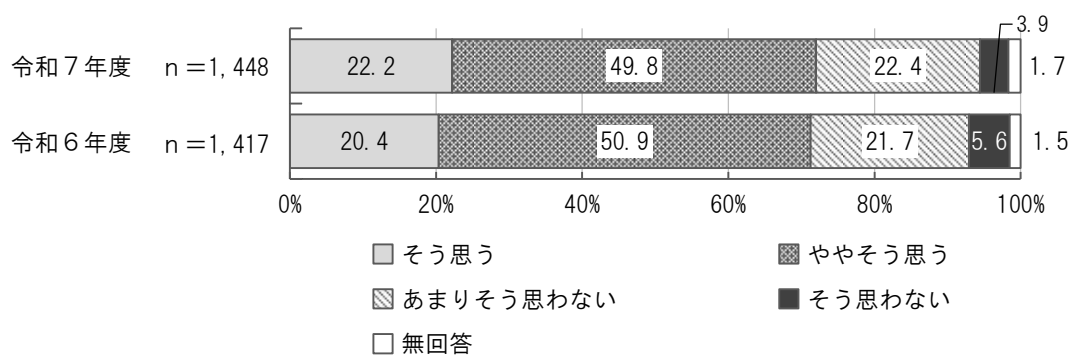
年代別では、30代において「そう思わない」が 20.3%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『そう思う』は 20代以下が 48.9%と全年代で最も多く、次いで 60代が 48.0%、70代が 47.6%となっている。『そう思わない』は 40代が 60.5%と全年代で最も多く、次いで 30代が 59.4%、50代が 56.7%となっている。

＜経年比較＞

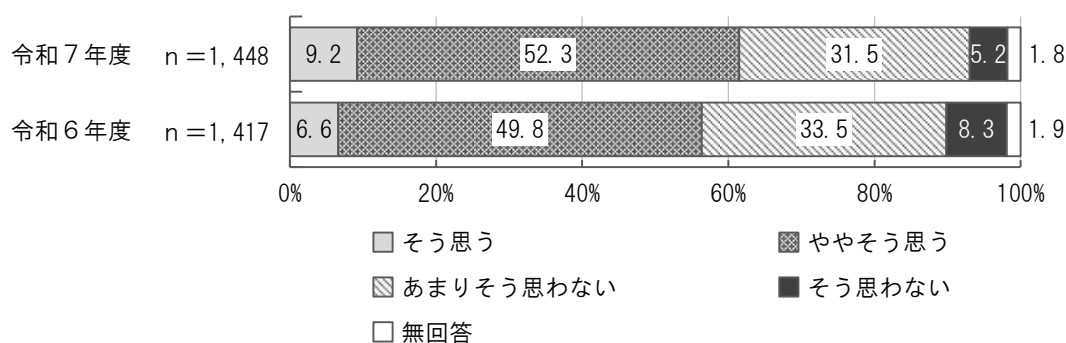
1 富士市は、地震や風水害などの災害に対する危機管理体制が充実していると思いますか。



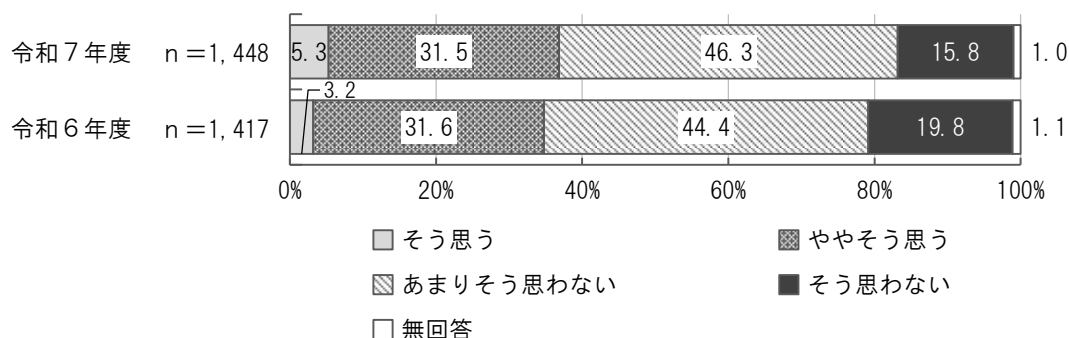
2 あなた自身、またはあなたの家族は、仕事と生活の調和が取れていると思いますか。



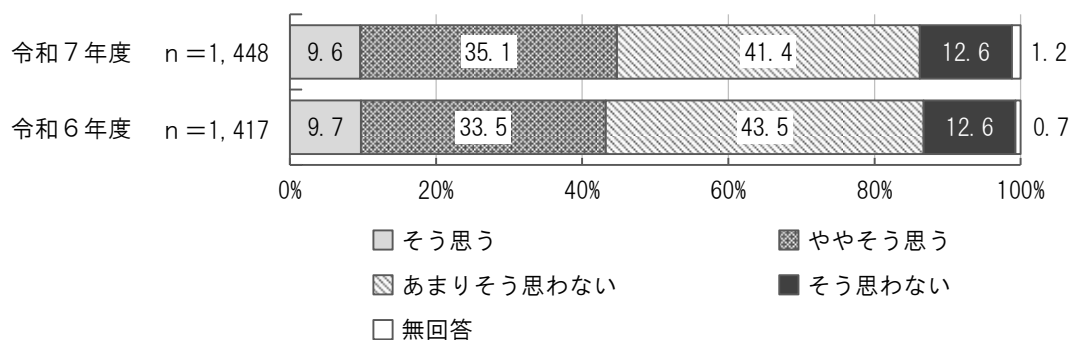
3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。



4 富士市は、まちなかが整備され、便利で快適な都市づくりができていますか。



5 富士市内には、知人を案内し、自慢したい場所があると思いますか。



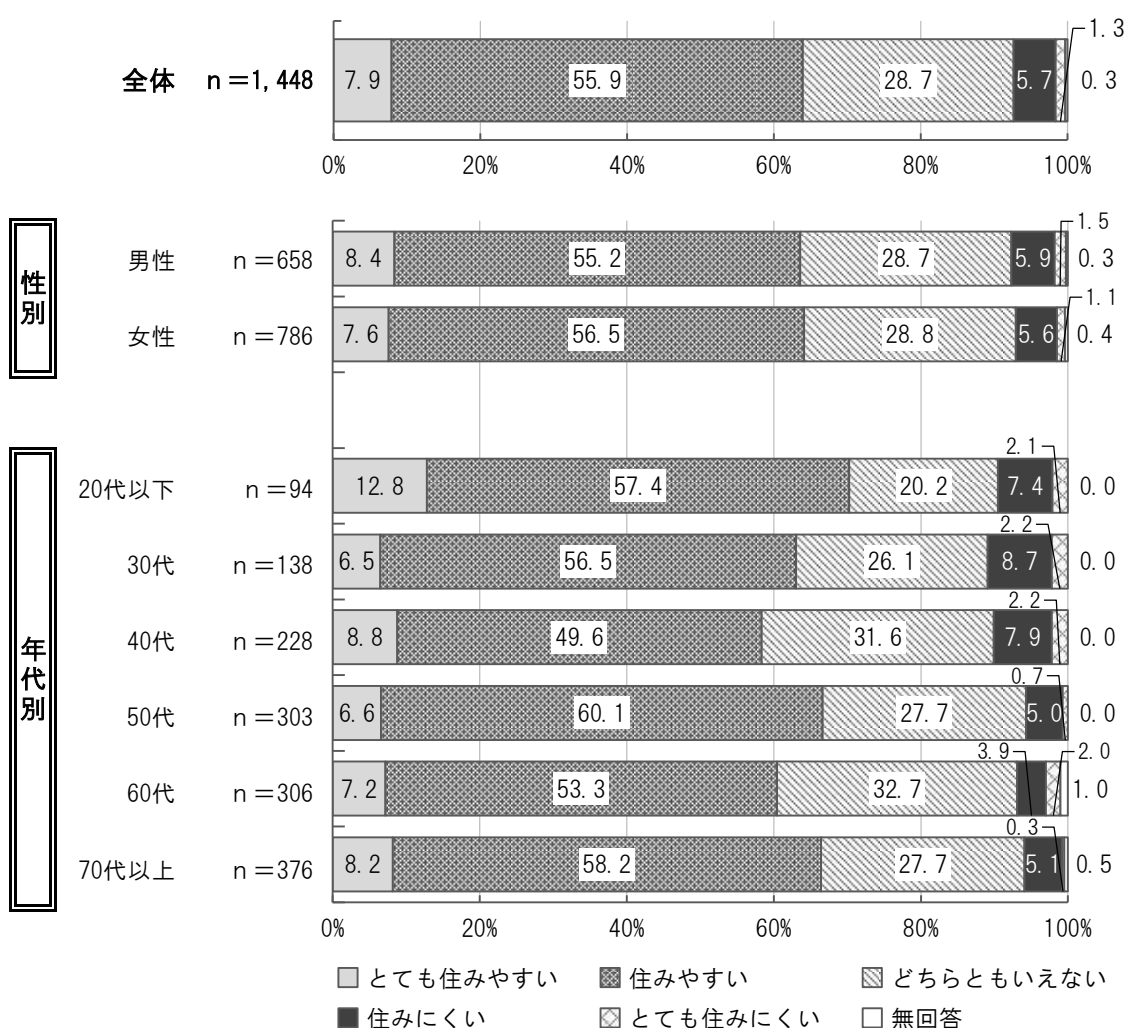
令和6年度の調査結果と比較すると、「3 富士市は、安心して子どもを生み育てる環境が充実していると思いますか。」という設問において、『そう思う』が5.2ポイント増加している。その他の設問においては、大きな変化は見られないが、どの設問においても『そう思う』が数ポイント増加している。

■「富士市に住んで私はこう思う～第六次富士市総合計画の評価に係る市民意識調査～」について

現状と日常生活について

(1) 富士市は住みやすい市か

問6 あなたにとって、富士市は住みやすい市ですか。次の中からあなたのお気持ちに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

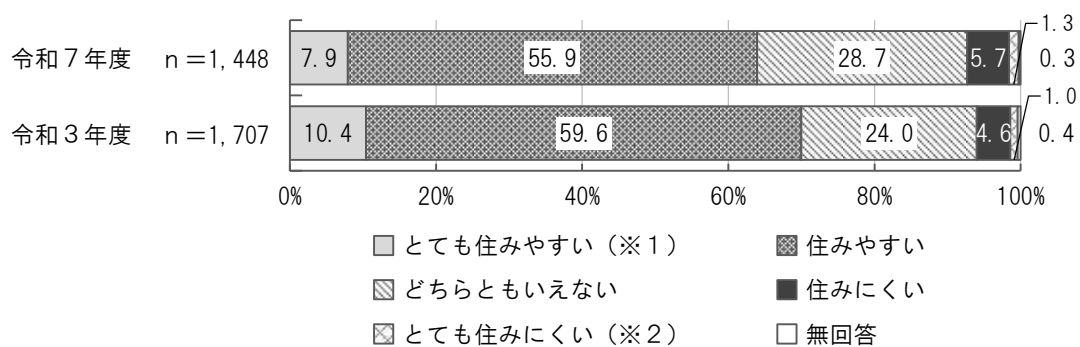


富士市は住みやすい市かについては、『住みやすい』（「とても住みやすい」と「住みやすい」の合計）が63.9%、『住みにくい』（「住みにくい」と「とても住みにくい」の合計）が7.0%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「とても住みやすい」が12.8%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『住みやすい』は20代以下が70.2%と全年代で最も多く、次いで50代が66.7%、70代が66.4%となっている。『住みにくい』は30代が10.9%と全年代で最も多く、次いで40代が10.1%、20代以下が9.5%となっている。

<経年比較>



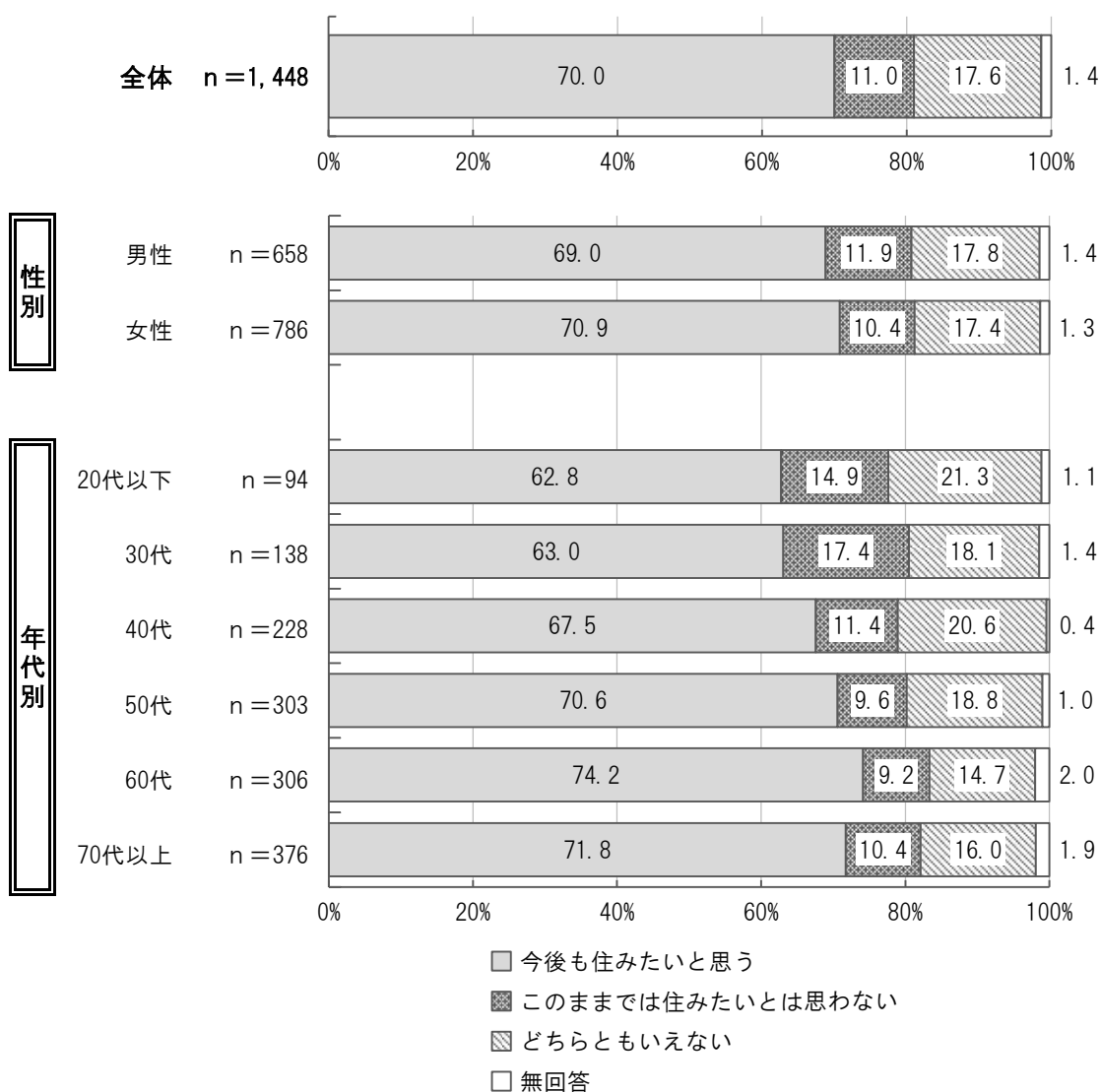
※1 「とても住みやすい」は、令和3年度は「たいへん住みやすい」であった。

※2 「とても住みにくい」は、令和3年度は「たいへん住みにくい」であった。

令和3年度の調査結果と比較すると、「どちらともいえない」が 4.7 ポイント増加している。また、『住みやすい』は 6.1 ポイント減少し、『住みにくい』は 1.4 ポイント増加している。

(2) 今後も富士市に住みたいと思うか

問7 今後も富士市に住みたいと思いますか。次の中からあなたのお気持ちに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

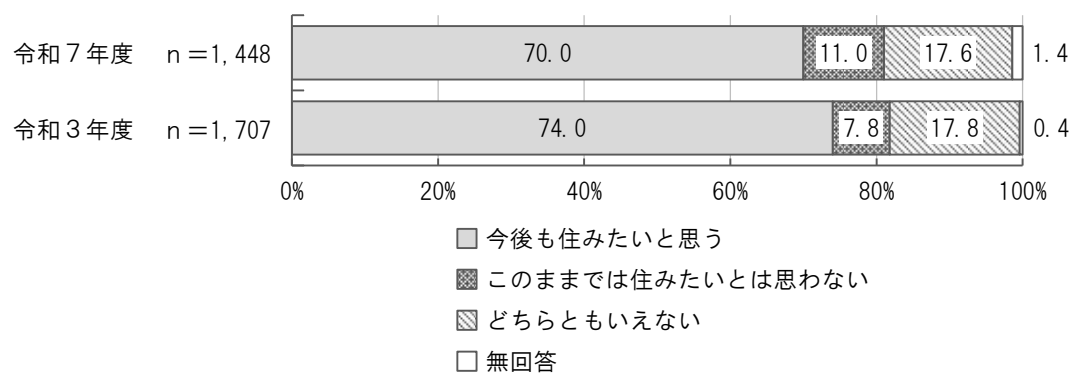


今後も富士市に住みたいと思うかについては、「今後も住みたいと思う」が70.0%、「このままでは住みたいとは思わない」が11.0%、「どちらともいえない」が17.6%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、50代・60代・70代以上において「今後も住みたいと思う」が7割を超えている。また、「このままでは住みたいとは思わない」はおおむね年代が上がるごとに少なくなっている。

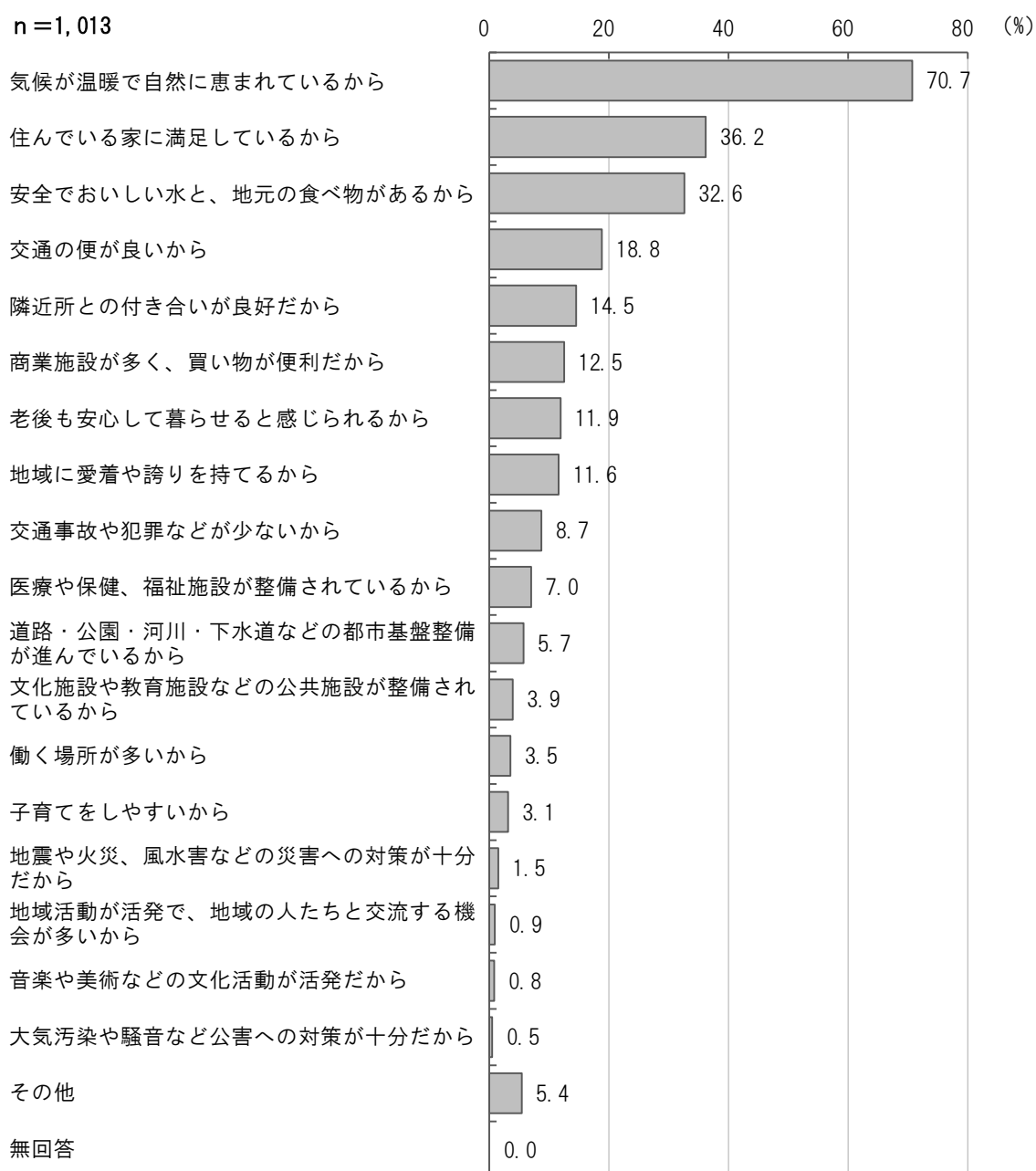
<経年比較>



令和3年度の調査結果と比較すると、「今後も住みたいと思う」が4.0ポイント減少し、「このままでは住みたいとは思わない」が3.2ポイント増加している。

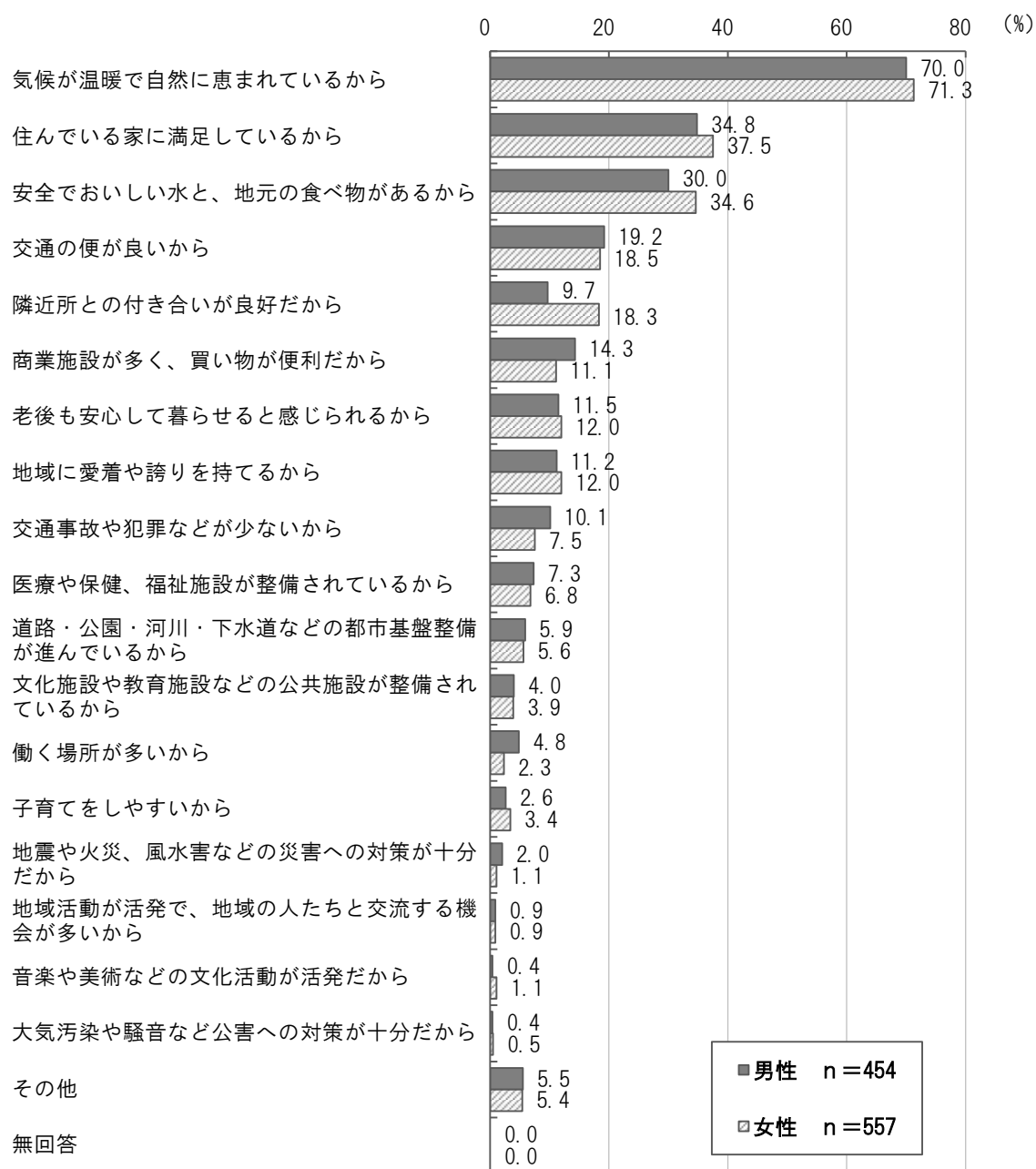
(3) 今後も住みたいと思う理由

■ 問7で「今後も住みたいと思う」と答えた人のみ

問7-1 今後も住みたいと思う理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

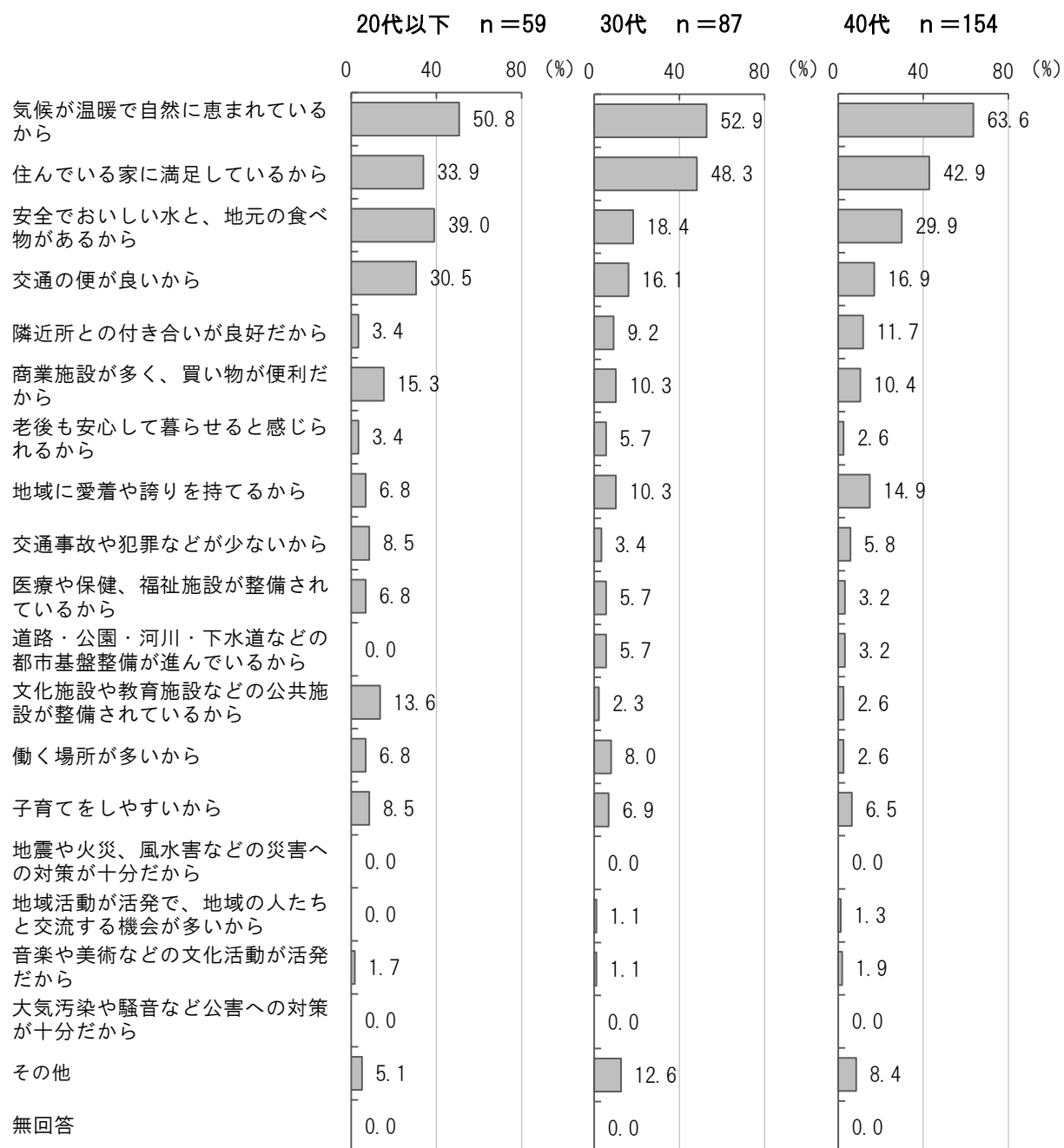
今後も住みたいと思う理由は、「気候が温暖で自然に恵まれているから」が 70.7%と最も多く、次いで「住んでいる家に満足しているから」が 36.2%、「安全でおいしい水と、地元の食べ物があるから」が 32.6%となっている。

<性別>



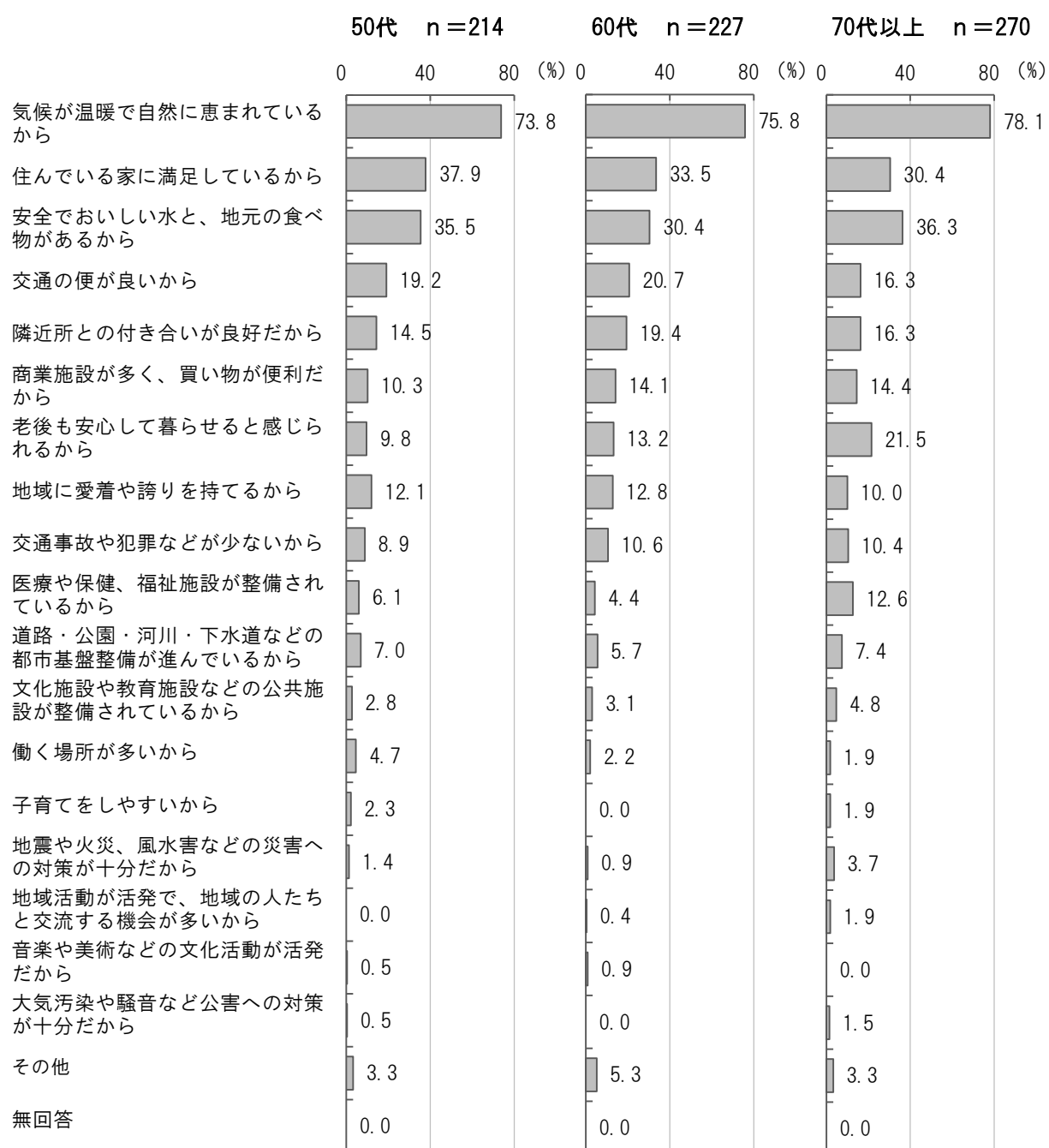
性別で見ると、女性において「隣近所との付き合いが良好だから」が8.6ポイント、「安全でおいしい水と、地元の食べ物があるから」が4.6ポイント、それぞれ男性より多くなっている。

<年代別①>

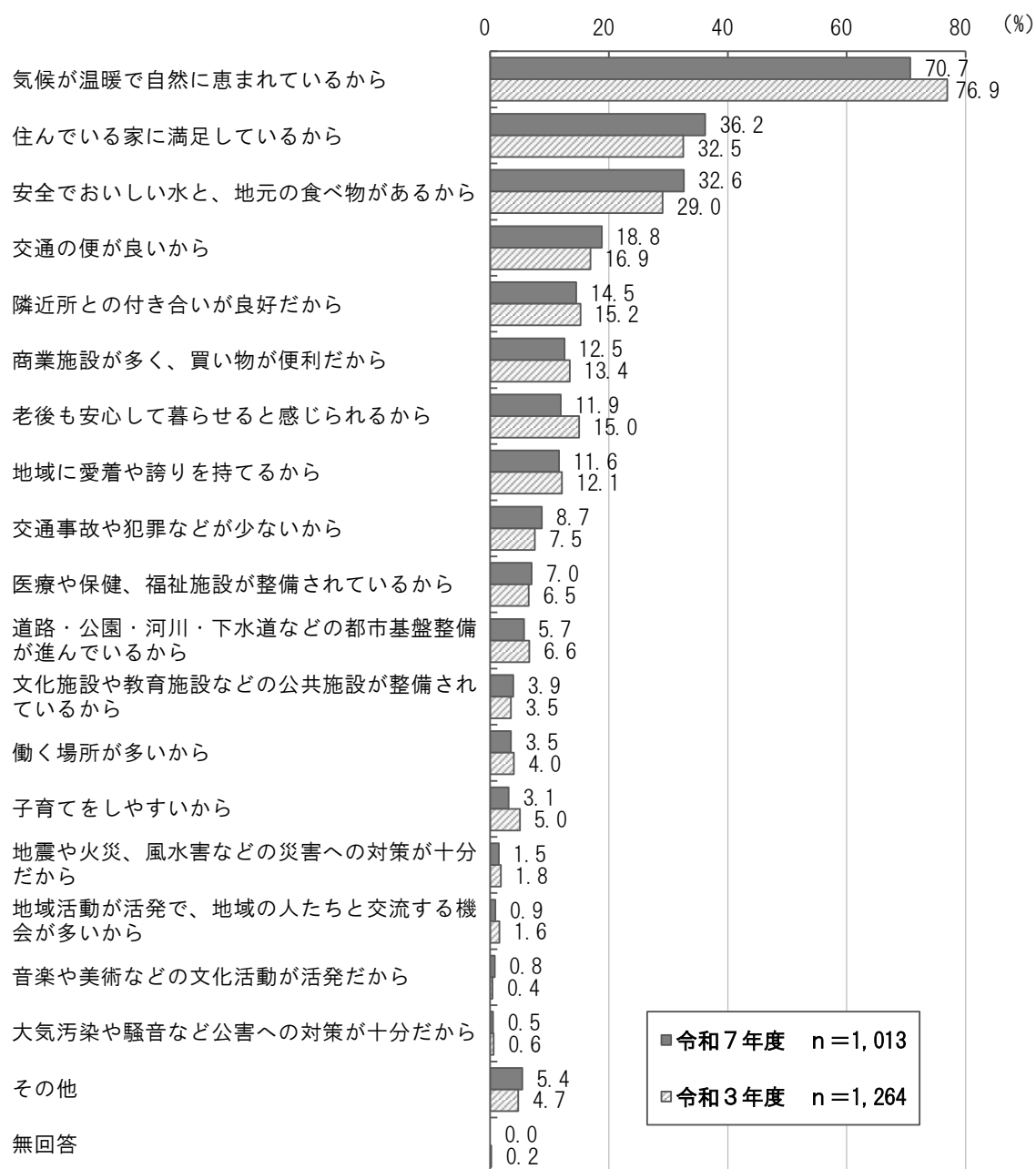


年代別では、20代以下において「交通の便が良いから」「文化施設や教育施設などの公共施設が整備されているから」がほかの年代に比べて多く、「隣近所との付き合いが良好だから」が3.4%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。30代においては「住んでいる家に満足しているから」が48.3%と、ほかの年代に比べて多く、「安全でおいしい水と、地元の食べ物があるから」が18.4%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。また、70代以上においては「老後も安心して暮らせると感じられるから」「医療や保健、福祉施設が整備されているから」がほかの年代に比べて多くなっている。

<年代別②>



<経年比較>

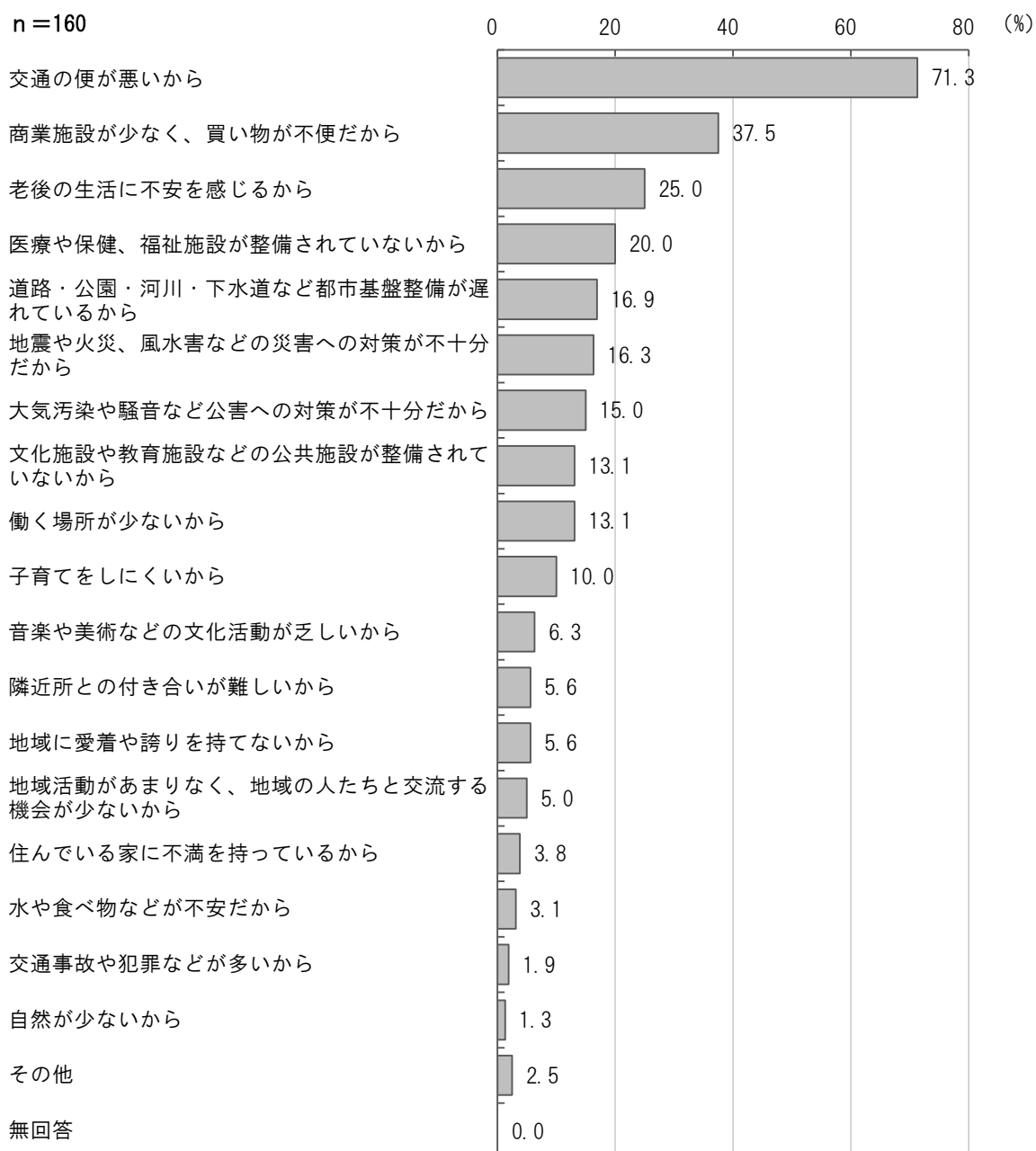


令和 3 年度の調査結果と比較すると、「気候が温暖で自然に恵まれているから」が 6.2 ポイント減少している。

(4) このままでは住みたいと思わない理由

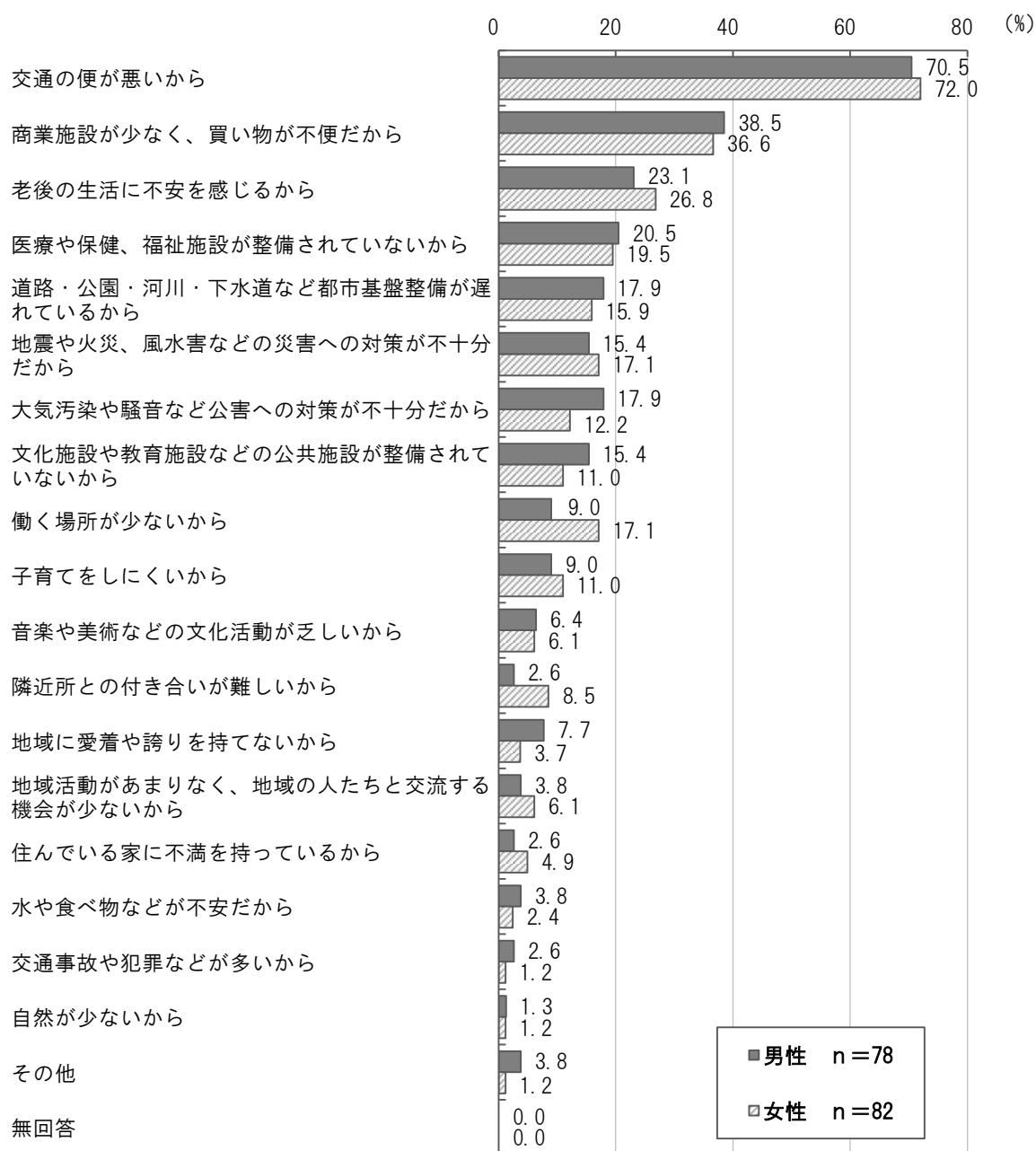
■ 問7で「このままでは住みたいとは思わない」と答えた人のみ

問7-2 このままでは住みたいとは思わない理由は何ですか。次の中から3つ以内で選んで○をつけてください。



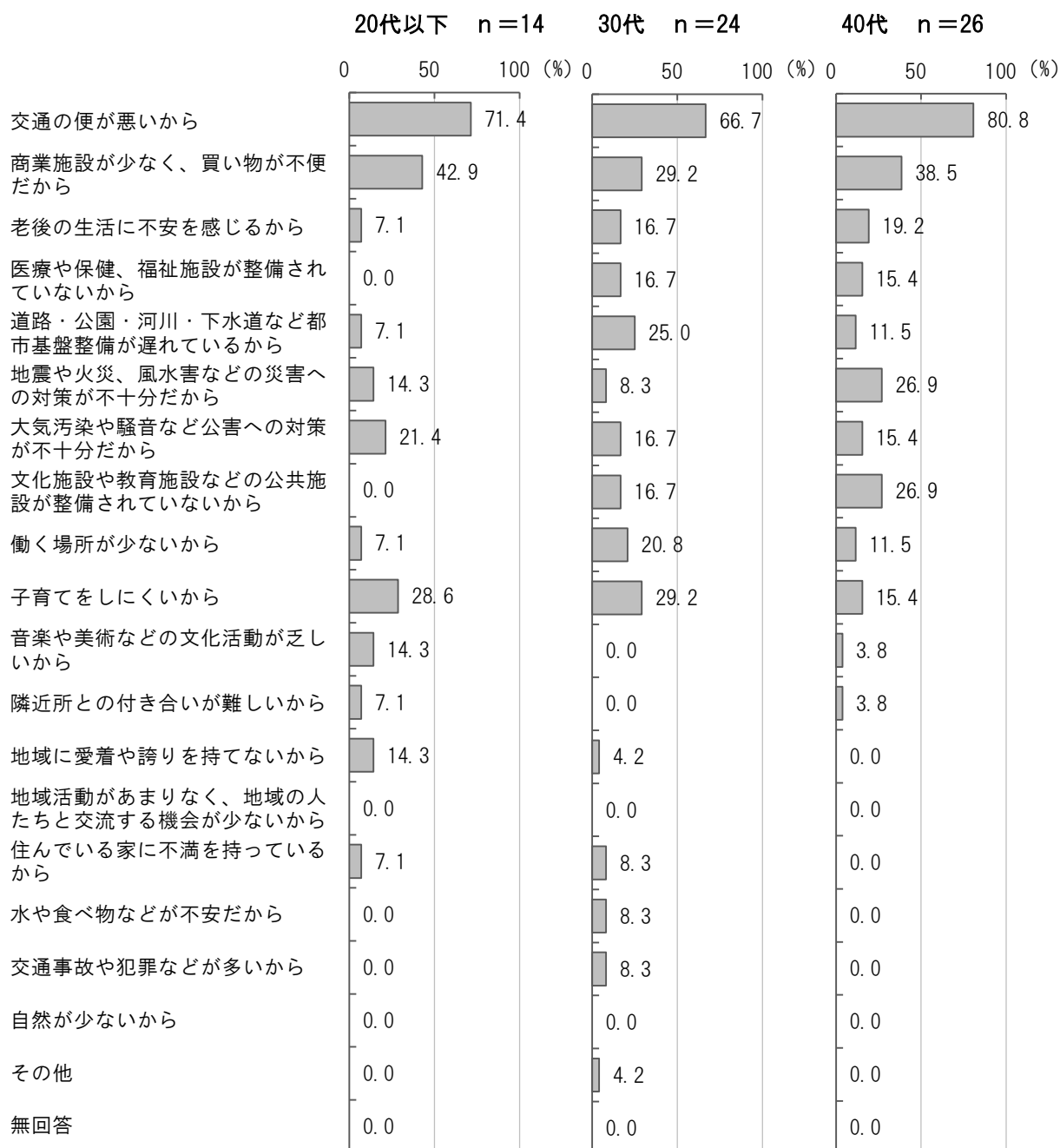
このままでは住みたいと思わない理由は、「交通の便が悪いから」が 71.3%と最も多く、次いで「商業施設が少なく、買い物が不便だから」が 37.5%、「老後の生活に不安を感じるから」が 25.0%となっている。

<性別>



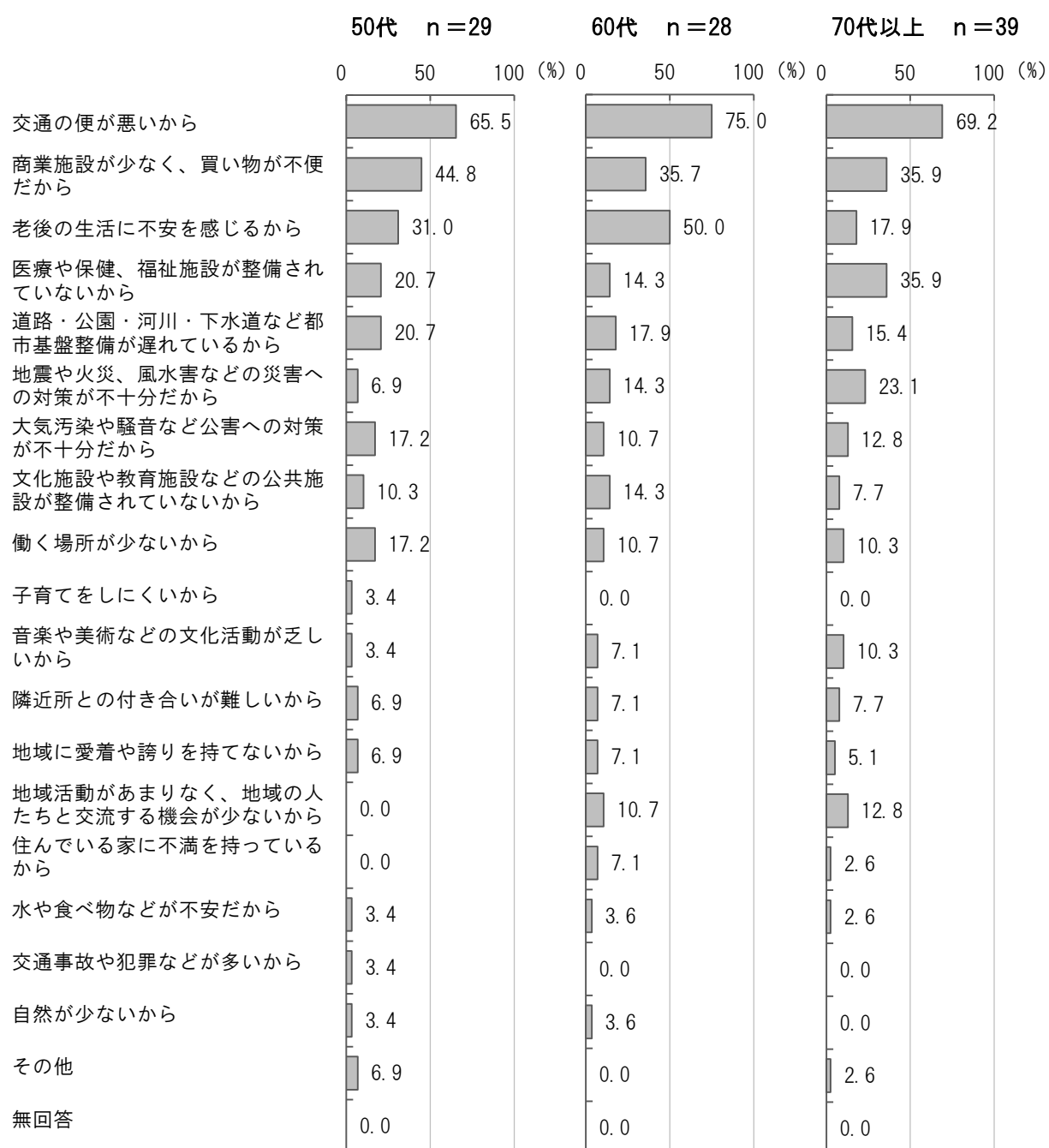
性別で見ると、男性において「大気汚染や騒音など公害への対策が不十分だから」が 17.9%と、女性より 5.7 ポイント多くなっている。女性においては「働く場所が少ないから」が 8.1 ポイント、「隣近所との付き合いが難しいから」が 5.9 ポイント、それぞれ男性より多くなっている。

<年代別①>

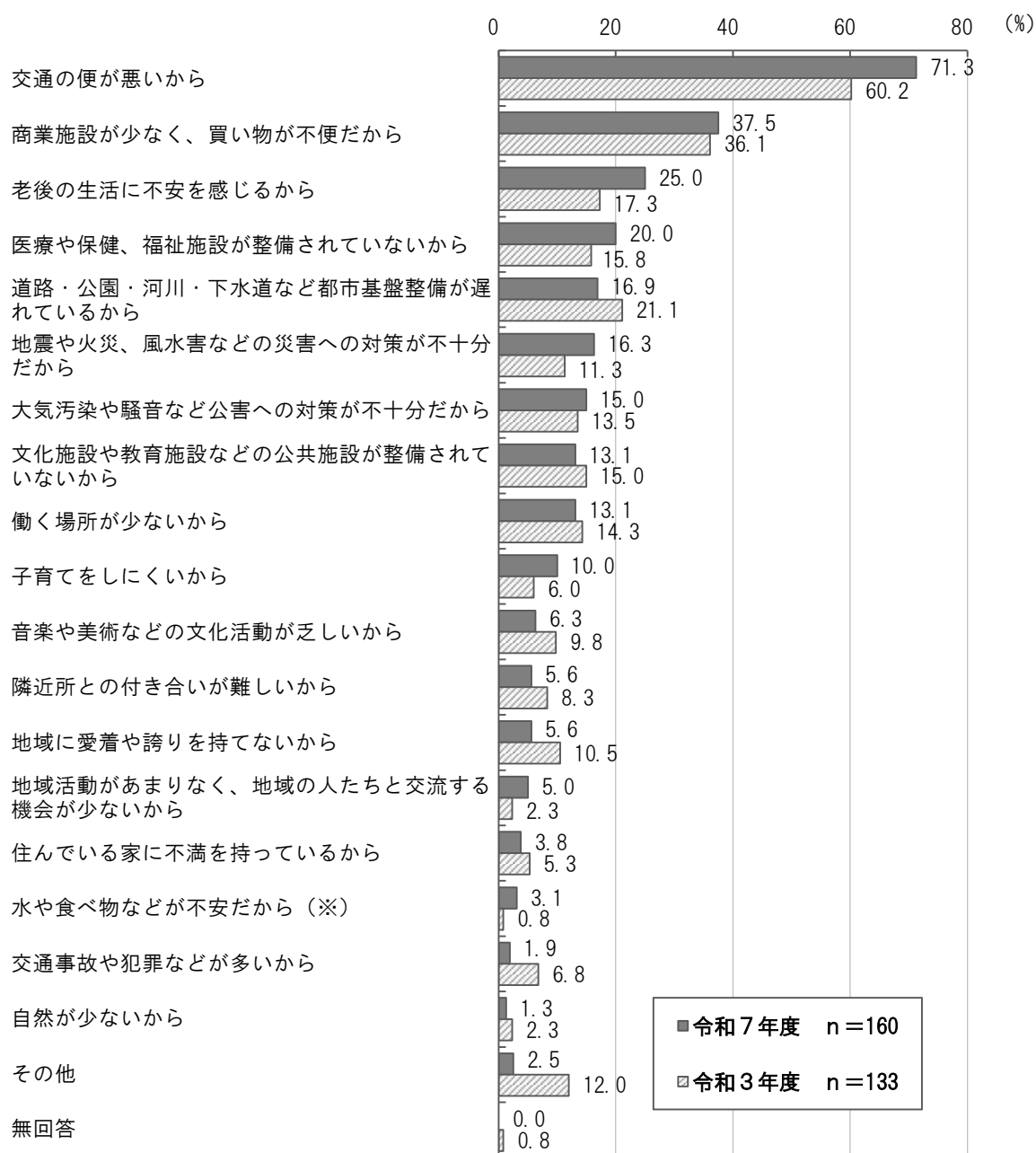


年代別では、20代以下において「地域に愛着や誇りを持ってないから」が14.3%と、ほかの年代に比べて多く、「老後の生活に不安を感じるから」「医療や保健、福祉施設が整備されていないから」「文化施設や教育施設などの公共施設が整備されていないから」がほかの年代に比べて少なくなっている。30代においては「商業施設が少なく、買い物が不便だから」が29.2%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。また、40代においては「交通の便が悪いから」が80.8%、「文化施設や教育施設などの公共施設が整備されていないから」が26.9%と、ほかの年代に比べて多くなっている。60代においては「老後の生活に不安を感じるから」が50.0%と、ほかの年代に比べて多くなっている。さらに、70代以上においては「医療や保健、福祉施設が整備されていないから」が35.9%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

<年代別②>



<経年比較>



※「水や食べ物などが不安だから」は、令和3年度は「水や食べ物などの安全性に不安があるから」であった。

令和3年度の調査結果と比較すると、「交通の便が悪いから」が 10.1 ポイント、「老後の生活に不安を感じるから」が 7.7 ポイント、「地震や火災、風水害などの災害への対策が不十分だから」が 5.0 ポイント、それぞれ増加し、「地域に愛着や誇りを持ってないから」と「交通事故や犯罪などが多いから」がいずれも 4.9 ポイント減少している。

総合計画の各施策の「満足度」「重要度」について

(5) 総合計画の各施策の満足度

問8 「第六次富士市総合計画」では、めざす都市像「富士山とともに 輝く未来を拓くまちふじ」を実現するため、7つの基本目標、27の政策体系を示し、各政策の市民満足度を成果指標の一つに位置づけています。次の各政策について、「現在の富士市についてどう感じているか」、あなたのお気持ちに近いものに1つずつ○をつけてください。

(6) 総合計画の各施策の重要度

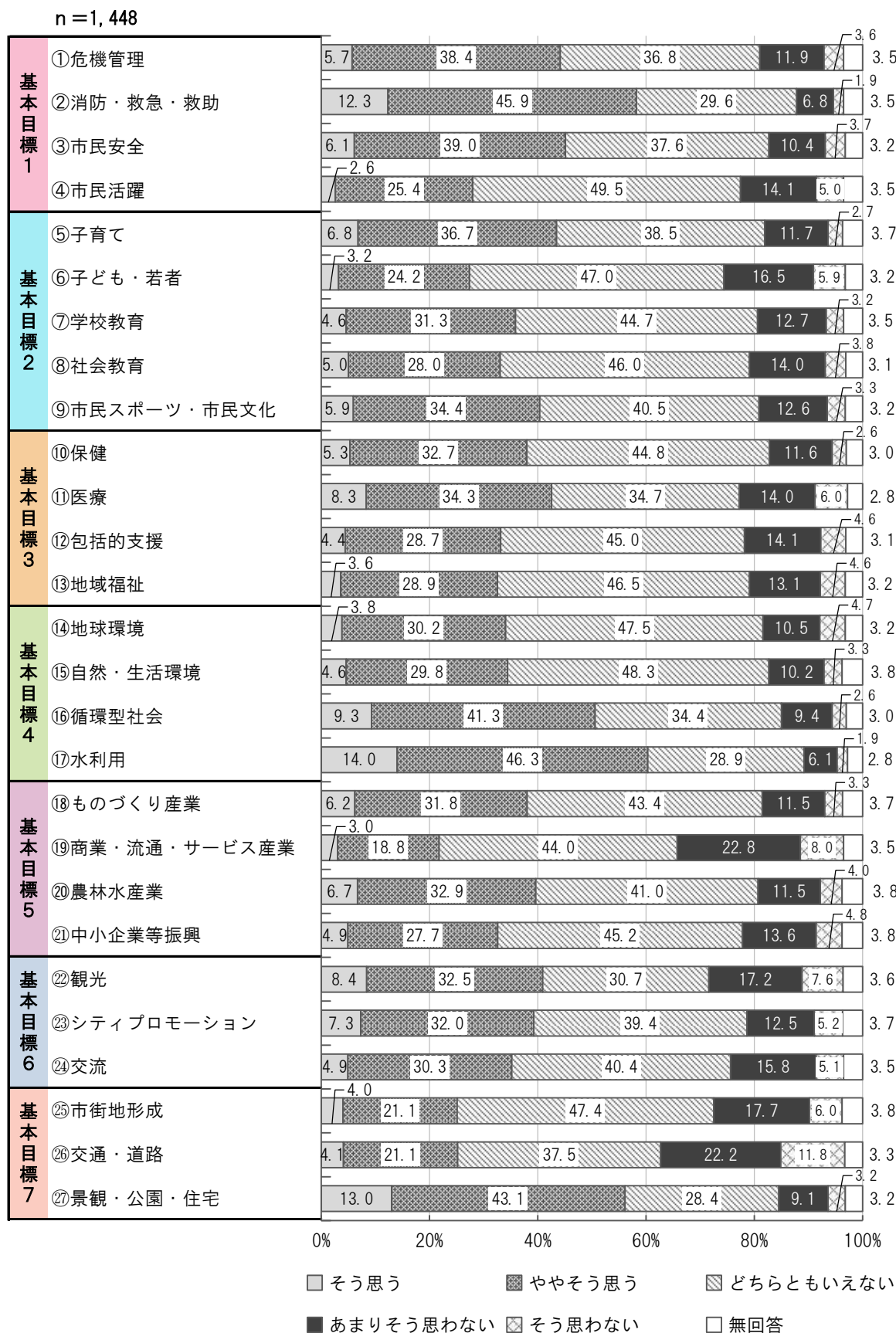
問9 今後、富士市が重点的に取り組むべき分野を把握し、「第六次富士市総合計画後期基本計画」策定の参考とするため、各政策の重要度についてお聞きします。あなたのお気持ちに近いものに1つずつ○をつけてください。

上記の問8・問9は、調査票上では、各施策について「将来のまちの姿」を提示して満足度と重要度を質問していたが、本報告書のグラフや表においては「政策分野」で示すこととする。

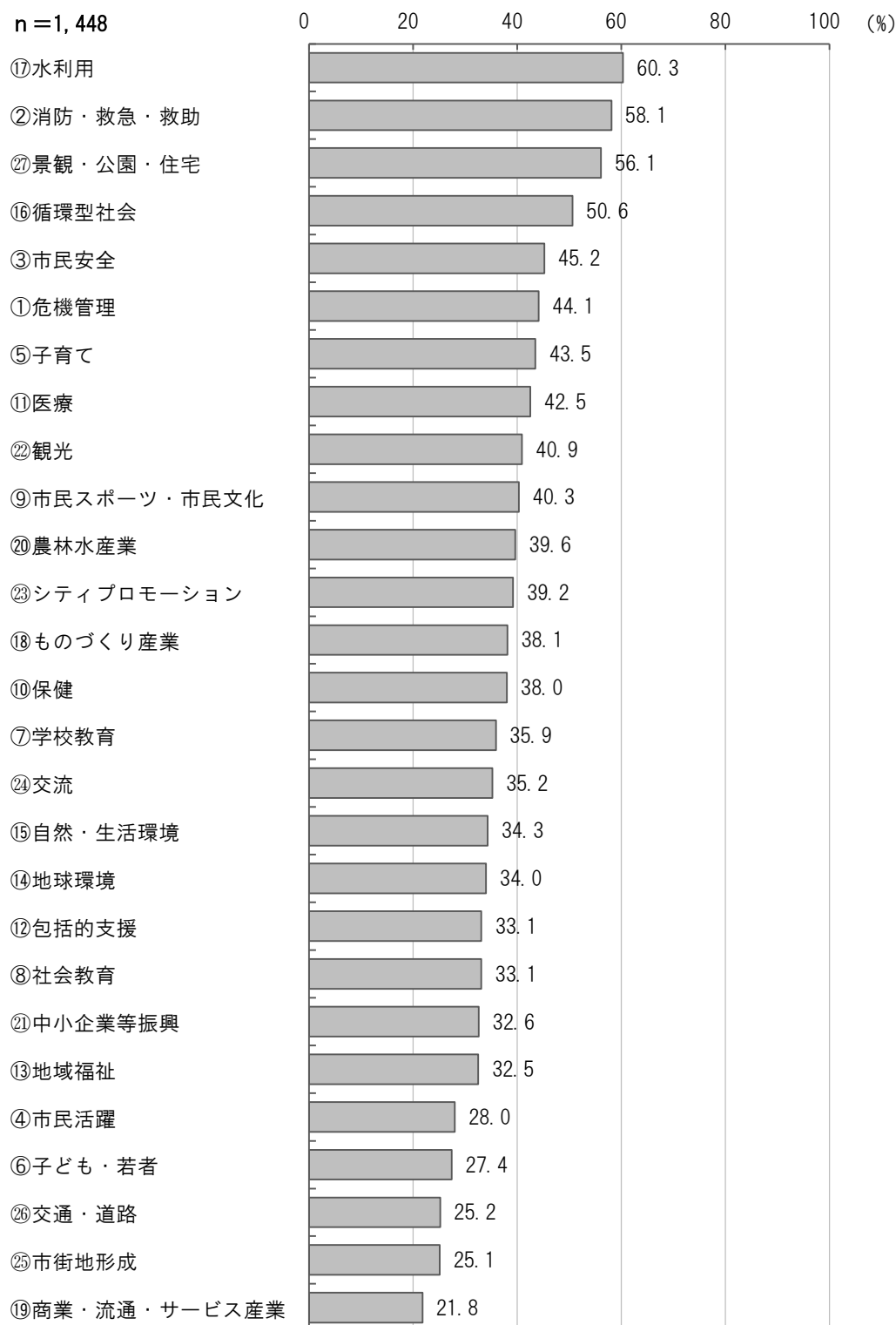
なお、各「政策分野」に対する「将来のまちの姿」は以下の通りである。

政策分野	将来のまちの姿
基本目標1 安心できる暮らしを守るまち	
①危機管理	①地震や風水害などへの備えが充実した 災害に強いまち
②消防・救急・救助	②迅速で的確な消防・救急・救助体制が備わったまち
③市民安全	③犯罪や交通事故のない 安心して生活できるまち
④市民活躍	④市民一人ひとりの個性が活かされ活躍できるまち
基本目標2 次代を担うひとを育むまち	
⑤子育て	⑤安心して子どもを生み 健やかに育てられるまち
⑥子ども・若者	⑥すべての子どもや若者が夢や希望を持ち 大切にされるまち
⑦学校教育	⑦すべての子どもが学びを楽しむことができるまち
⑧社会教育	⑧生涯にわたり学び続け 心豊かに暮らせるまち
⑨市民スポーツ・市民文化	⑨だれもが いつでも いつまでも スポーツと文化に親しめるまち
基本目標3 支え合い健やかに過ごせるまち	
⑩保健	⑩一人ひとりが健康づくりや疾病予防に取り組むまち
⑪医療	⑪安定した医療提供体制のもと 適切な医療が受けられるまち
⑫包括的支援	⑫住み慣れた地域で 一人ひとりの状態に合った支援を受けられるまち
⑬地域福祉	⑬地域で支え合い 助け合い 生きがいを持って暮らせるまち
基本目標4 豊かな環境を保ち継承するまち	
⑭地球環境	⑭地球にやさしい暮らしに みんなで取り組むまち
⑮自然・生活環境	⑮多様な生物と生態系 良好な生活環境を保全していくまち
⑯循環型社会	⑯資源を有効に活用する できる限りごみを出さないまち
⑰水利用	⑰将来にわたり 良好な水環境を育むまち
基本目標5 活力を創り高めるまち	
⑱ものづくり産業	⑱新産業と既存産業の融合により ものづくり産業が持続的に発展するまち
⑲商業・流通・サービス産業	⑲ヒト・モノ・コトがつながり にぎわいがあふれるまち
⑳農林水産業	⑳富士山の豊かな恵みを活かし 活力ある農林水産業が継続するまち
㉑中小企業等振興	㉑中小企業等が地域経済の原動力となり だれもが活躍し続けられるまち
基本目標6 魅力を活かし人と人を繋ぐまち	
㉒観光	㉒「富士山」の魅力が最大限に活用され 観光交流が進むまち
㉓シティプロモーション	㉓魅力や愛着を感じ だれもが住みたくなるまち
㉔交流	㉔国内外から人々が集い 多彩な交流が生まれるまち
基本目標7 快適な暮らしを続けられるまち	
㉕市街地形成	㉕地域特性に応じた 魅力あふれる暮らしやすいまち
㉖交通・道路	㉖だれもが安全に円滑な移動ができる快適なまち
㉗景観・公園・住宅	㉗富士山が映える景観のもと 花と緑があふれ だれもが安心して住めるまち

<各政策分野の満足度>



＜満足度の『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が多い順＞

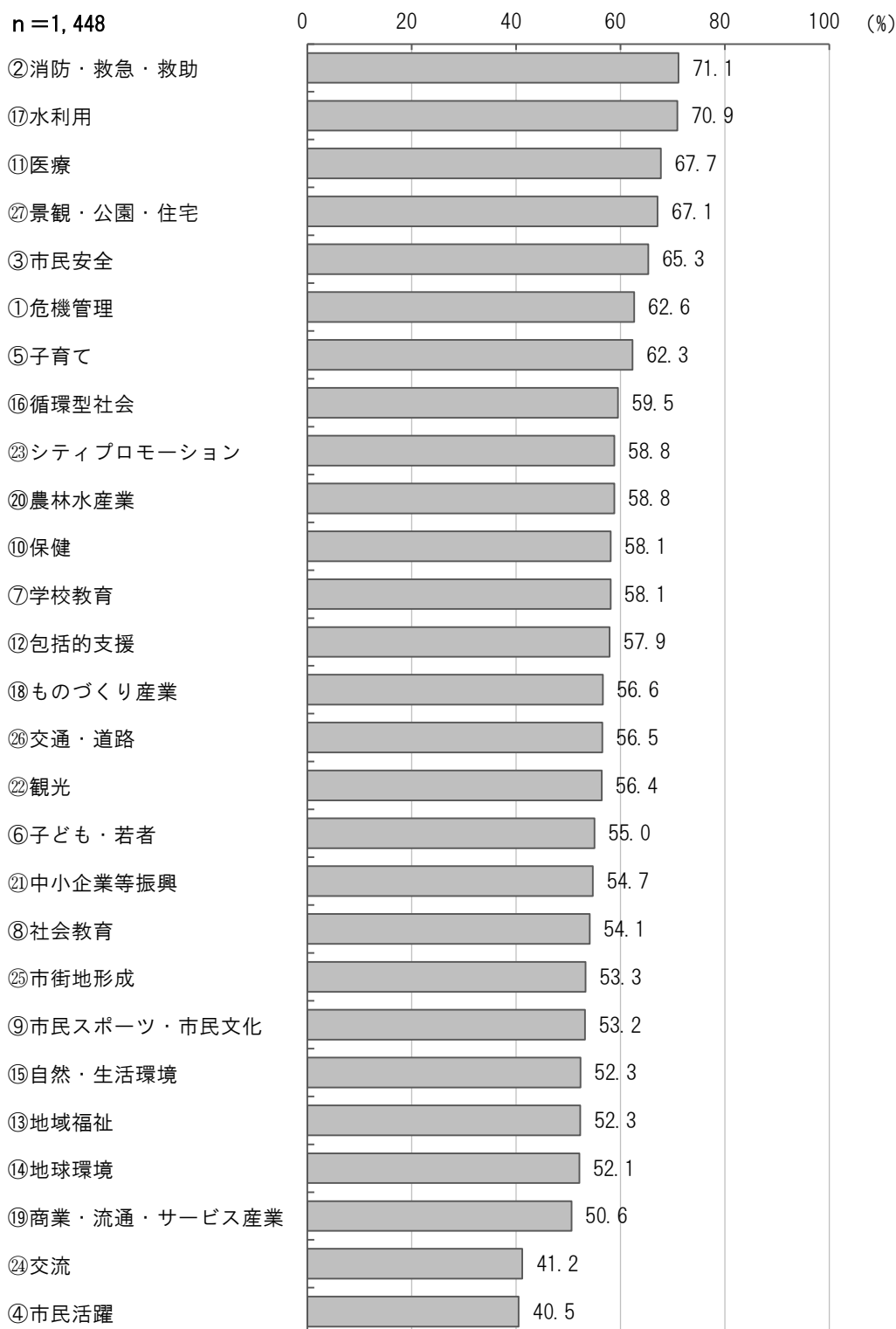


◎多い順に並べ、小数第1位までを表示している。同率の場合は、「そう思う」の割合を比較し、多いほうを上位としている。

<各政策分野の重要度>



＜重要度の『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）の割合が多い順＞



◎多い順に並べ、小数第1位までを表示している。同率の場合は、「そう思う」の割合を比較し、多いほうを上位としている。

満足度・重要度の評価結果

各政策分野の満足度・重要度は、「そう思う」と回答した人を 5 点、「ややそう思う」と回答した人を 4 点、「どちらともいえない」と回答した人を 3 点、「あまりそう思わない」と回答した人を 2 点、「そう思わない」と回答した人を 1 点として算出した値を、回答者数（「無回答」は回答者数に含めない）で割って算出した評価平均点をもとに、評価を行う。また、「そう思う」（5 点）または「ややそう思う」（4 点）と回答した人を高評価者とし、割合を算出する。

評価平均点の大きい政策分野は評価が高く、評価平均点の小さい政策分野は評価が低いことを表している。

回答内容	点数
「そう思う」	5 点
「ややそう思う」	4 点
「どちらともいえない」	3 点
「あまりそう思わない」	2 点
「そう思わない」	1 点
「無回答」	点数加算なし・回答者数にも含まない

■満足度 評価平均点の順位

※小数第 2 位までを表示

順位	基本目標	政策分野	評価平均点
1	4	①水利用	3.66
2	1	②消防・救急・救助	3.62
3	7	⑦景観・公園・住宅	3.55
4	4	⑩循環型社会	3.47
5	1	③市民安全	3.35
6	2	⑤子育て	3.34
7	1	①危機管理	3.32
8	5	⑩農林水産業	3.28
9	2	⑨市民スポーツ・市民文化	3.28
10	3	⑩保健	3.27
11	5	⑧ものづくり産業	3.27
12	3	⑪医療	3.26
13	6	③シティプロモーション	3.24
14	4	⑮自然・生活環境	3.23
15	2	⑦学校教育	3.22
16	4	⑭地球環境	3.19
17	6	②観光	3.18
18	2	⑧社会教育	3.17
19	5	②中小企業等振興	3.15
20	3	⑫包括的支援	3.15
21	6	④交流	3.15
22	3	⑬地域福祉	3.14
23	1	④市民活躍	3.07
24	2	⑥子ども・若者	3.03
25	7	⑤市街地形成	2.99
26	5	⑨商業・流通・サービス産業	2.85
27	7	⑥交通・道路	2.83

■重要度 評価平均点の順位

※小数第2位までを表示

順位	基本目標	政策分野	評価平均点
1	4	⑰水利用	4.02
2	1	②消防・救急・救助	4.00
3	3	⑪医療	3.94
4	7	⑳景観・公園・住宅	3.90
5	1	③市民安全	3.89
6	2	⑤子育て	3.85
7	1	①危機管理	3.84
8	2	⑦学校教育	3.77
9	3	⑫包括的支援	3.74
10	6	㉓シティプロモーション	3.74
11	5	㉔農林水産業	3.74
12	3	⑩保健	3.72
13	4	⑯循環型社会	3.72
14	5	⑱ものづくり産業	3.70
15	7	㉖交通・道路	3.69
16	2	⑥子ども・若者	3.69
17	2	⑧社会教育	3.67
18	5	㉑中小企業等振興	3.65
19	6	㉒観光	3.64
20	7	㉕市街地形成	3.64
21	4	⑮自然・生活環境	3.62
22	2	⑨市民スポーツ・市民文化	3.60
23	3	⑬地域福祉	3.59
24	4	⑭地球環境	3.59
25	5	⑲商業・流通・サービス産業	3.54
26	1	④市民活躍	3.37
27	6	㉔交流	3.34

■満足度 高評価者の割合の順位

※小数第1位までを表示

順位	基本目標	政策分野	割合(%)
1	4	①⑦水利用	60.3
2	1	②消防・救急・救助	58.1
3	7	②⑦景観・公園・住宅	56.1
4	4	①⑥循環型社会	50.6
5	1	③市民安全	45.2
6	1	①危機管理	44.1
7	2	⑤子育て	43.5
8	3	①⑪医療	42.5
9	6	②⑫観光	40.9
10	2	⑨市民スポーツ・市民文化	40.3
11	5	②⑩農林水産業	39.6
12	6	③⑬シティプロモーション	39.2
13	5	①⑧ものづくり産業	38.1
14	3	⑩保健	38.0
15	2	⑦学校教育	35.9
16	6	④⑭交流	35.2
17	4	⑤⑮自然・生活環境	34.3
18	4	④⑭地球環境	34.0
19	3	⑫包括的支援	33.1
20	2	⑧社会教育	33.1
21	5	②⑪中小企業等振興	32.6
22	3	⑬地域福祉	32.5
23	1	④市民活躍	28.0
24	2	⑥子ども・若者	27.4
25	7	②⑥交通・道路	25.2
26	7	⑤市街地形成	25.1
27	5	①⑨商業・流通・サービス産業	21.8

◎同率の場合は、「5点」の割合を比較し、多いほうを上位としている。

■重要度 高評価者の割合の順位

※小数第1位までを表示

順位	基本目標	政策分野	割合 (%)
1	1	②消防・救急・救助	71.1
2	4	⑦水利用	70.9
3	3	⑪医療	67.7
4	7	⑳景観・公園・住宅	67.1
5	1	③市民安全	65.3
6	1	①危機管理	62.6
7	2	⑤子育て	62.3
8	4	⑩循環型社会	59.5
9	6	㉓シティプロモーション	58.8
10	5	㉔農林水産業	58.8
11	3	⑩保健	58.1
12	2	⑦学校教育	58.1
13	3	⑫包括的支援	57.9
14	5	⑱ものづくり産業	56.6
15	7	㉔交通・道路	56.5
16	6	㉒観光	56.4
17	2	⑥子ども・若者	55.0
18	5	㉑中小企業等振興	54.7
19	2	⑧社会教育	54.1
20	7	㉕市街地形成	53.3
21	2	⑨市民スポーツ・市民文化	53.2
22	4	⑮自然・生活環境	52.3
23	3	⑬地域福祉	52.3
24	4	⑭地球環境	52.1
25	5	⑲商業・流通・サービス産業	50.6
26	6	㉒交流	41.2
27	1	④市民活躍	40.5

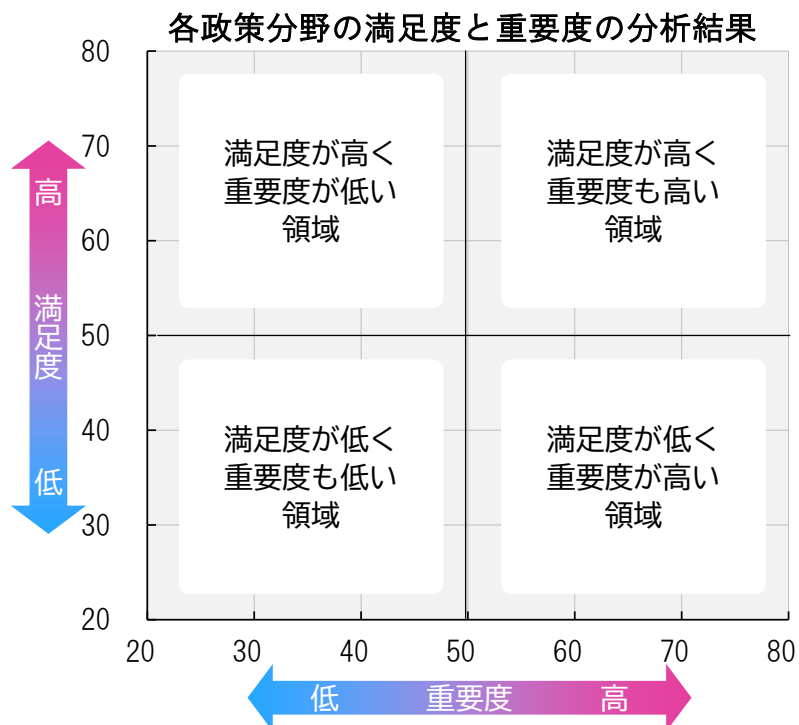
◎同率の場合は、「5点」の割合を比較し、多いほうを上位としている。

■各政策分野の満足度・重要度の評価平均点及び高評価者の割合と順位

※評価平均点は小数第2位まで、高評価者の割合は小数第1位までを表示

政策分野	満足度				重要度			
	評価 平均点	順位	高評価者 の割合 (%)	順位	評価 平均点	順位	高評価者 の割合 (%)	順位
基本目標1 安心できる暮らしを守るまち								
①危機管理	3.32	7	44.1	6	3.84	7	62.6	6
②消防・救急・救助	3.62	2	58.1	2	4.00	2	71.1	1
③市民安全	3.35	5	45.2	5	3.89	5	65.3	5
④市民活躍	3.07	23	28.0	23	3.37	26	40.5	27
基本目標2 次代を担うひとを育むまち								
⑤子育て	3.34	6	43.5	7	3.85	6	62.3	7
⑥子ども・若者	3.03	24	27.4	24	3.69	16	55.0	17
⑦学校教育	3.22	15	35.9	15	3.77	8	58.1	12
⑧社会教育	3.17	18	33.1	20	3.67	17	54.1	19
⑨市民スポーツ・市民文化	3.28	9	40.3	10	3.60	22	53.2	21
基本目標3 支え合い健やかに過ごせるまち								
⑩保健	3.27	10	38.0	14	3.72	12	58.1	11
⑪医療	3.26	12	42.5	8	3.94	3	67.7	3
⑫包括的支援	3.15	20	33.1	19	3.74	9	57.9	13
⑬地域福祉	3.14	22	32.5	22	3.59	23	52.3	23
基本目標4 豊かな環境を保ち継承するまち								
⑭地球環境	3.19	16	34.0	18	3.59	24	52.1	24
⑮自然・生活環境	3.23	14	34.3	17	3.62	21	52.3	22
⑯循環型社会	3.47	4	50.6	4	3.72	13	59.5	8
⑰水利用	3.66	1	60.3	1	4.02	1	70.9	2
基本目標5 活力を創り高めるまち								
⑱ものづくり産業	3.27	11	38.1	13	3.70	14	56.6	14
⑲商業・流通・サービス産業	2.85	26	21.8	27	3.54	25	50.6	25
⑳農林水産業	3.28	8	39.6	11	3.74	11	58.8	10
㉑中小企業等振興	3.15	19	32.6	21	3.65	18	54.7	18
基本目標6 魅力を活かし人と人を繋ぐまち								
㉒観光	3.18	17	40.9	9	3.64	19	56.4	16
㉓シティプロモーション	3.24	13	39.2	12	3.74	10	58.8	9
㉔交流	3.15	21	35.2	16	3.34	27	41.2	26
基本目標7 快適な暮らしを続けられるまち								
㉕市街地形成	2.99	25	25.1	26	3.64	20	53.3	20
㉖交通・道路	2.83	27	25.2	25	3.69	15	56.5	15
㉗景観・公園・住宅	3.55	3	56.1	3	3.90	4	67.1	4

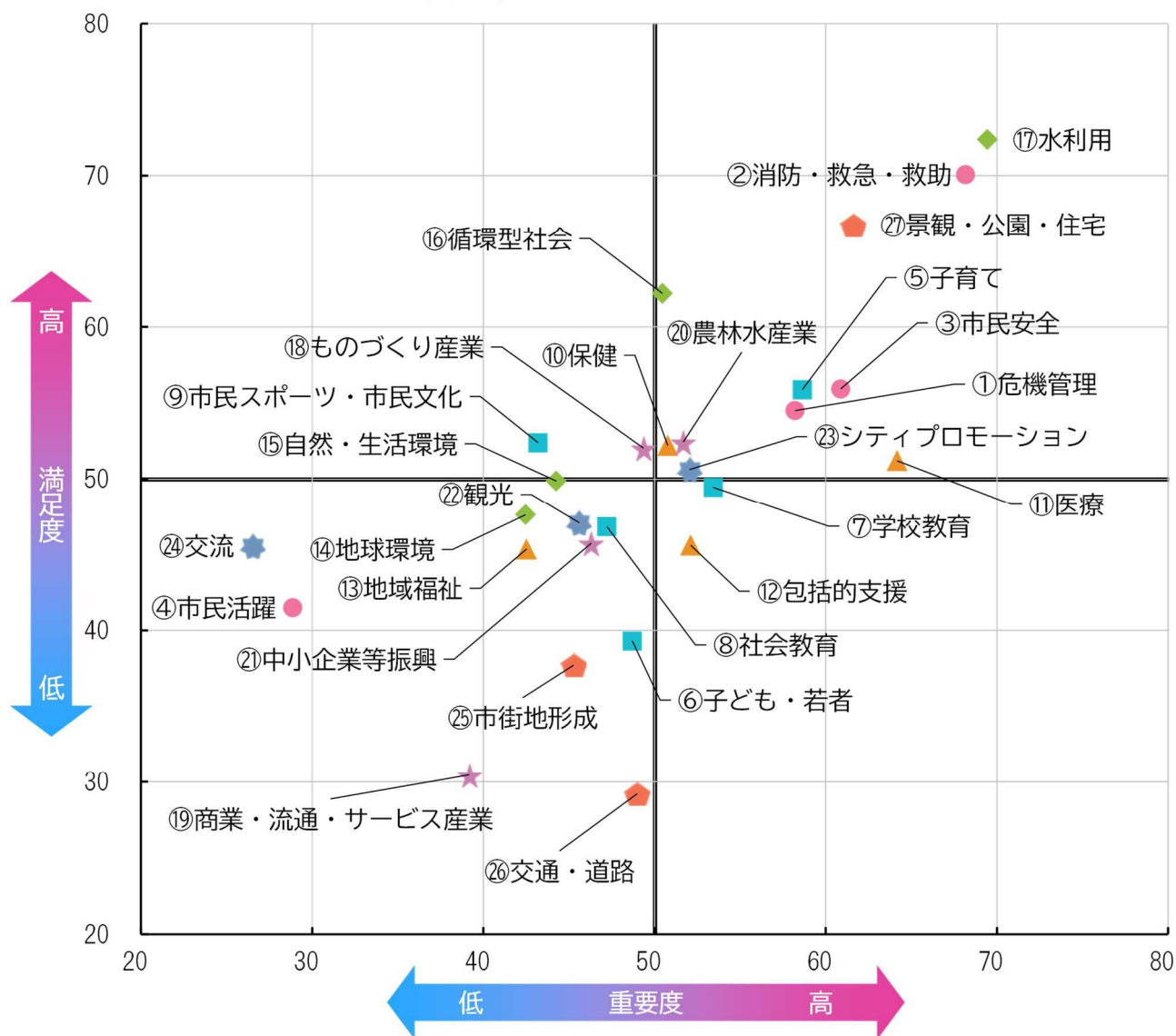
また、各政策分野の評価平均点について、縦軸に満足度、横軸に重要度をとって偏差値を散布図で表した場合、以下の図のように、偏差値 50 を中心として 4 つの領域に分け、評価を見ることができる。



■ 4つの領域別に見た政策分野

満足度	重要度	基本 目標	政策分野	偏差値	
				満足度	重要度
高い	高い	1	①危機管理	54.5	58.2
		1	②消防・救急・救助	70.1	68.2
		1	③市民安全	55.9	60.9
		2	⑤子育て	55.9	58.6
		3	⑩保健	52.2	50.8
		3	⑪医療	51.2	64.2
		4	⑯循環型社会	62.2	50.5
		4	⑰水利用	72.4	69.4
		5	⑳農林水産業	52.4	51.7
		6	㉓シティプロモーション	50.6	52.0
		7	㉗景観・公園・住宅	66.7	61.6
	低い	2	⑨市民スポーツ・市民文化	52.4	43.2
		5	⑱ものづくり産業	52.1	49.4
低い	高い	2	⑦学校教育	49.5	53.4
		3	⑫包括的支援	45.6	52.1
	低い	1	④市民活躍	41.5	28.9
		2	⑥子ども・若者	39.3	48.7
		2	⑧社会教育	46.8	47.2
		3	⑬地域福祉	45.4	42.5
		4	⑭地球環境	47.6	42.5
		4	⑮自然・生活環境	49.9	44.3
		5	⑲商業・流通・サービス産業	30.4	39.2
		5	㉑中小企業等振興	45.7	46.3
		6	㉒観光	47.1	45.6
		6	㉔交流	45.6	26.5
		7	㉕市街地形成	37.7	45.3
		7	㉖交通・道路	29.2	49.0

各政策分野の満足度と重要度の分析結果



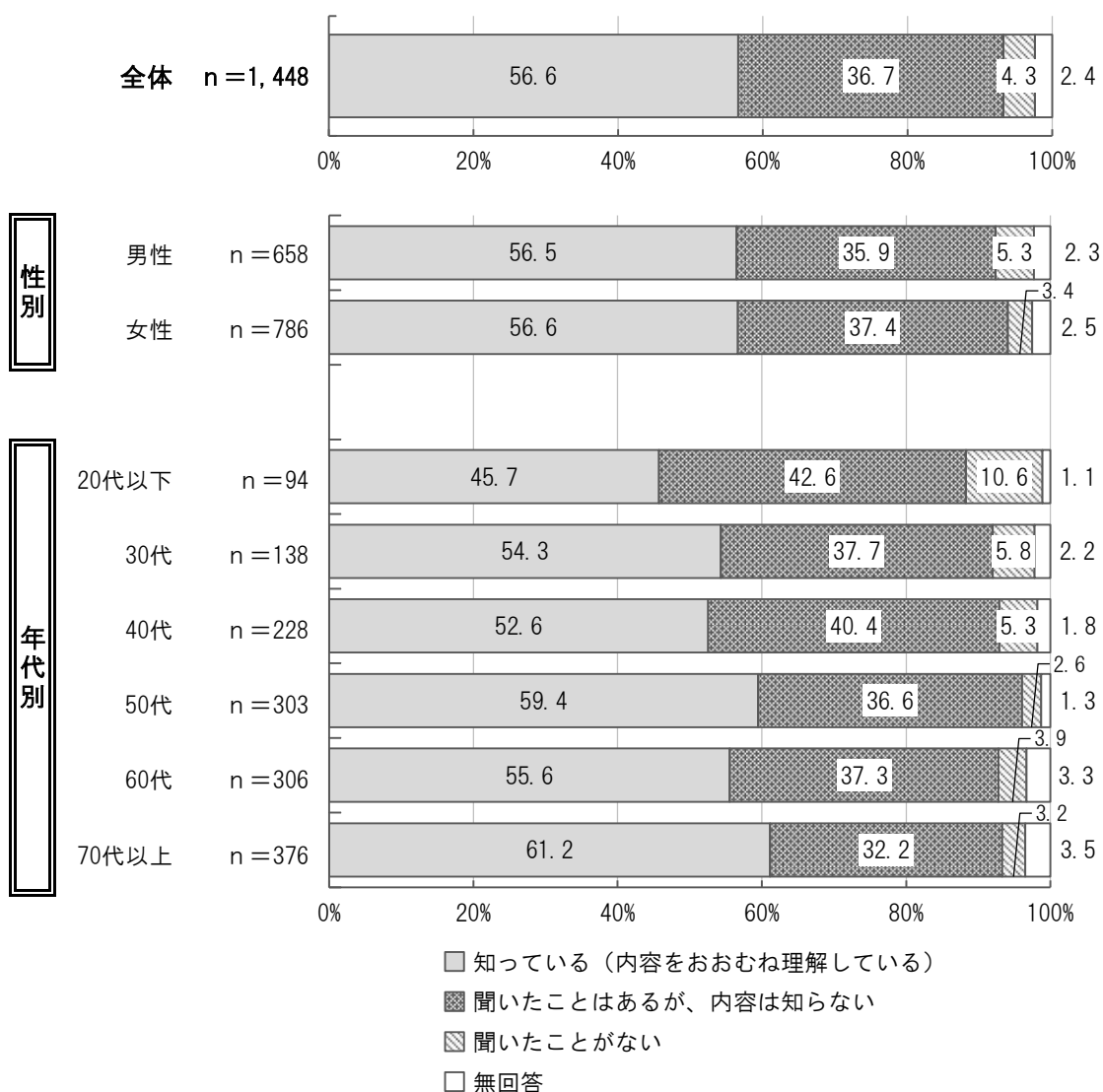
【凡例】

- 基本目標1 安心できる暮らしを守るまち
- 基本目標2 次代を担うひとを育むまち
- ▲ 基本目標3 支え合い健やかに過ごせるまち
- ◆ 基本目標4 豊かな環境を保ち継承するまち
- ★ 基本目標5 活力を創り高めるまち
- ★ 基本目標6 魅力を活かし人と人を繋ぐまち
- ◆ 基本目標7 快適な暮らしを続けられるまち

■「わが家の防災対策・災害時の情報伝達」について

(7)「南海トラフ地震臨時情報」の認知度

問11 「南海トラフ地震臨時情報」について知っていますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。



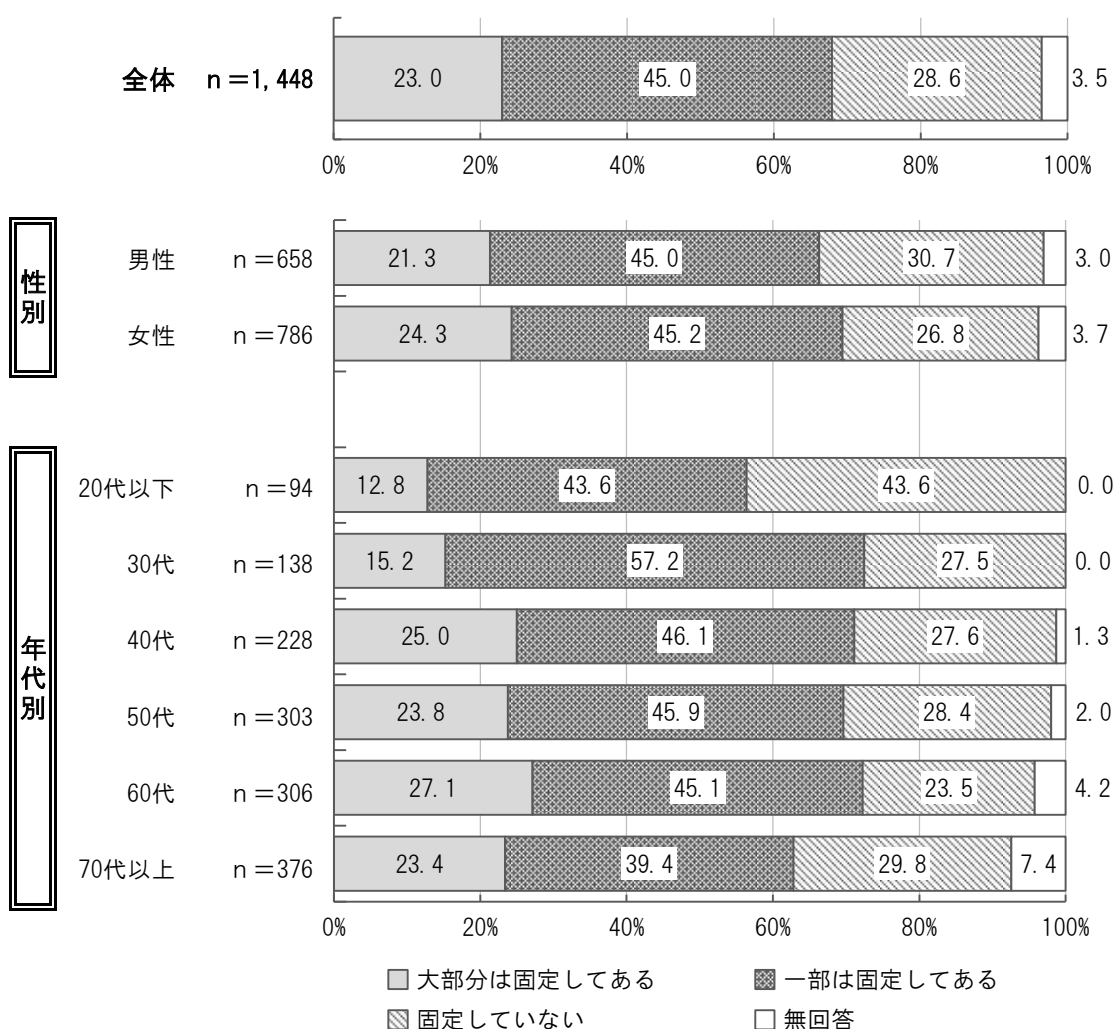
「南海トラフ地震臨時情報」の認知度は、「知っている（内容をおおむね理解している）」が56.6%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が36.7%、「聞いたことがない」が4.3%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「知っている（内容をおおむね理解している）」が45.7%とほかの年代に比べて少なく、5割を下回っている。また、「聞いたことがない」が10.6%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

(8) 大地震に備えて「家具・家電の固定」をしているか

問12 あなたの自宅では、大地震に備えて「家具・家電の固定」をしていますか。次の中から
1つだけ選んで○をつけてください。

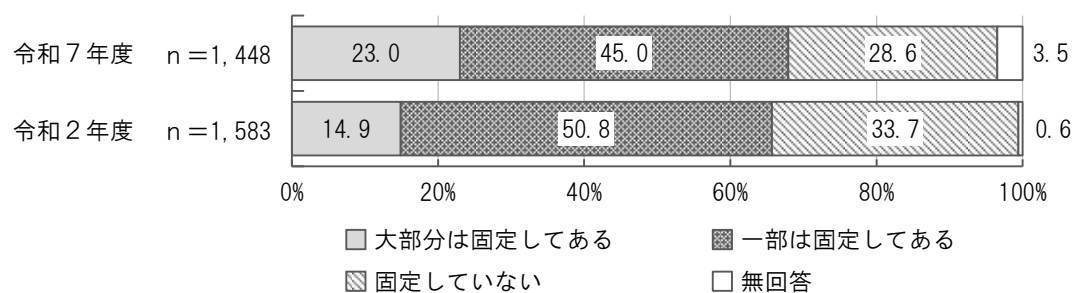


大地震に備えて「家具・家電の固定」をしているかについては、「大部分は固定してある」が23.0%、「一部は固定してある」が45.0%、「固定していない」が28.6%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「固定していない」が43.6%と、3割以下となったほかの年代に比べて多く、4割を超えている。40代・50代・70代において、「大部分は固定してある」は25%程度となっているが、20代以下・30代は2割以下となっている。30代においては「一部は固定してある」が57.2%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

<経年比較>

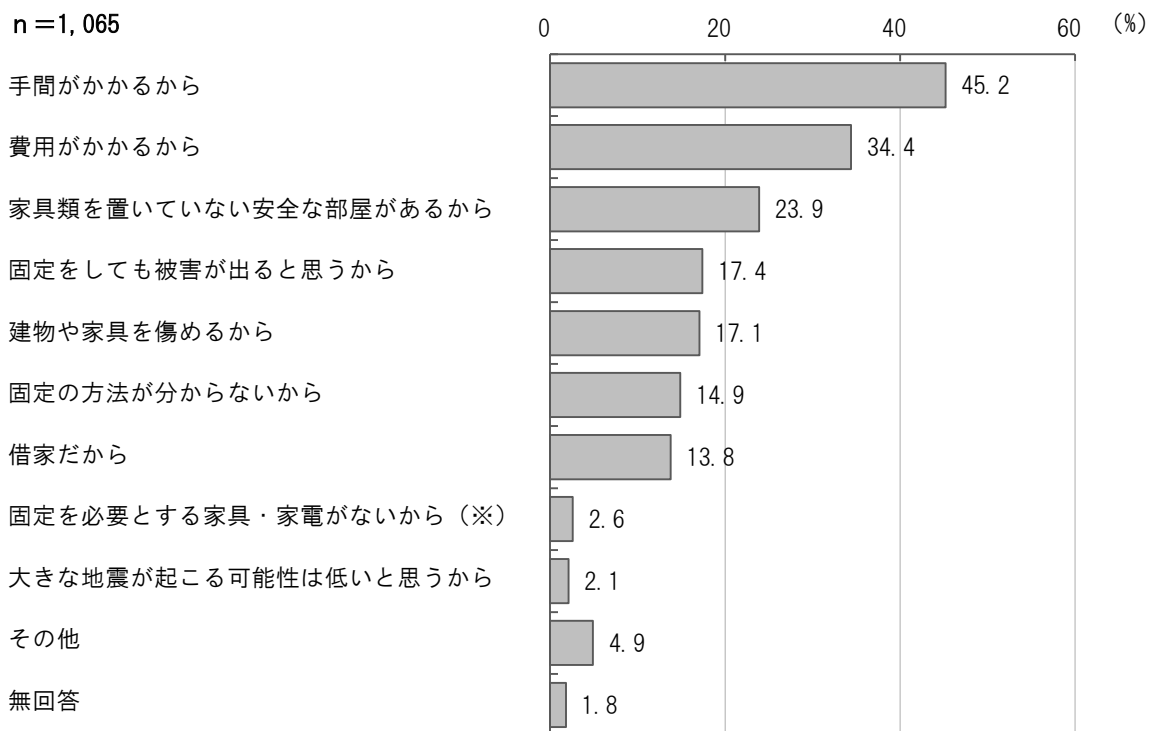


令和2年度の調査結果と比較すると、「大部分は固定してある」が8.1ポイント増加し、「一部は固定してある」「固定していない」がそれぞれ5ポイント以上減少している。

(9) 「家具・家電の固定」をしていない理由

■ 問 12 で「一部は固定してある」「固定していない」と答えた人のみ

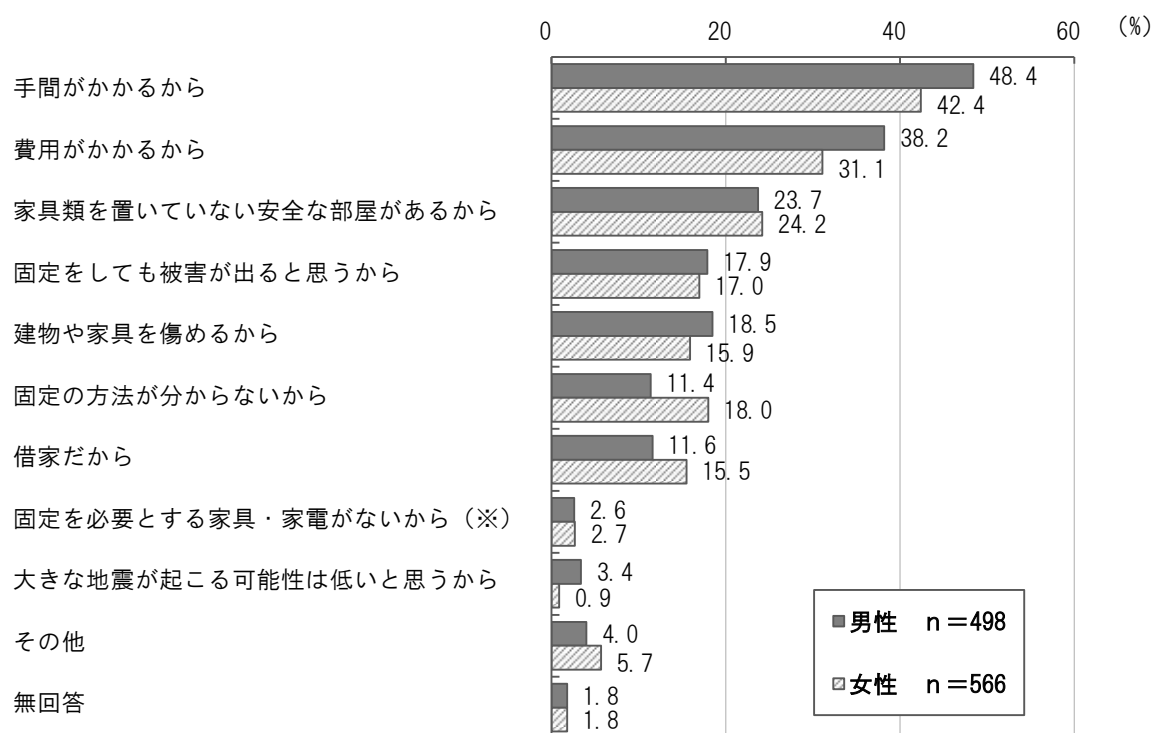
問12－1 「家具・家電の固定」をしていないのは、どのような理由からですか。次の中から
主な理由を3つ以内で選んで○をつけてください。



※「固定を必要とする家具・家電がないから」は、調査票上の選択肢にはなかったが、「その他」の具体的な記入の中で特に多かったため、「その他」から抜き出して集計している。

「家具・家電の固定」をしていない理由は、「手間がかかるから」が 45.2%と最も多く、次いで「費用がかかるから」が 34.4%、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が 23.9%となっている。

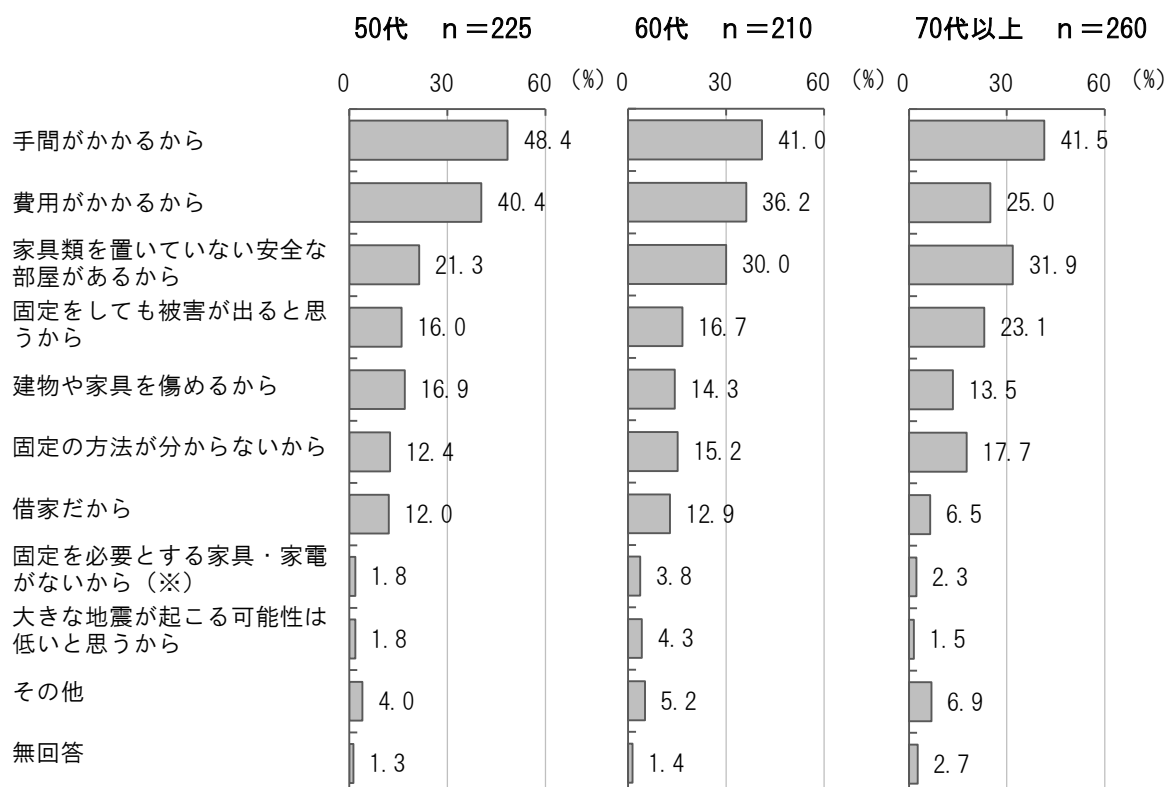
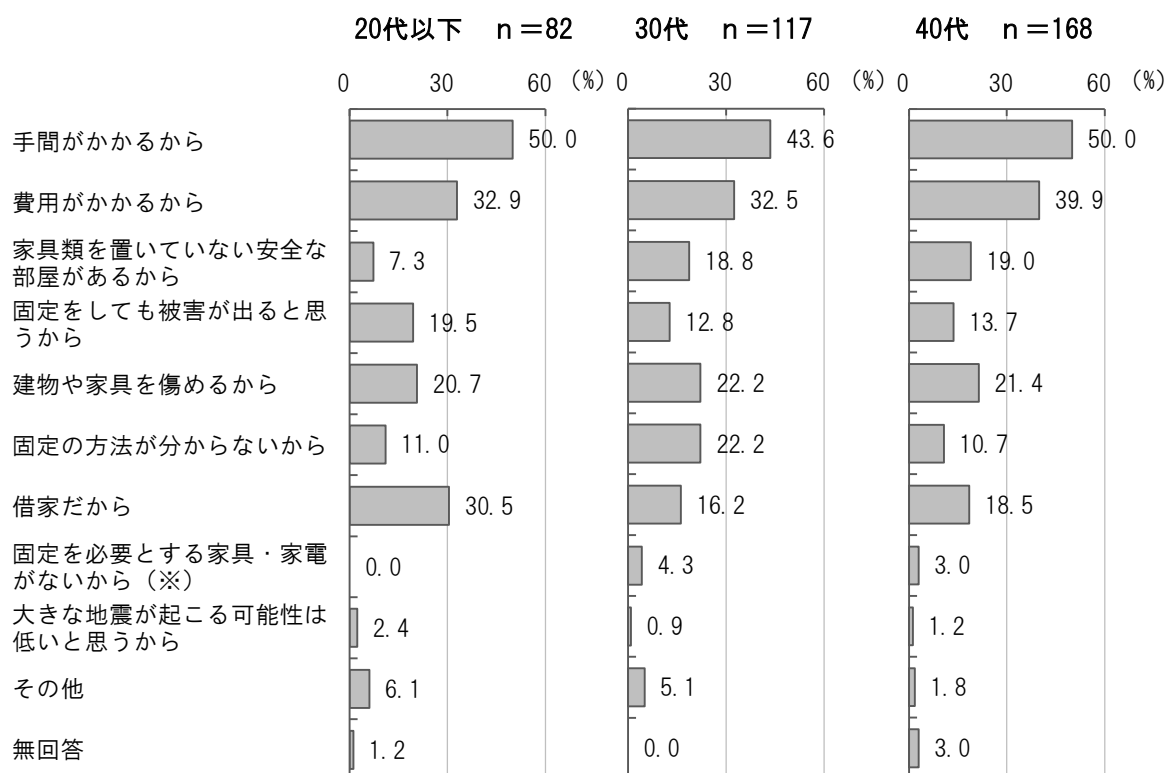
<性別>



※「固定を必要とする家具・家電がないから」は、調査票上の選択肢にはなかったが、「その他」の具体的な記入の中で特に多かったため、「その他」から抜き出して集計している。

性別で見ると、男性において「費用がかかるから」が7.1ポイント、「手間がかかるから」が6.0ポイント、それぞれ女性より多くなっている。女性においては「固定の方法が分からないから」が18.0%と、男性より6.6ポイント多くなっている。

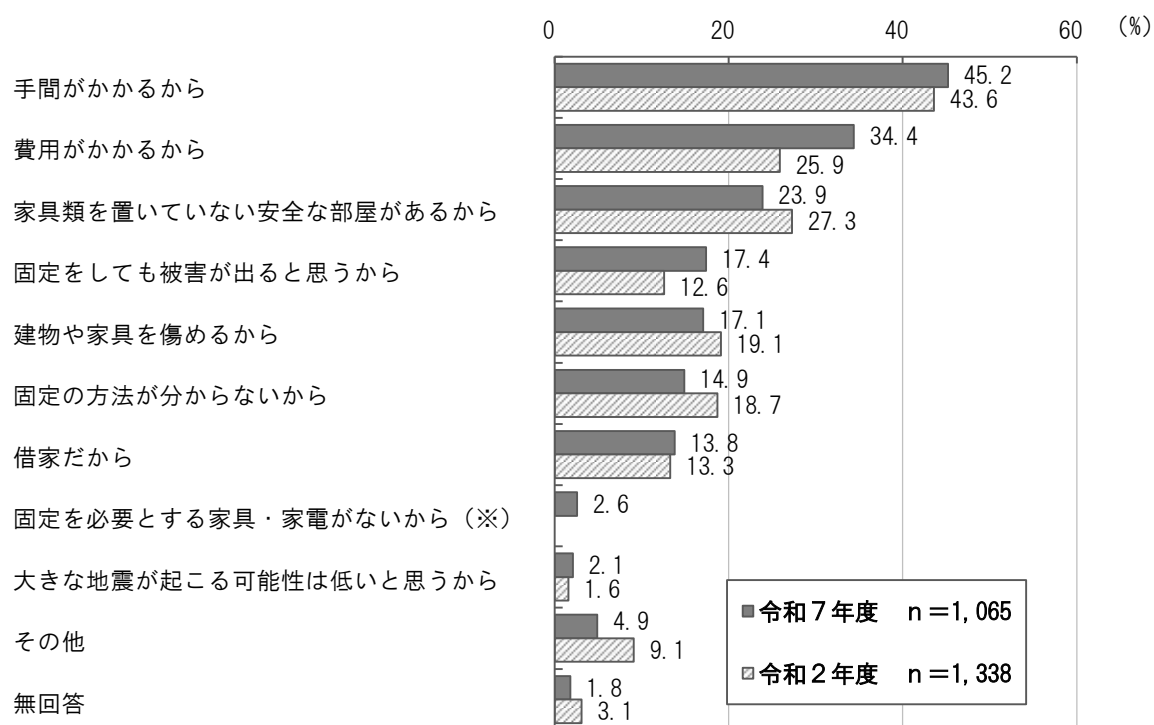
<年代別>



※「固定を必要とする家具・家電がないから」は、調査票上の選択肢にはなかったが、「その他」の具体的な記入の中で特に多かったため、「その他」から抜き出して集計している。

年代別では、20代以下において「借家だから」が30.5%と、ほかの年代に比べて多く、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が7.3%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。70代以上においては「費用がかかるから」が25.0%、「借家だから」が6.5%と、それぞれほかの年代に比べて少なくなっている。

＜経年比較＞

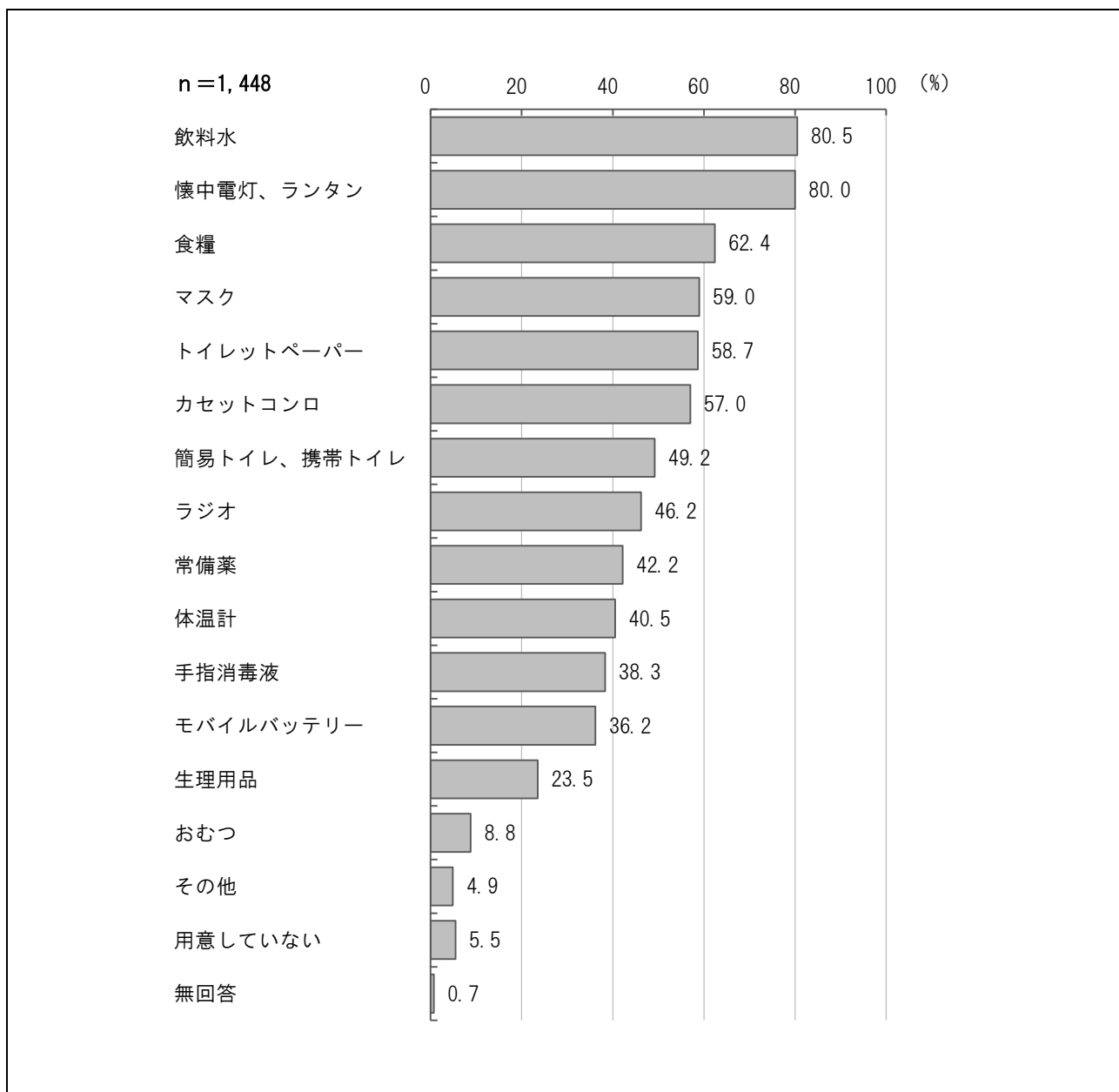


※「固定を必要とする家具・家電がないから」は、調査票上の選択肢にはなかったが、「その他」の具体的な記入の中で特に多かったため、「その他」から抜き出して集計している（令和7年度のみ）。

令和2年度の調査結果と比較すると、「費用がかかるから」が8.5ポイント増加している。

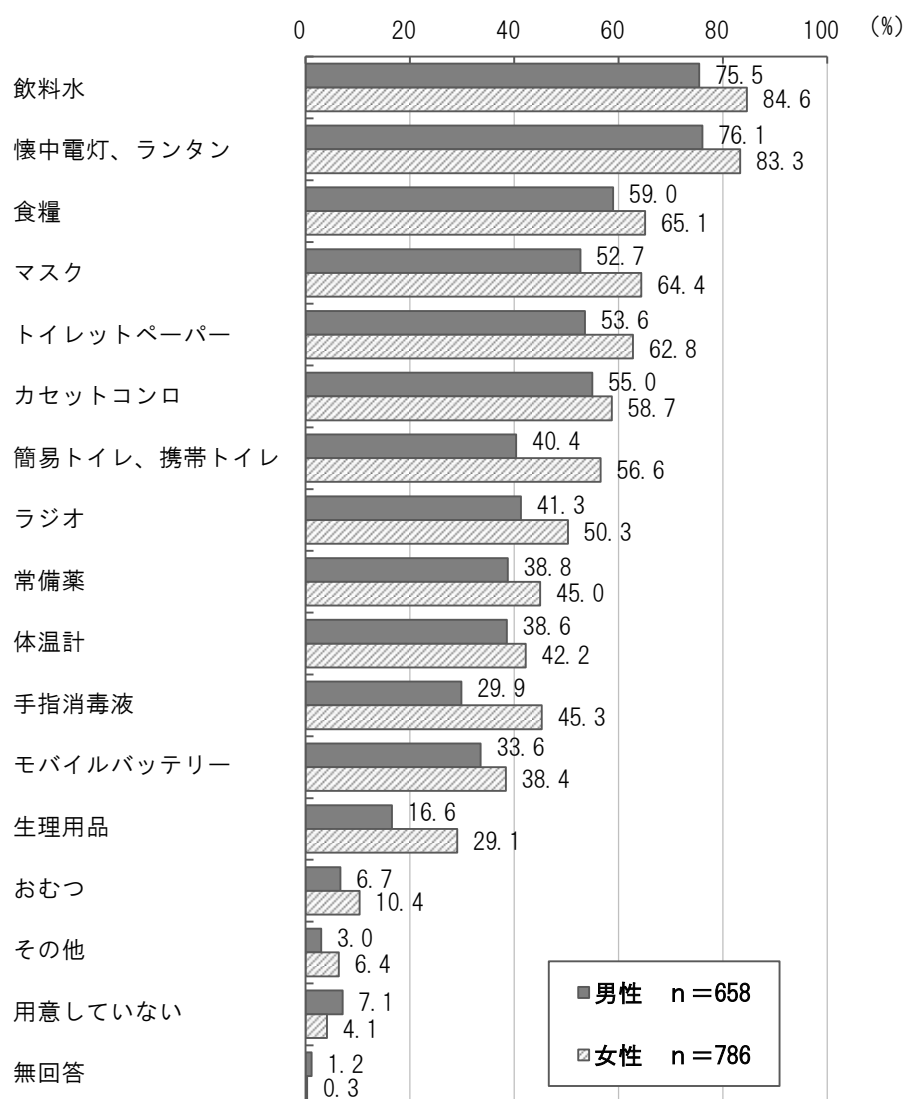
(10)「非常用備蓄品」として用意しているもの

問13 あなたの自宅では「非常用備蓄品」として、どのようなものを用意してありますか。次の中から用意してあるものを全て選んで○をつけてください。



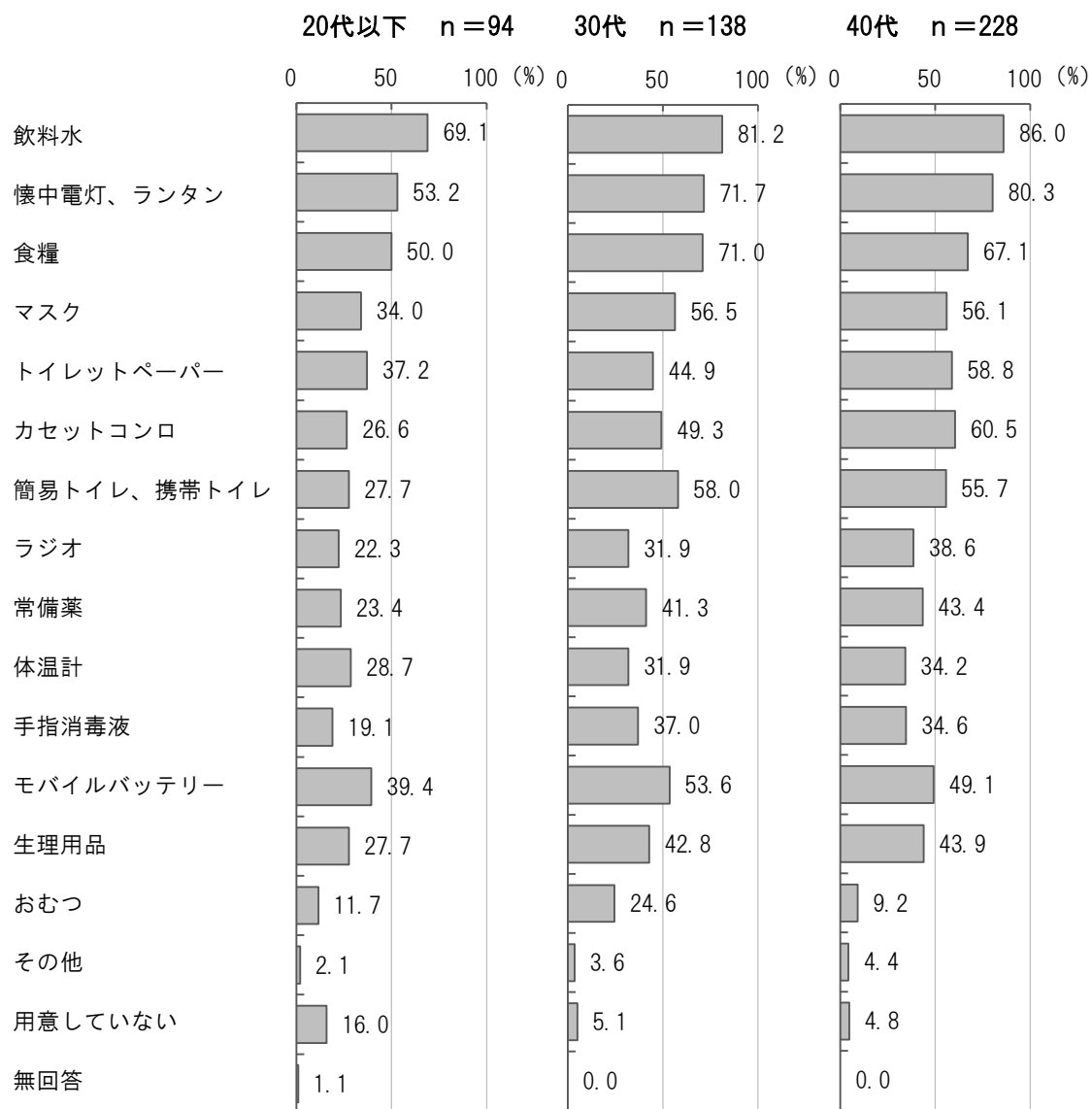
「非常用備蓄品」として用意しているものは、「飲料水」が 80.5%と最も多く、次いで「懐中電灯、ランタン」が 80.0%、「食糧」が 62.4%となっている。

<性別>



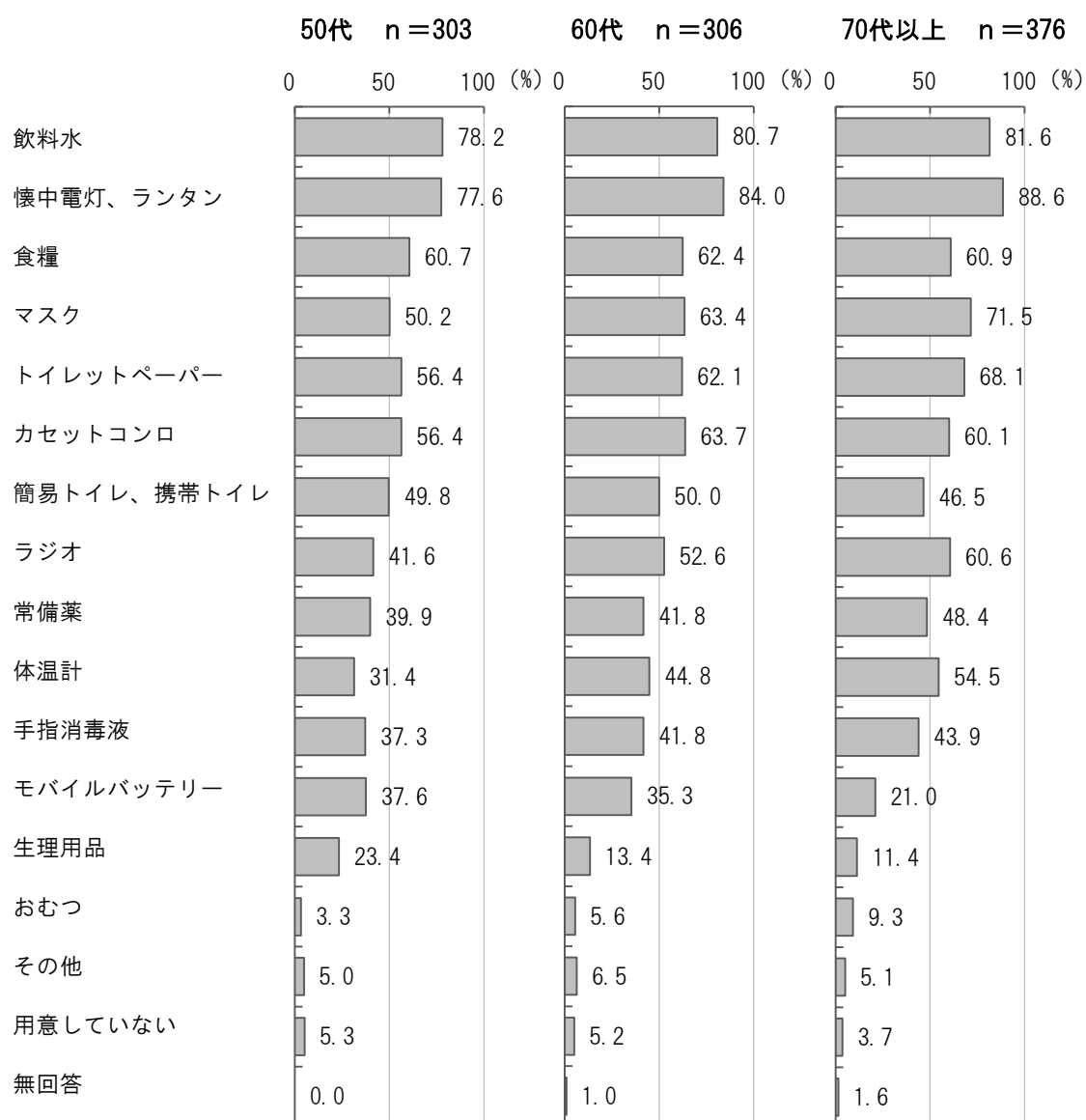
性別で見ると、女性はすべての品目において男性より多く、そのうち「マスク」「簡易トイレ、携帯トイレ」「手指消毒液」「生理用品」は男性との差が10ポイント以上、「トイレットペーパー」「ラジオ」は8ポイント以上となっている。

<年代別①>

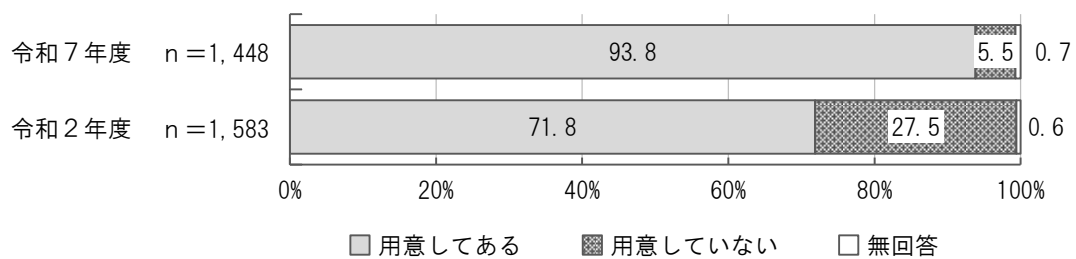


年代別では、20代以下において「用意していない」が16.0%と、6%以下となったほかの年代に比べて多くなっている。30代においては「おむつ」が24.6%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、70代以上においては「マスク」「トイレットペーパー」「ラジオ」「常備薬」「体温計」がほかの年代に比べて多く、「モバイルバッテリー」が21.0%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。

<年代別②>



<経年比較①>



◎令和 7 年度で何らかの非常用備蓄品を回答した人を『用意してある』として集計し、令和 2 年度と比較している。
 質問の形式が異なるため参考値となり、比較には注意が必要である。

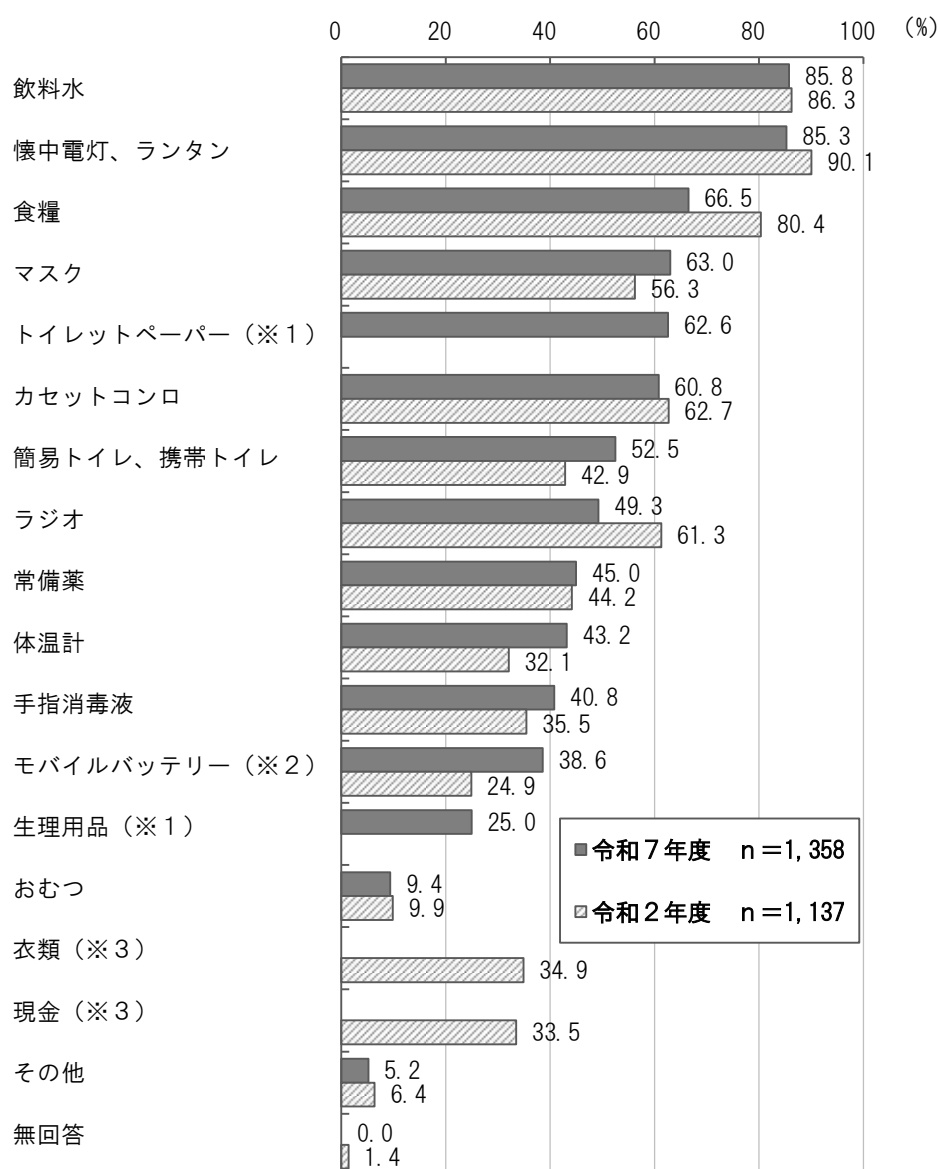
【令和 2 年度】

設問文：「あなたのお宅では、大地震などの災害に備えて『非常用備蓄品』の用意をしていますか。」

選択肢：「用意してある」・「用意していない」

令和 2 年度の調査結果と比較すると、「用意してある」が 22.0 ポイント増加しているが、令和 7 年度とは質問の形式が異なるため参考値とする。

＜経年比較②＞



※1 「トイレットペーパー」「生理用品」は、令和7年度のみを選択肢。

※2 「モバイルバッテリー」は、令和2年度は「携帯バッテリー」であった。

※3 「衣類」「現金」は、令和2年度のみを選択肢。

◎令和7年度で何らかの非常用備蓄品を回答した人を『用意してある』として母数とした上で、品目を集計し、令和2年度と比較している。

質問の形式が異なるため、令和2年度の調査結果は参考値となり、比較には注意が必要である。

【令和2年度】

設問文：『非常用備蓄品』としてどのようなものを用意してありますか。」

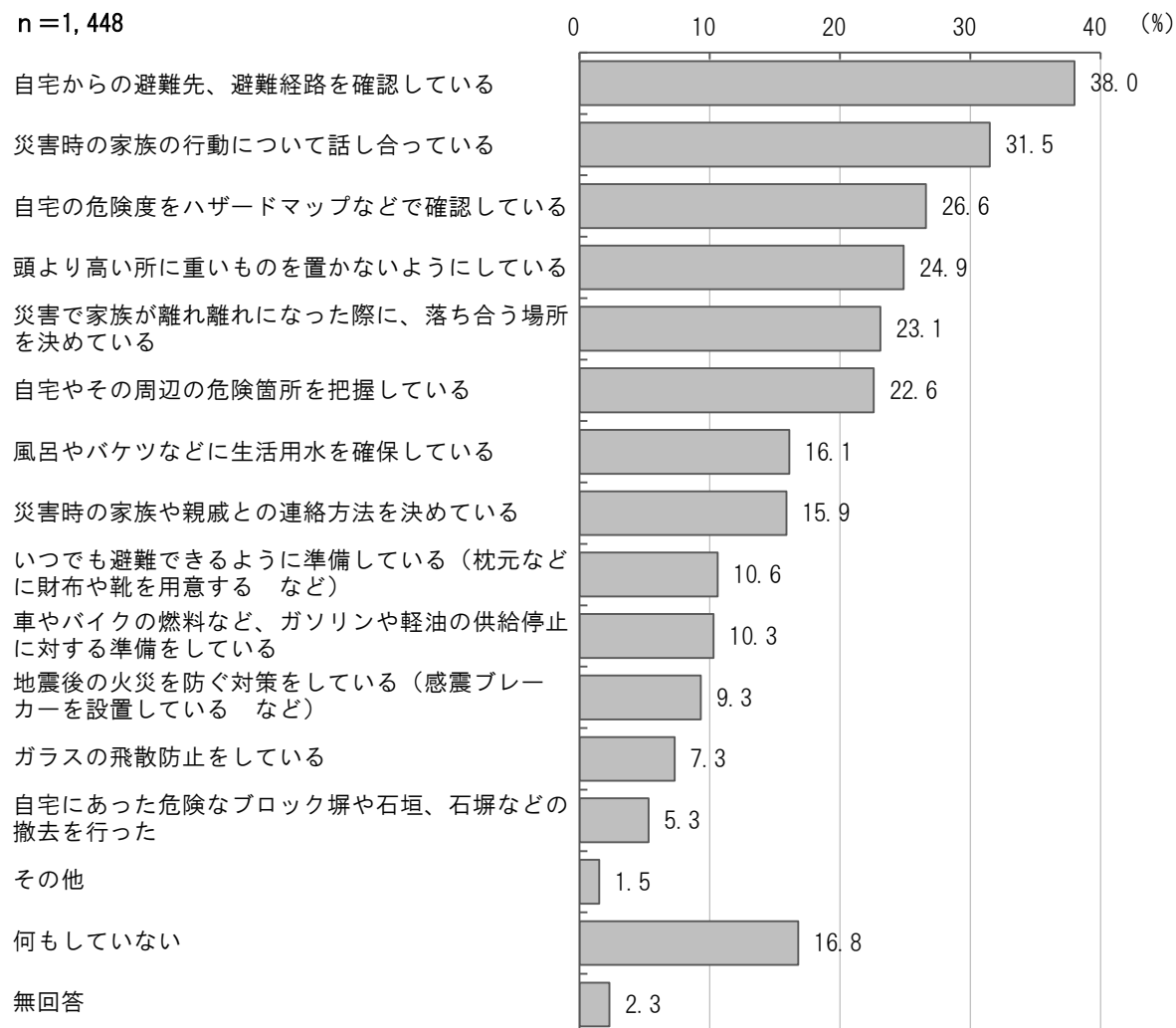
(※前問の「あなたのお宅では、大地震などの災害に備えて『非常用備蓄品』の用意をしてありますか。」に対し、「用意してある」と回答した人のみへの設問であった。)

令和2年度の調査結果と比較すると、「マスク」「簡易トイレ、携帯トイレ」「体温計」「手指消毒液」「モバイルバッテリー」がそれぞれ5ポイント以上増加し、「食糧」「ラジオ」がそれぞれ10ポイント以上減少しているが、令和7年度とは質問の形式が異なるため参考値とする。

(11) 大地震などの災害に備えて行っている対策

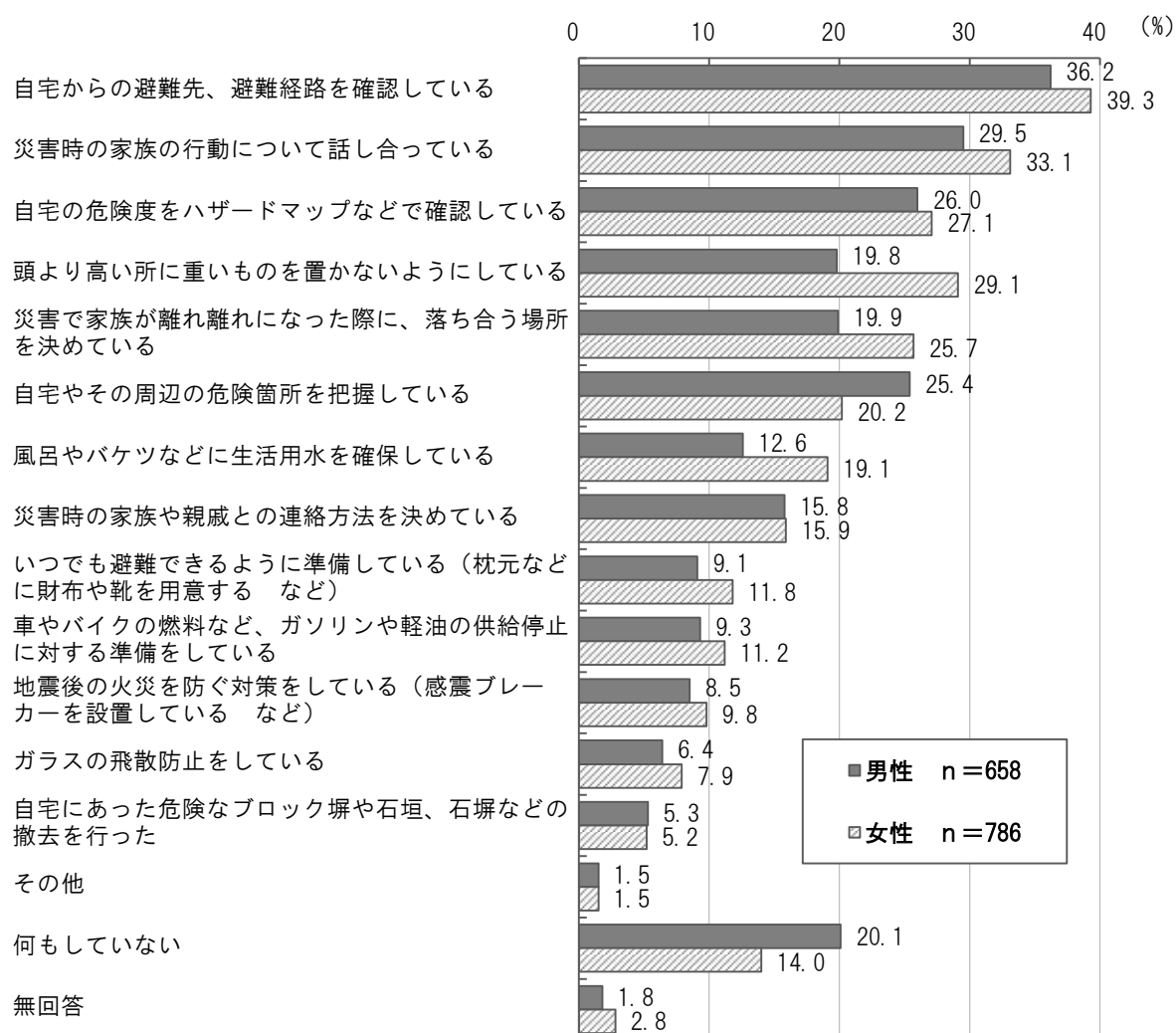
問14 あなたの自宅では大地震などの災害に備えて、どのような対策を行っていますか。次の中から行っている対策を全て選んで○をつけてください。

n=1,448



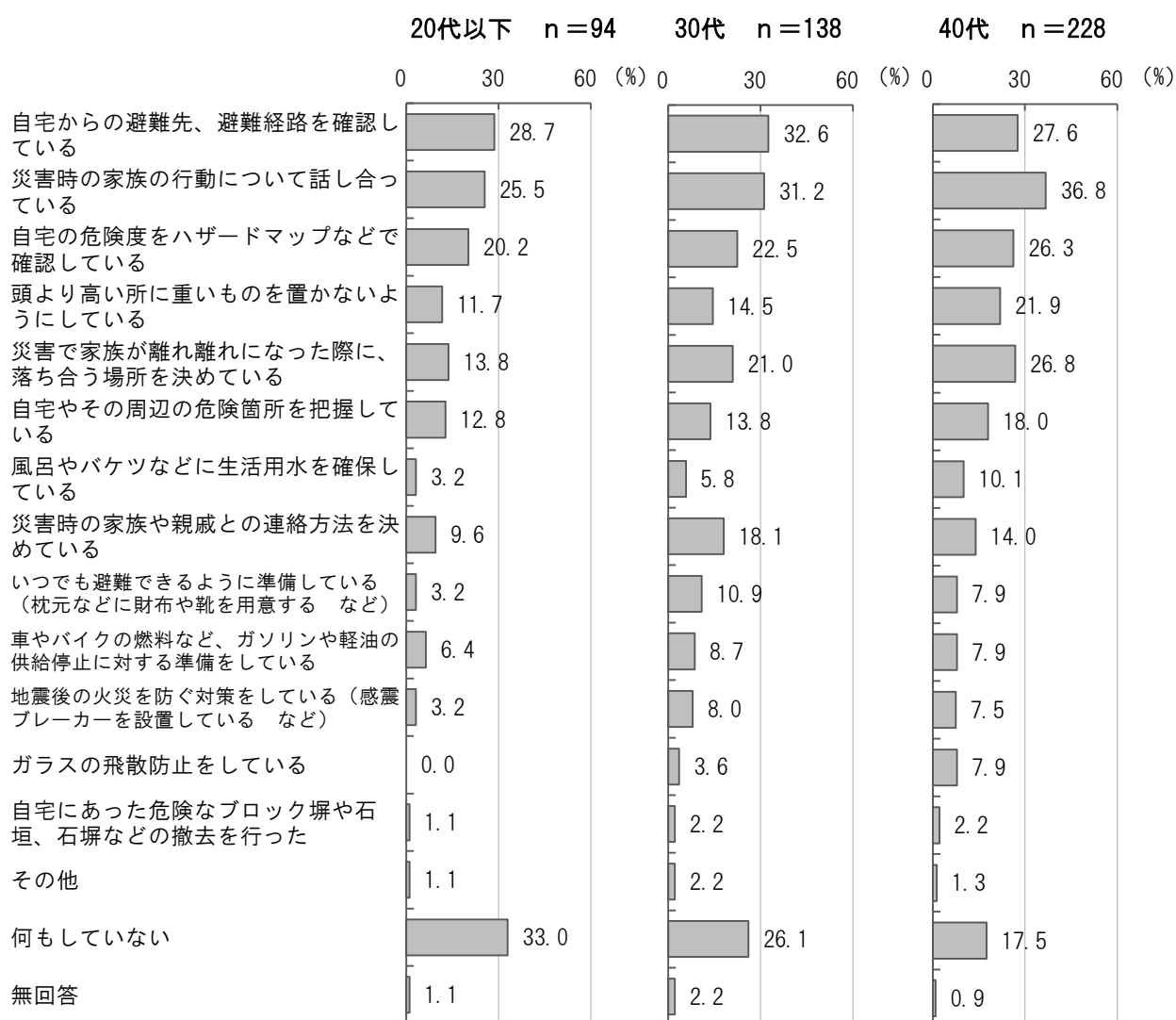
大地震などの災害に備えて行っている対策は、「自宅からの避難先、避難経路を確認している」が38.0%と最も多く、次いで「災害時の家族の行動について話し合っている」が31.5%、「自宅の危険度をハザードマップなどで確認している」が26.6%となっている。

＜性別＞



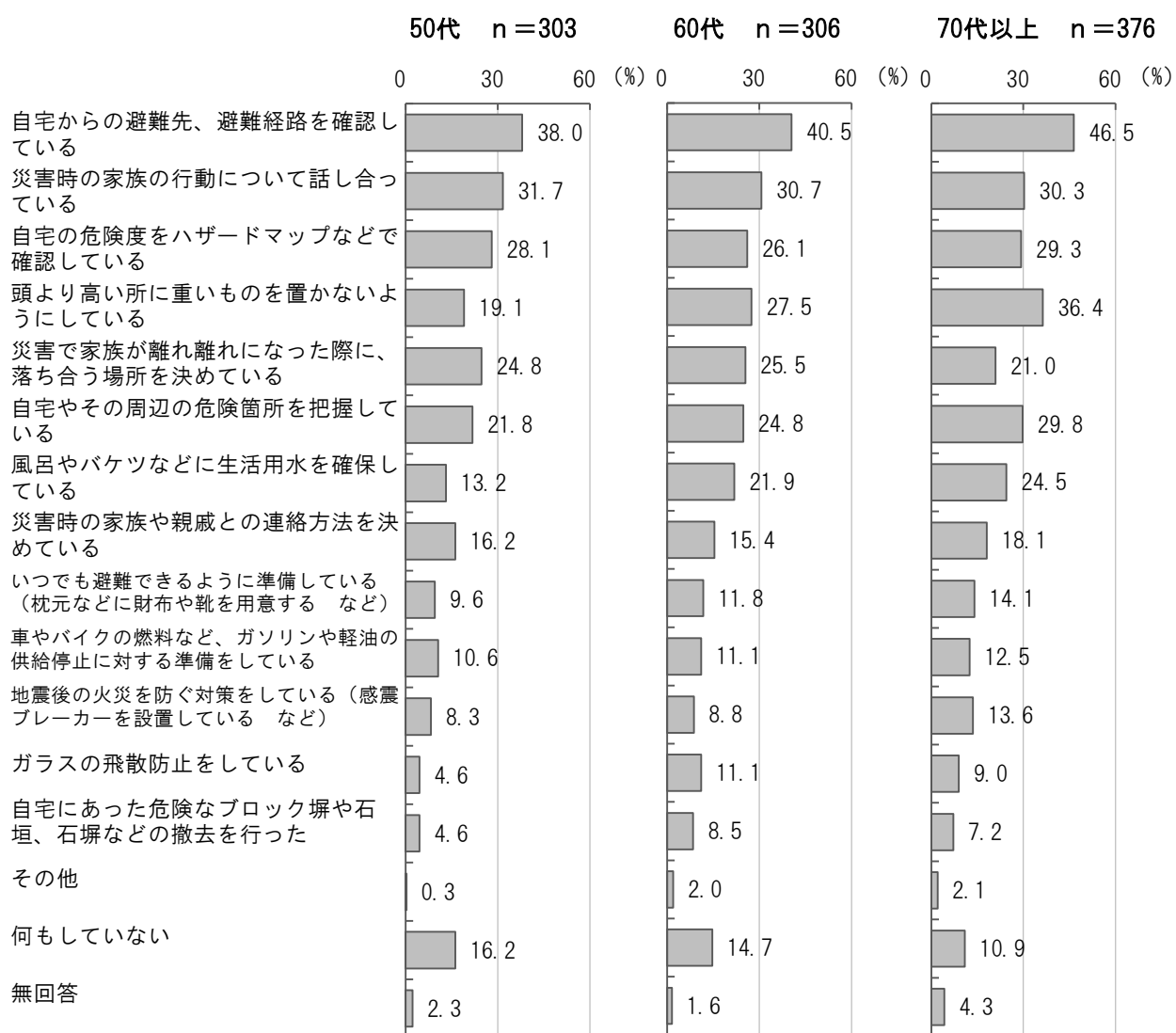
性別で見ると、男性において「何もしていない」が6.1ポイント、「自宅やその周辺の危険箇所を把握している」が5.2ポイント、それぞれ女性より多くなっている。女性においては「頭より高い所に重いものを置かないようにしている」が9.3ポイント、「風呂やバケツなどに生活用水を確保している」が6.5ポイント、「災害で家族が離れ離れになった際に、落ち合う場所を決めている」が5.8ポイント、それぞれ男性より多くなっている。

<年代別①>

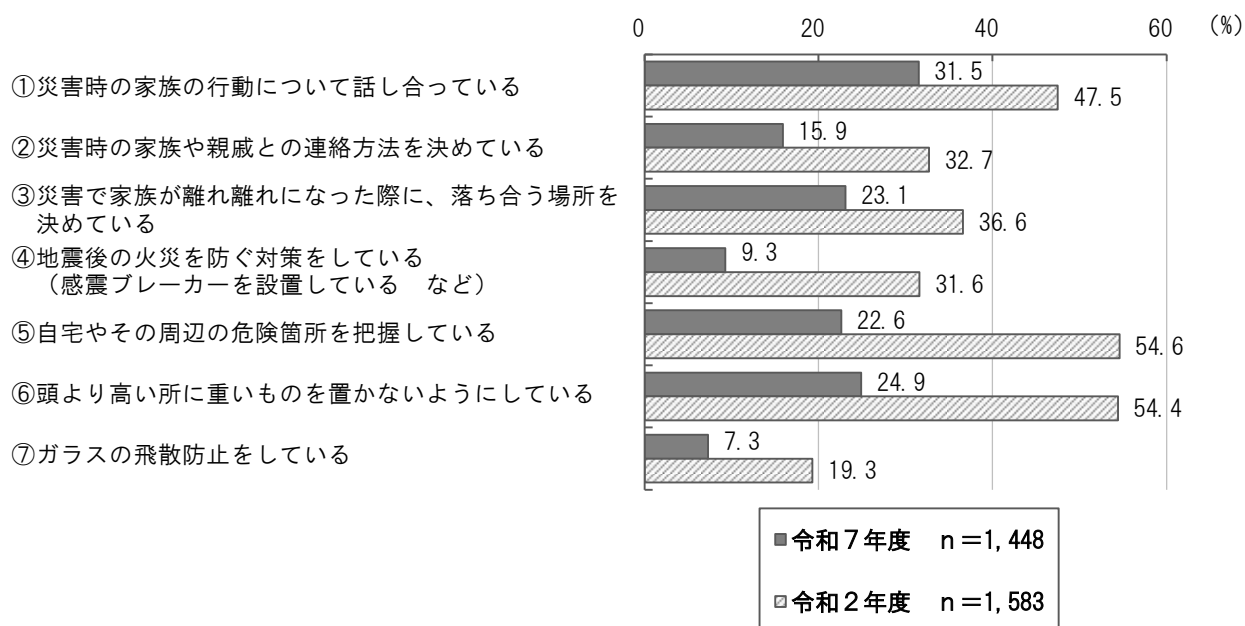


年代別では、20代以下において「何もしていない」が33.0%と、ほかの年代に比べて多くなっている。「何もしていない」は年代が上がるにつれ、少なくなっている。40代においては「災害時の家族の行動について話し合っている」が36.8%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、70代以上においては「自宅からの避難先、避難経路を確認している」が46.5%、「頭より高い所に重いものを置かないようにしている」が36.4%、「自宅やその周辺の危険箇所を把握している」が29.8%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

<年代別②>



<経年比較>



◎令和7年度で回答した対策と、令和2年度で「はい」と回答した対策を比較している。
質問の形式が異なるため参考値となり、比較には注意が必要である。

【令和2年度】

設問文：「あなたのお宅では大地震などの災害に備えて、次の各項目の対策を行っていますか。」

- ①災害時の家族の行動について話し合っている
- ②災害時の家族や親戚との連絡方法を決めている
- ③災害で家族が離れ離れになった際に、落ち合う場所を決めている
- ④地震後の火災を防ぐ対策をしている
- ⑤自宅やその周辺の危険箇所を把握している
- ⑥頭より高い所に重いものを置かないようにしている
- ⑦ガラスの飛散防止をしている
- ⑧自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀はない

選択肢：上記①～⑧のそれぞれに対し、「はい」・「いいえ」

(※⑧は令和7年度と内容が異なるので、比較は行わない。)

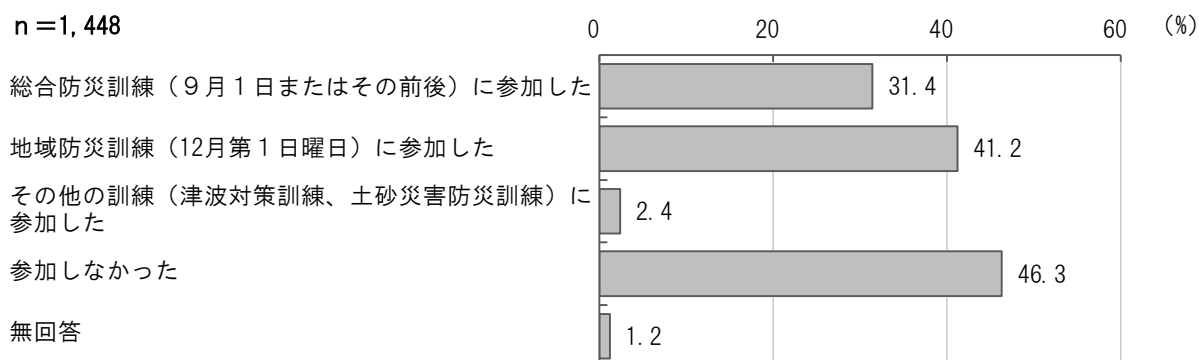
令和7年度において、行っている割合が多い対策は、順に「①災害時の家族の行動について話し合っている」(31.5%)、「⑥頭より高い所に重いものを置かないようにしている」(24.9%)、「③災害で家族が離れ離れになった際に、落ち合う場所を決めている」(23.1%)となっている。

令和2年度においては、順に「⑤自宅やその周辺の危険箇所を把握している」(54.6%)、「⑥頭より高い所に重いものを置かないようにしている」(54.4%)、「①災害時の家族の行動について話し合っている」(47.5%)となっている。

※令和7年度と令和2年度は、質問の形式が異なるため参考値とする。

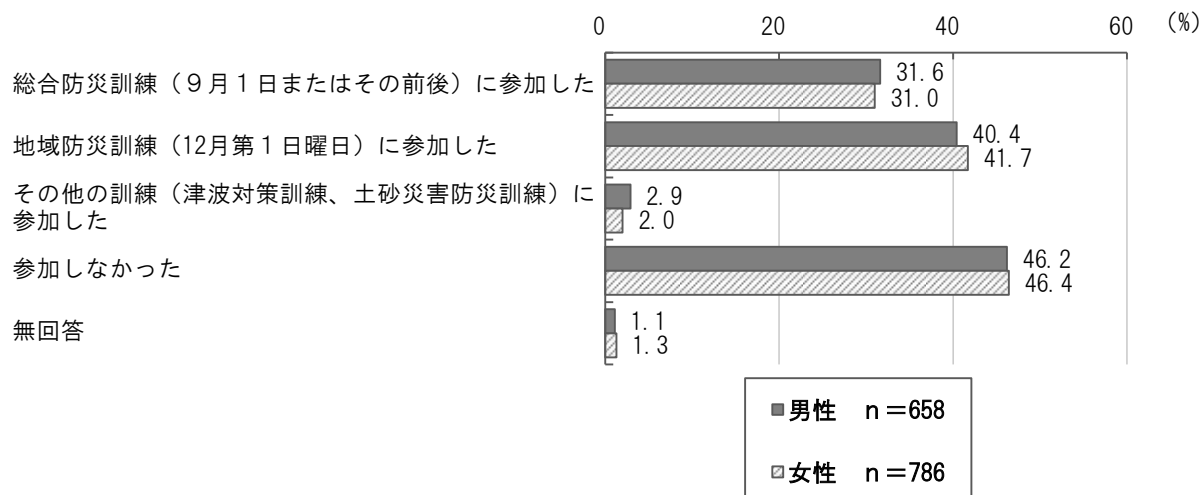
(12) 過去2年間における地域で行う防災訓練の参加状況

問15 過去2年間で、地域で行う防災訓練に参加しましたか。次の中から当てはまるものを全て選んで○をつけてください。



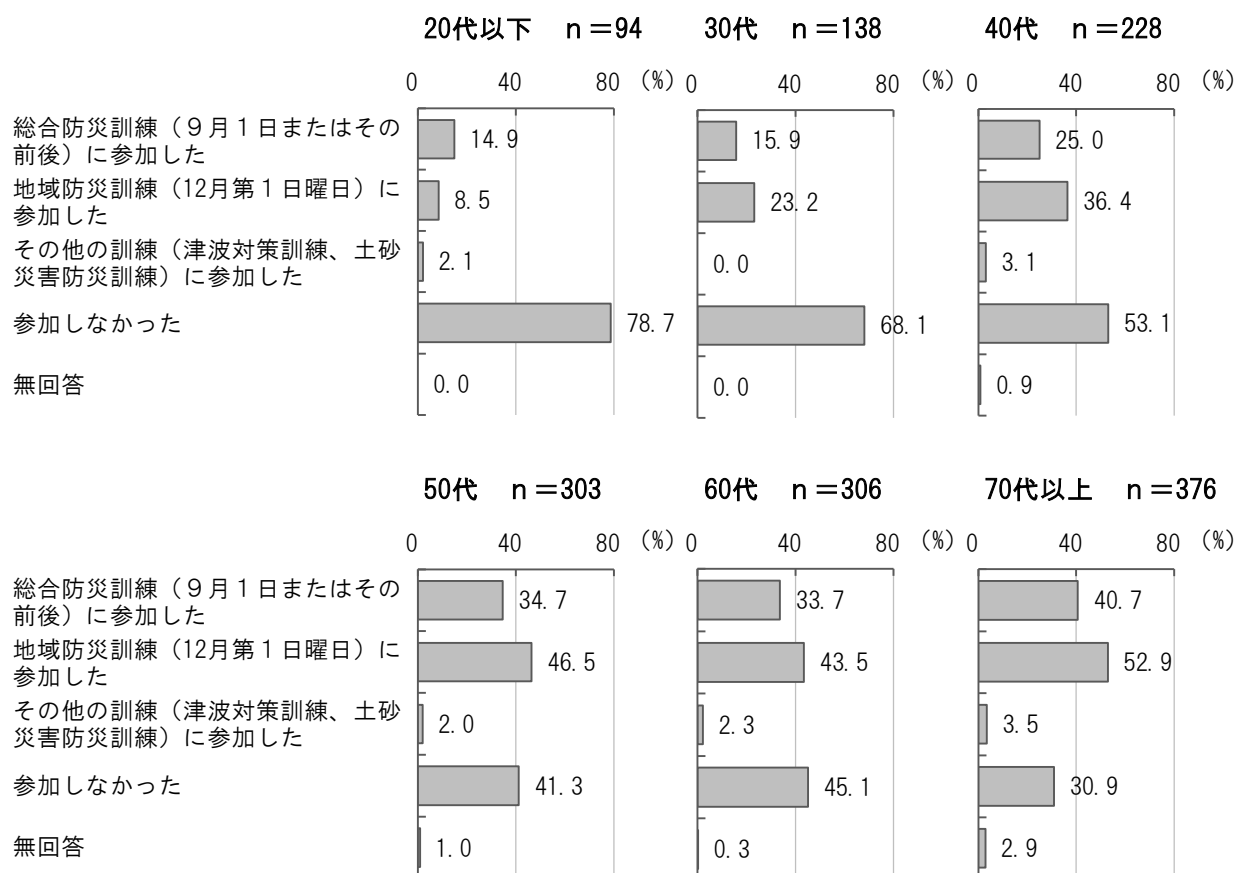
過去2年間における地域で行う防災訓練の参加状況は、「地域防災訓練（12月第1日曜日）に参加した」が41.2%と最も多く、次いで「総合防災訓練（9月1日またはその前後）に参加した」が31.4%、「その他の訓練（津波対策訓練、土砂災害防災訓練）に参加した」が2.4%となっている。一方、「参加しなかった」は46.3%となっている。

<性別>



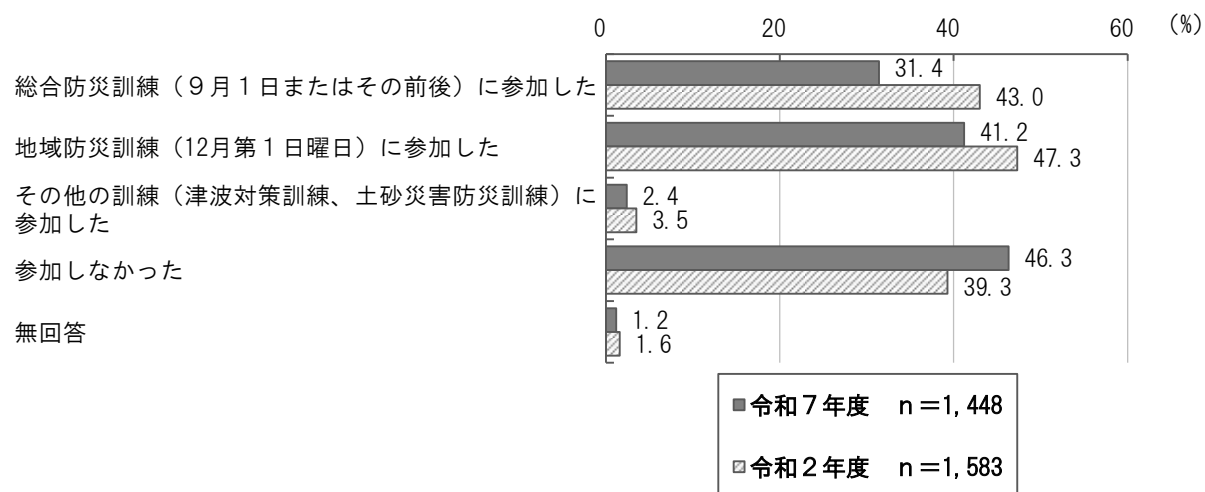
性別で見ると、大きな差異は見られない。

<年代別>



年代別では、70代以上において「地域防災訓練（12月第1日曜日）に参加した」が52.9%、「総合防災訓練（9月1日またはその前後）に参加した」が40.7%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、「参加しなかった」はおおむね年代が下がるごとに多くなっており、40代以下では5割を超え、20代以下において78.7%となっている。

＜経年比較＞

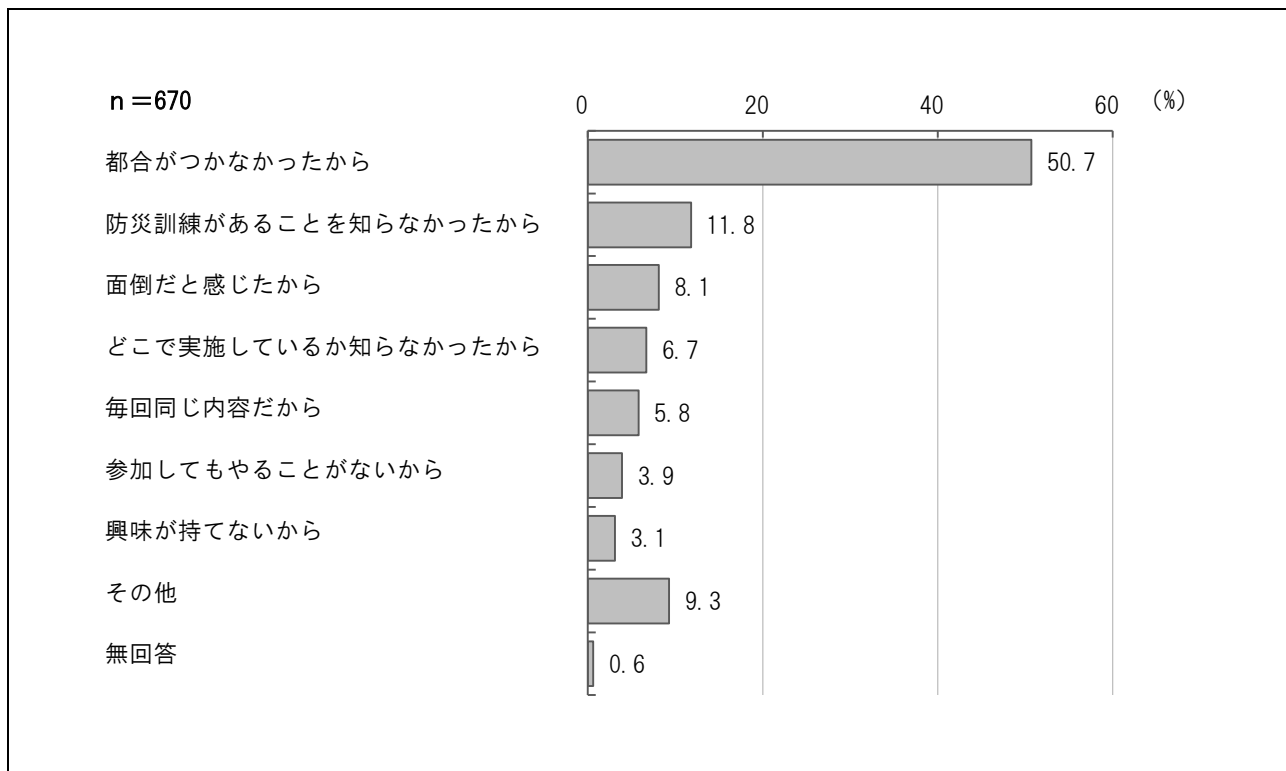


令和2年度の調査結果と比較すると、「総合防災訓練（9月1日またはその前後）に参加した」が11.6ポイント、「地域防災訓練（12月第1日曜日）に参加した」が6.1ポイント、それぞれ減少し、「参加しなかった」が7.0ポイント増加している。

(13) 地域で行う防災訓練に参加しなかった理由

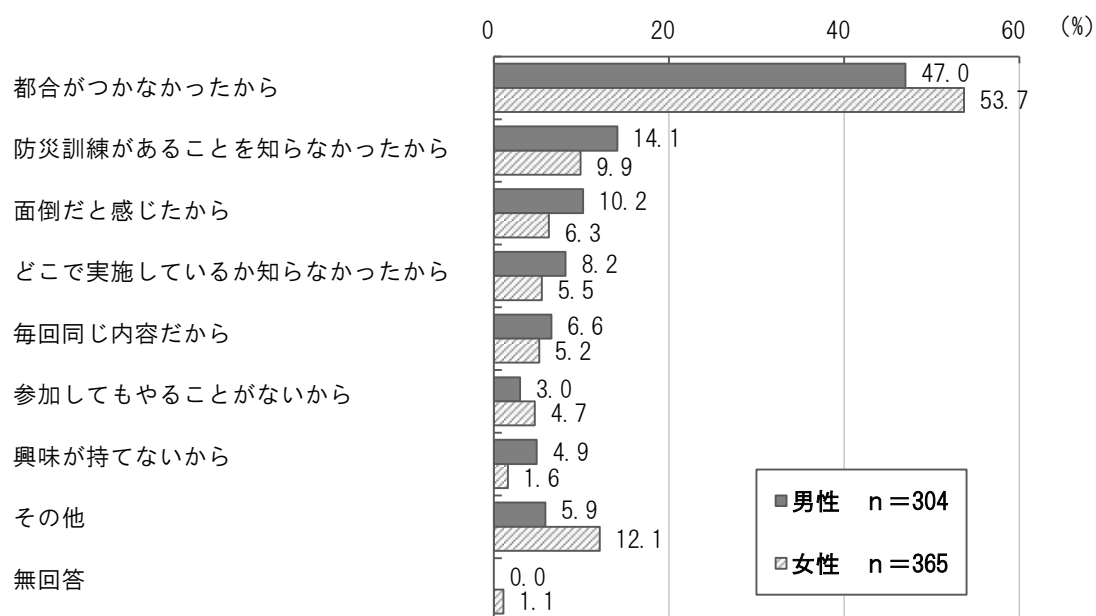
■ 問 15 で「参加しなかった」と答えた人のみ

問15－1 参加しなかった理由は何ですか。次の中からあなたの考えに近いものを1つだけ選んで○をつけてください。



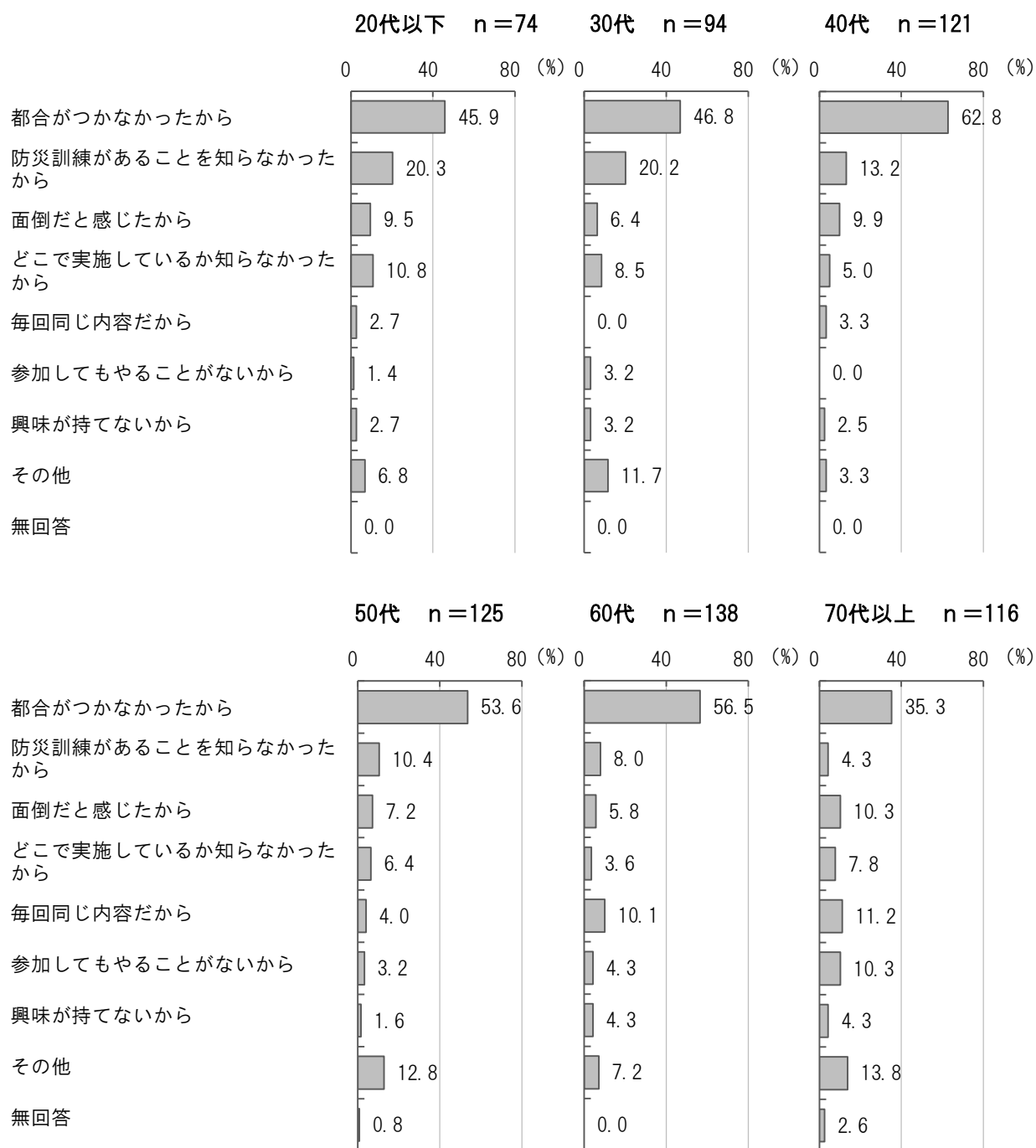
地域で行う防災訓練に参加しなかった理由は、「都合がつかなかったから」が 50.7%と最も多く、次いで「防災訓練があることを知らなかったから」が 11.8%、「面倒だと感じたから」が 8.1%となっている。

<性別>



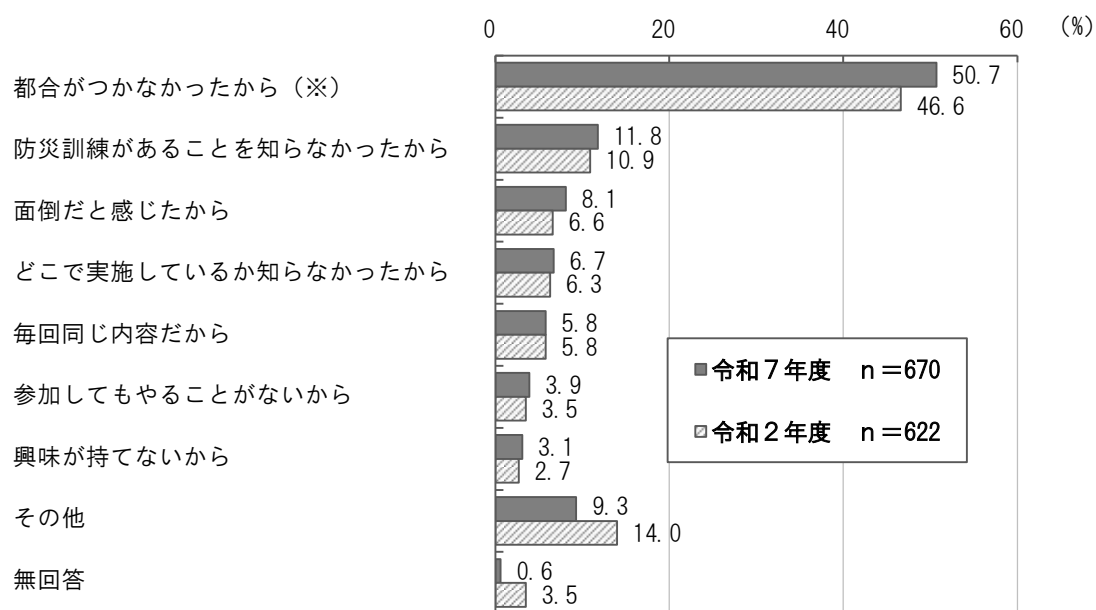
性別で見ると、男性において「防災訓練があることを知らなかったから」が4.2ポイント、「面倒だと感じたから」が3.9ポイント、それぞれ女性より多くなっている。女性においては「都合がつかなかったから」が53.7%と、男性より6.7ポイント多くなっている。

<年代別>



年代別では、どの年代においても「都合がつかなかったから」が最も多くなっている。20代以下・30代において「防災訓練があることを知らなかったから」が20%程度と、ほかの年代に比べて多くなっている。40代においては「都合がつかなかったから」が62.8%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、70代以上においては「参加してもやることがないから」が10.3%とほかの年代に比べて多く、「都合がつかなかったから」が35.3%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。

<経年比較>

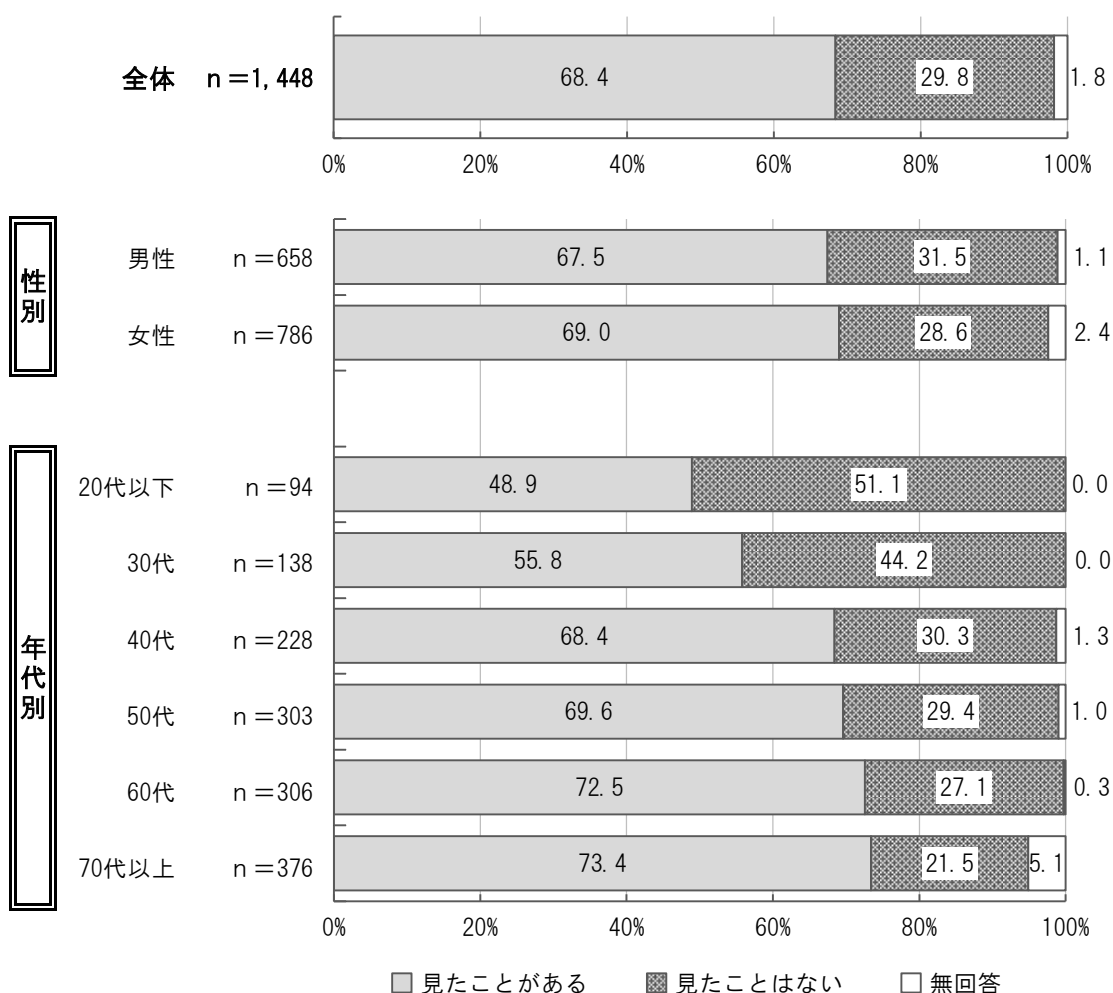


※「都合がつかないから」は、令和2年度は「都合が合わなかったから」であった。

令和2年度の調査結果と比較すると、「都合がつかないから」が4.1ポイント増加している。

(14) 富士市富士山火山防災マップを見たことがあるか

問16 富士市富士山火山防災マップ（令和6年4月世帯配付）を見たことがありますか。次の中から 1つだけ選んで○をつけてください。



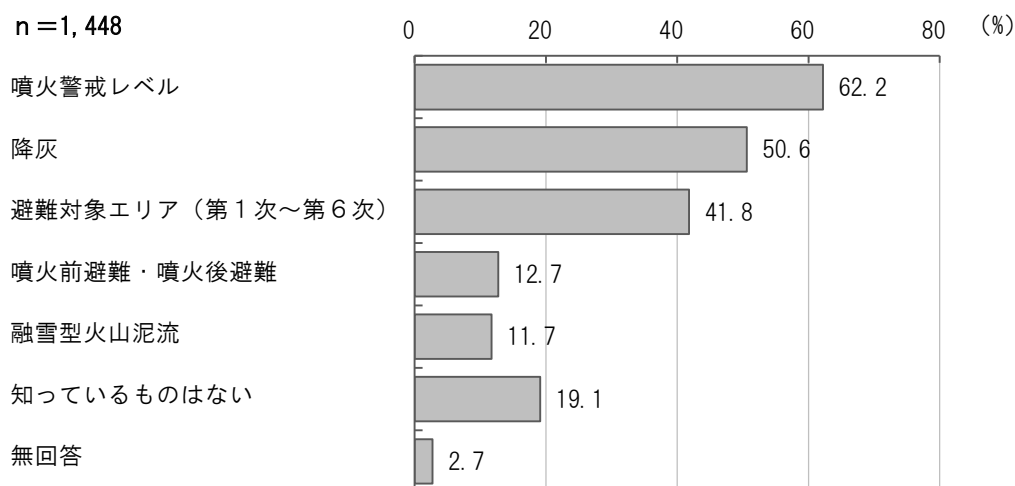
富士市富士山火山防災マップを見たことがあるかについては、「見たことがある」が68.4%、「見たことはない」が29.8%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「見たことはない」が51.1%と、「見たことがある」を上回り、ほかの年代に比べて多くなっている。また、「見たことがある」は年代が上がるごとに多くなっていて、60代・70代以上において7割を超えている。

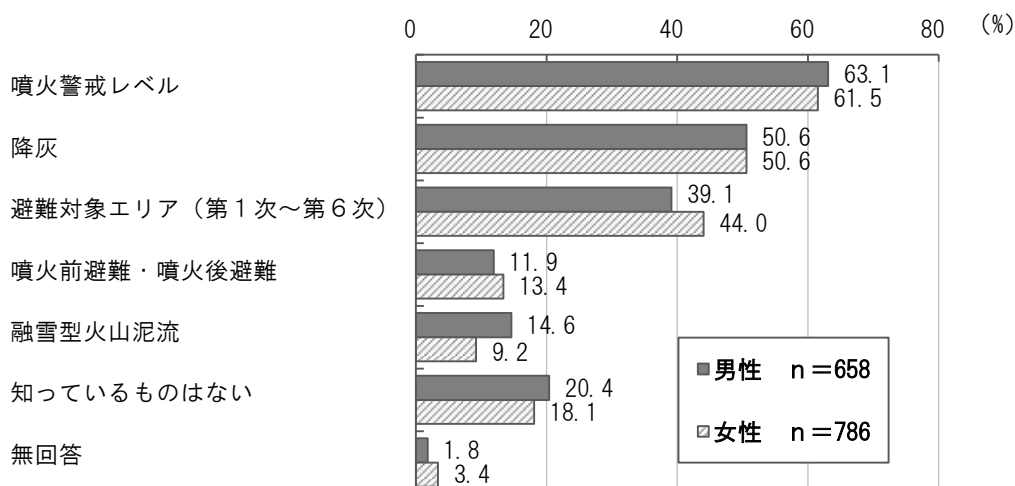
(15) 富士山噴火に関連する言葉について知っているもの

問17 富士山噴火に関連する言葉について知っているものはありますか。次の中から当てはまるものを全て選んで○をつけてください。



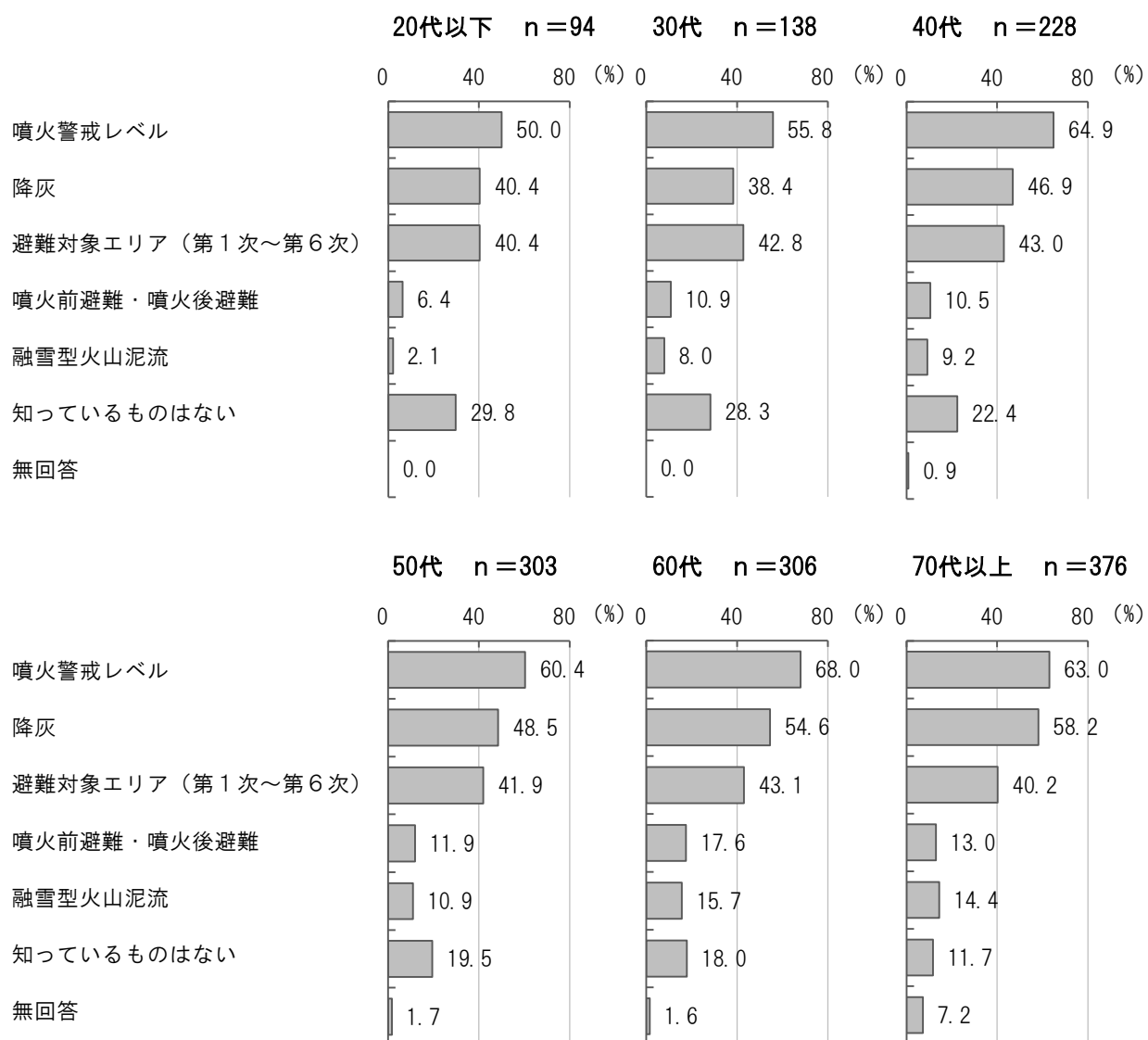
富士山噴火に関連する言葉について知っているものは、「噴火警戒レベル」が62.2%と最も多く、次いで「降灰」が50.6%、「避難対象エリア (第1次～第6次)」が41.8%となっている。

<性別>



性別で見ると、男性において「融雪型火山泥流」が14.6%と、女性より多くなっている。女性においては「避難対象エリア (第1次～第6次)」が44.0%と、男性より多くなっている。

<年代別>

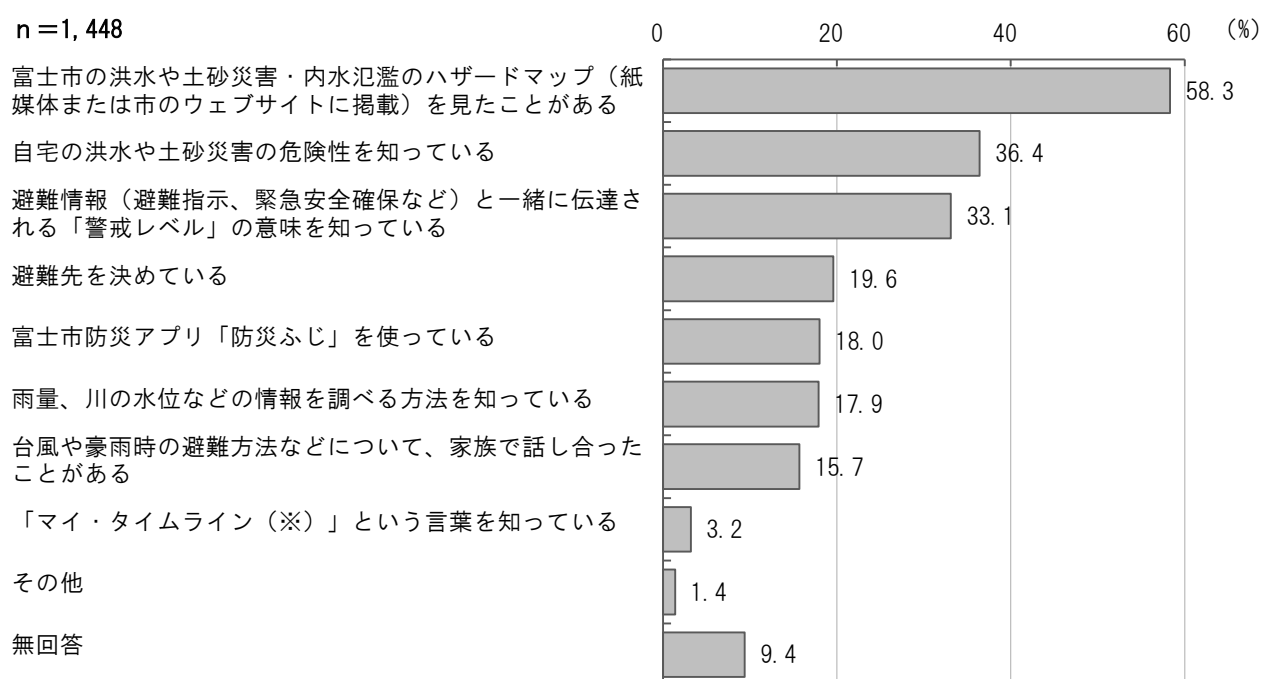


年代別では、20代以下において「噴火警戒レベル」が50.0%、「融雪型火山泥流」が2.1%と、それぞれほかの年代に比べて少なくなっている。60代においては「噴火前避難・噴火後避難」が17.6%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、「知っているものはない」は年代が上がるごとに少なくなっていて、70代以上において11.7%となっている。

(16) 台風や豪雨などの災害に備えて、確認していること

問18 台風や豪雨などの災害に備えて、確認していることはありますか。次の中から当てはまるものを全て選んで○をつけてください。

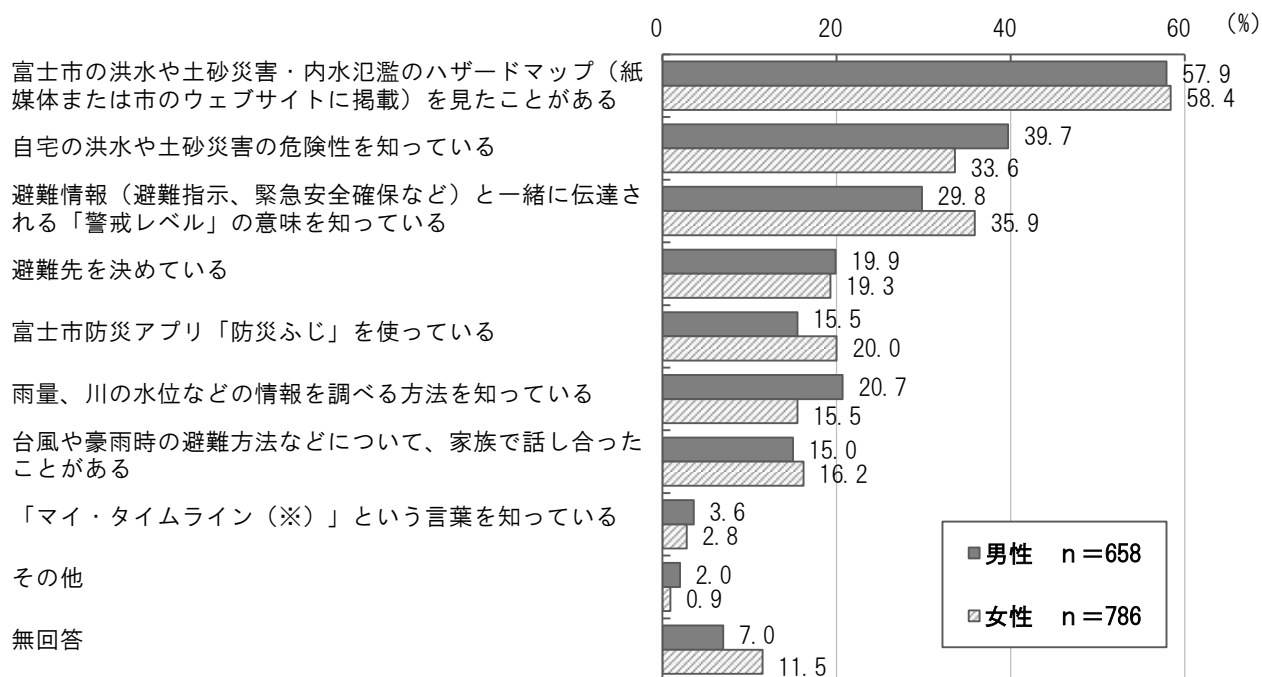
n=1,448



※「マイ・タイムライン」：住民一人ひとりが自分自身で決める「防災行動計画」のこと。災害時にとるべき行動を、時系列的にあらかじめ決めておき、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。

台風や豪雨などの災害に備えて、確認していることは、「富士市の洪水や土砂災害・内水氾濫のハザードマップ（紙媒体または市のウェブサイトに掲載）を見たことがある」が 58.3%と最も多く、次いで「自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」が 36.4%、「避難情報（避難指示、緊急安全確保など）と一緒に伝達される『警戒レベル』の意味を知っている」が 33.1%となっている。

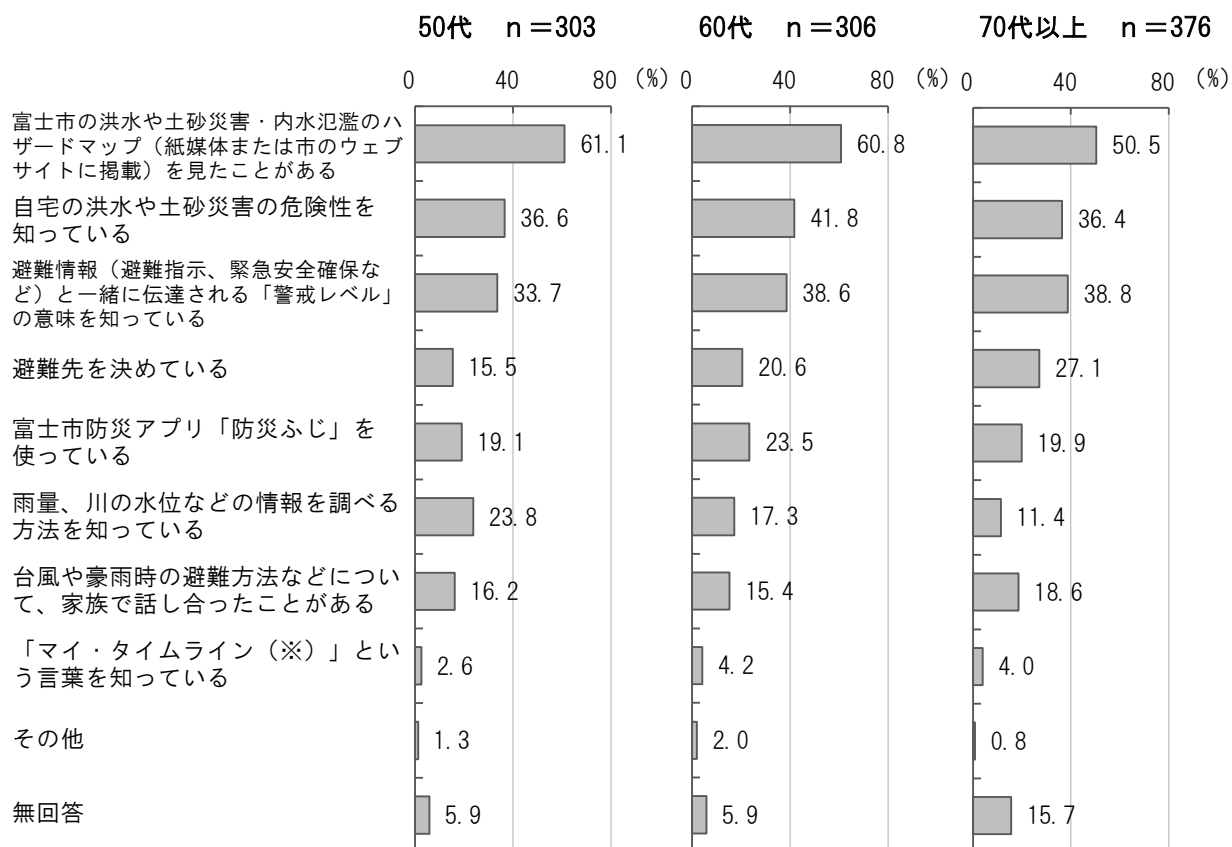
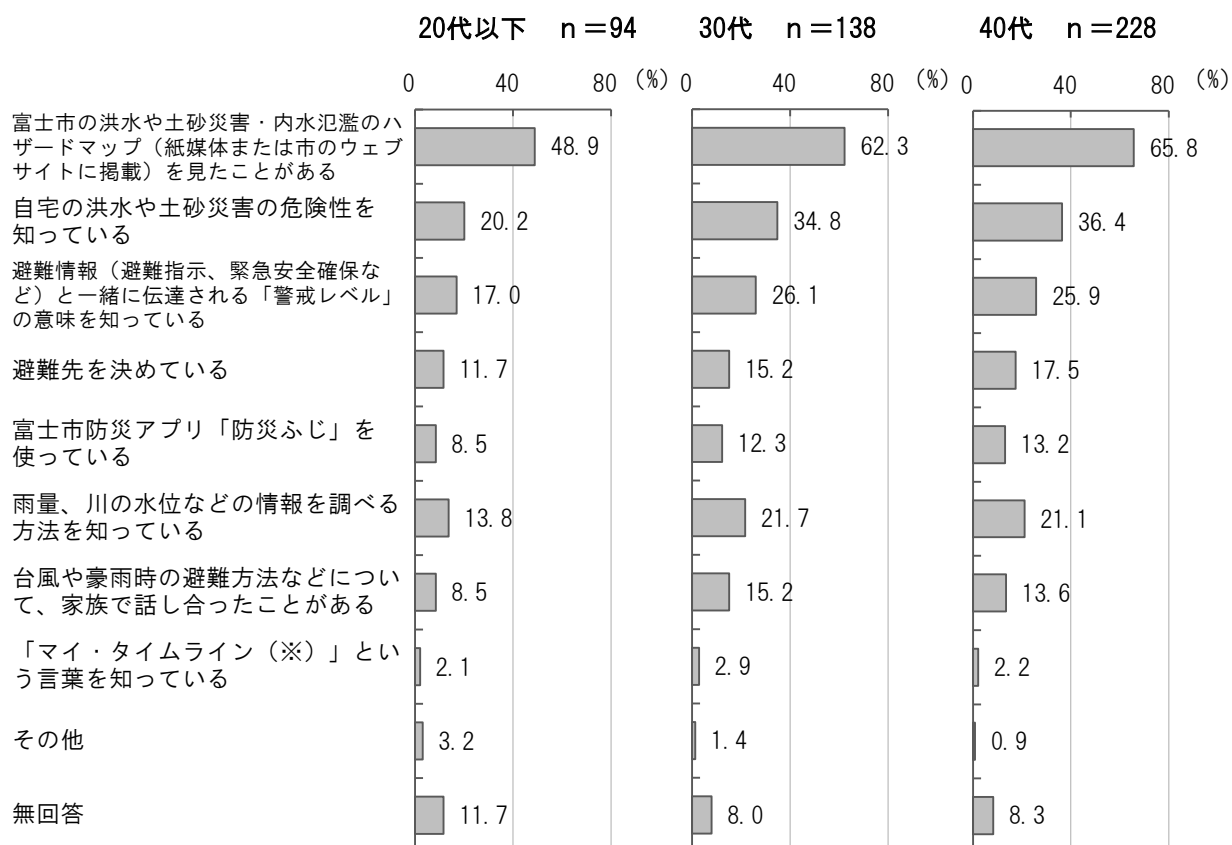
<性別>



※「マイ・タイムライン」：住民一人ひとりが自分自身で決める「防災行動計画」のこと。災害時にとるべき行動を、時系列的にあらかじめ決めておき、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。

性別で見ると、男性において「自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」が39.7%、「雨量、川の水位などの情報を調べる方法を知っている」が20.7%と、それぞれ女性より多くなっている。女性においては「避難情報（避難指示、緊急安全確保など）と一緒に伝達される『警戒レベル』の意味を知っている」が35.9%、「富士市防災アプリ『防災ふじ』を使っている」が20.0%と、それぞれ男性より多くなっている。

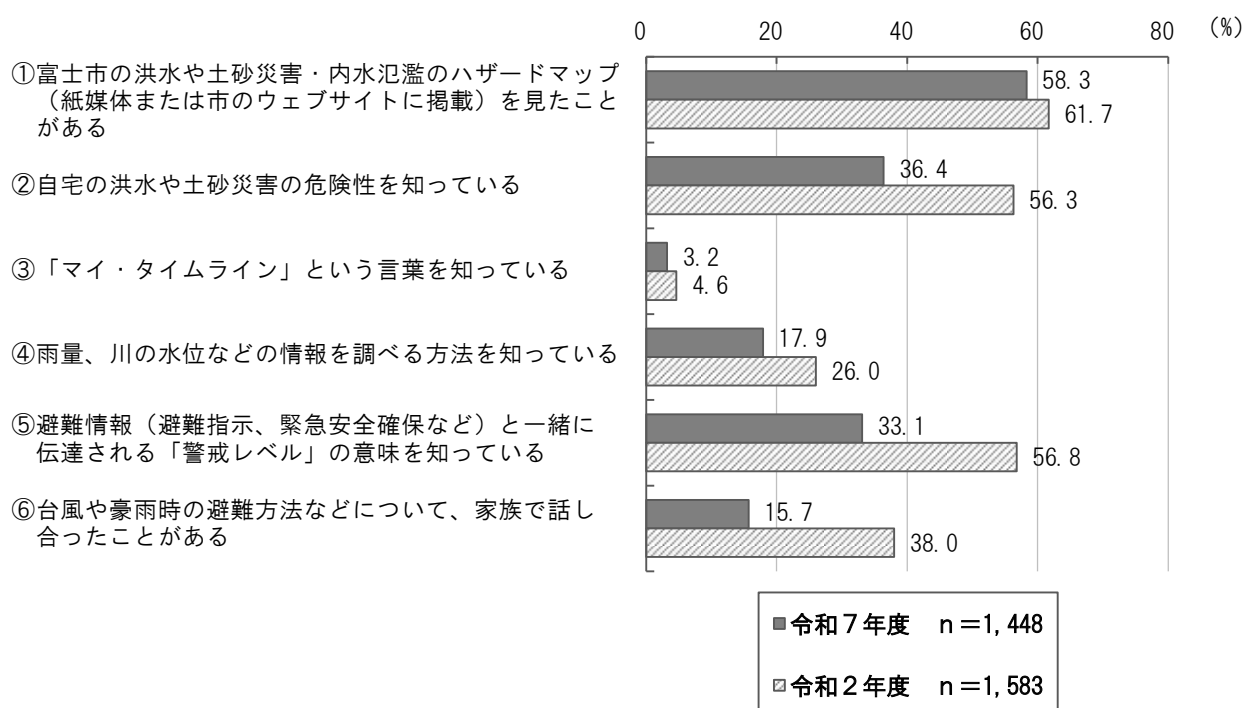
<年代別>



※「マイ・タイムライン」：住民一人ひとりが自分自身で決める「防災行動計画」のこと。災害時にとるべき行動を、時系列的にあらかじめ決めておき、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。

年代別では、20 代以下において「自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」「避難情報（避難指示、緊急安全確保など）と一緒に伝達される『警戒レベル』の意味を知っている」「台風や豪雨時の避難方法などについて、家族で話し合ったことがある」が、ほかの年代に比べて少なくなっている。60 代においては「自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」が 41.8%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、70 代以上においては「避難先を決めている」が 27.1%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

＜経年比較＞



◎令和7年度で回答した事項と、令和2年度で「はい」と回答した事項を比較している。

質問の形式が異なるため参考値となり、比較には注意が必要である。

【令和2年度】

設問文：「あなたのお宅では台風や豪雨などの災害に備えて、次の各項目について確認していますか。」

- ①富士市の洪水や土砂災害のハザードマップ（紙媒体または市のウェブサイトに掲載）を見たことがある
- ②自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている
- ③「マイ・タイムライン」という言葉を知っている
- ④雨量、川の水位などの情報を調べる方法を知っている
- ⑤避難情報（避難勧告など）と一緒に伝達される「警戒レベル」の意味を知っている
- ⑥台風や豪雨時の避難方法などについて、家族で話し合ったことがある

選択肢：上記①～⑥のそれぞれに対し、「はい」・「いいえ」

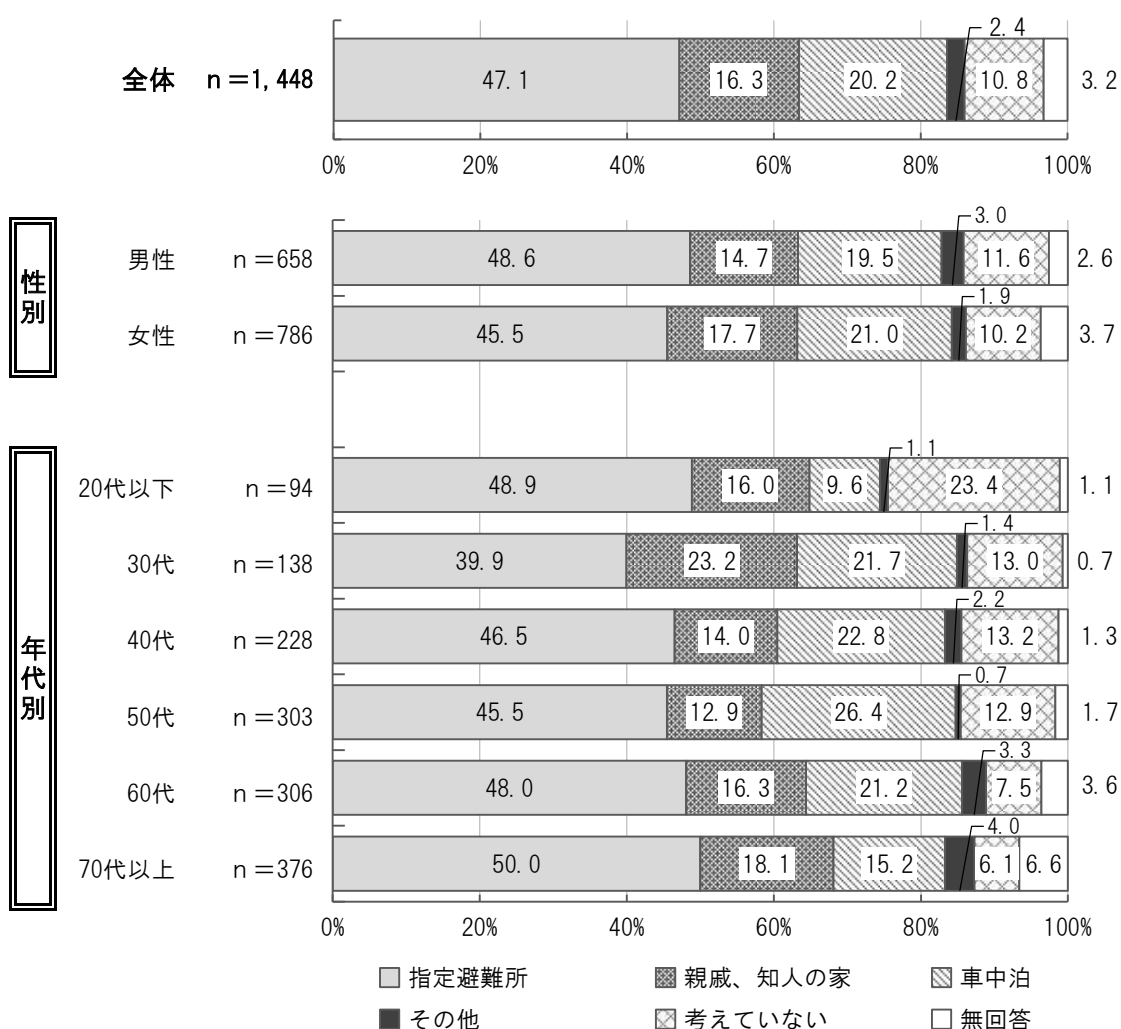
令和7年度において、災害に備えて確認している割合が多い事項は、順に「①富士市の洪水や土砂災害・内水氾濫のハザードマップ（紙媒体または市のウェブサイトに掲載）を見たことがある」（58.3%）、「②自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」（36.4%）、「⑤避難情報（避難指示、緊急安全確保など）と一緒に伝達される『警戒レベル』の意味を知っている」（33.1%）となっている。

令和2年度においては、順に「①富士市の洪水や土砂災害のハザードマップ（紙媒体または市のウェブサイトに掲載）を見たことがある」（61.7%）、「⑤避難情報（避難勧告など）と一緒に伝達される『警戒レベル』の意味を知っている」（56.8%）、「②自宅の洪水や土砂災害の危険性を知っている」（56.3%）となっている。

※令和7年度と令和2年度は、質問の形式が異なるため参考値とする。

(17) 地震等の災害で自宅が損壊した場合の避難生活場所

問19 地震等の災害で自宅が損壊した場合、あなたはどこで避難生活を送りますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

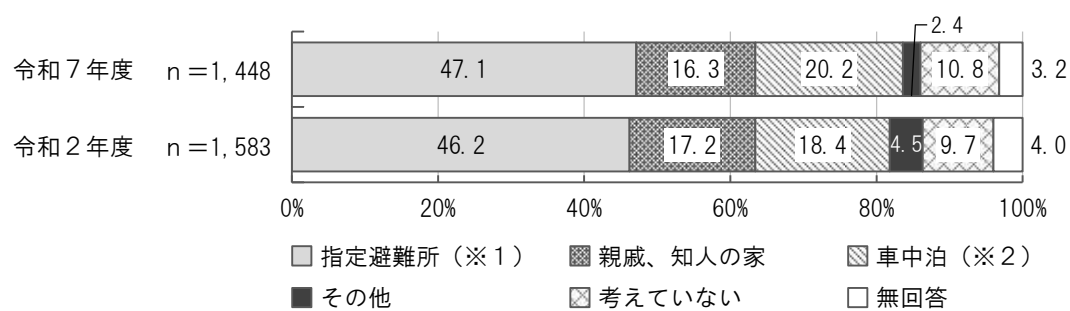


地震等の災害で自宅が損壊した場合の避難生活場所は、「指定避難所」が 47.1%と最も多く、次いで「車中泊」が 20.2%、「親戚、知人の家」が 16.3%となっている。

性別で見ると、大きな差異は見られない。

年代別では、20代以下において「考えていない」が 23.4%とほかの年代に比べて多くなっている。「親戚、知人の家」については、30代が 23.2%と、ほかの年代に比べて多くなっている。「車中泊」については、50代が 26.4%と、ほかの年代に比べて多くなっている。

＜経年比較＞



※1 「指定避難所」は、令和2年度は「市が指定する避難所」であった。

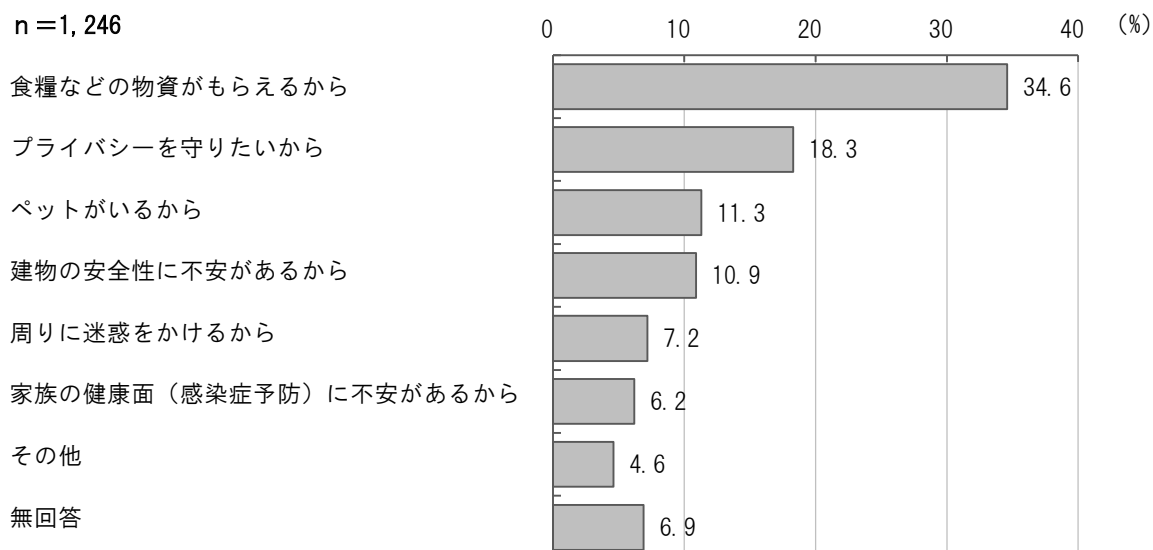
※2 「車中泊」は、令和2年度は「車中」であった。

令和2年度の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

(18) その避難先を選んだ理由

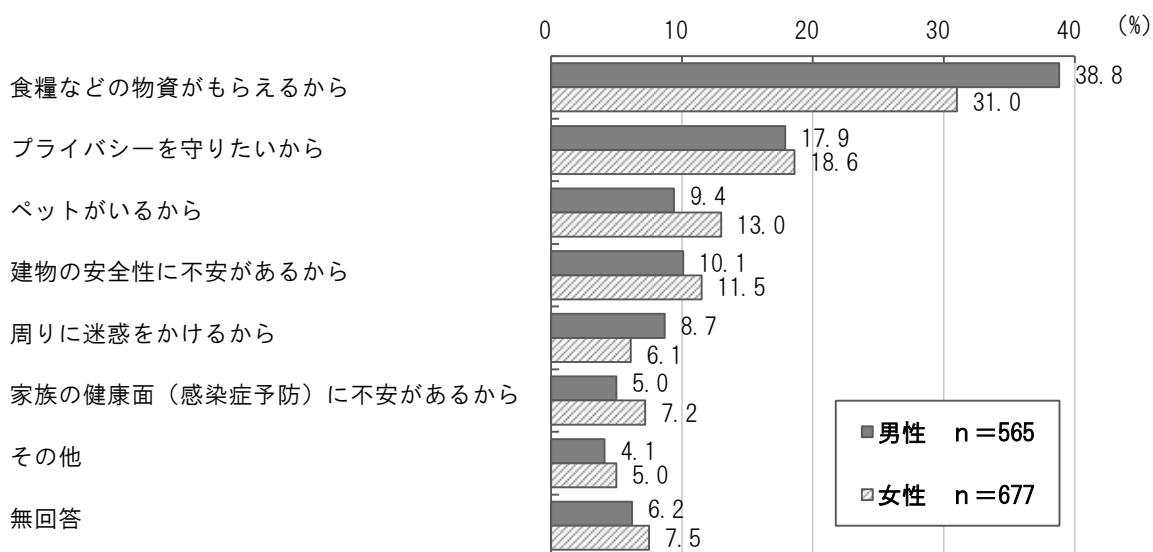
■ 問 15 で「指定避難所」「親戚、知人の家」「車中泊」「その他」と答えた人のみ

問19－1 その避難先を選んだ理由は何ですか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。



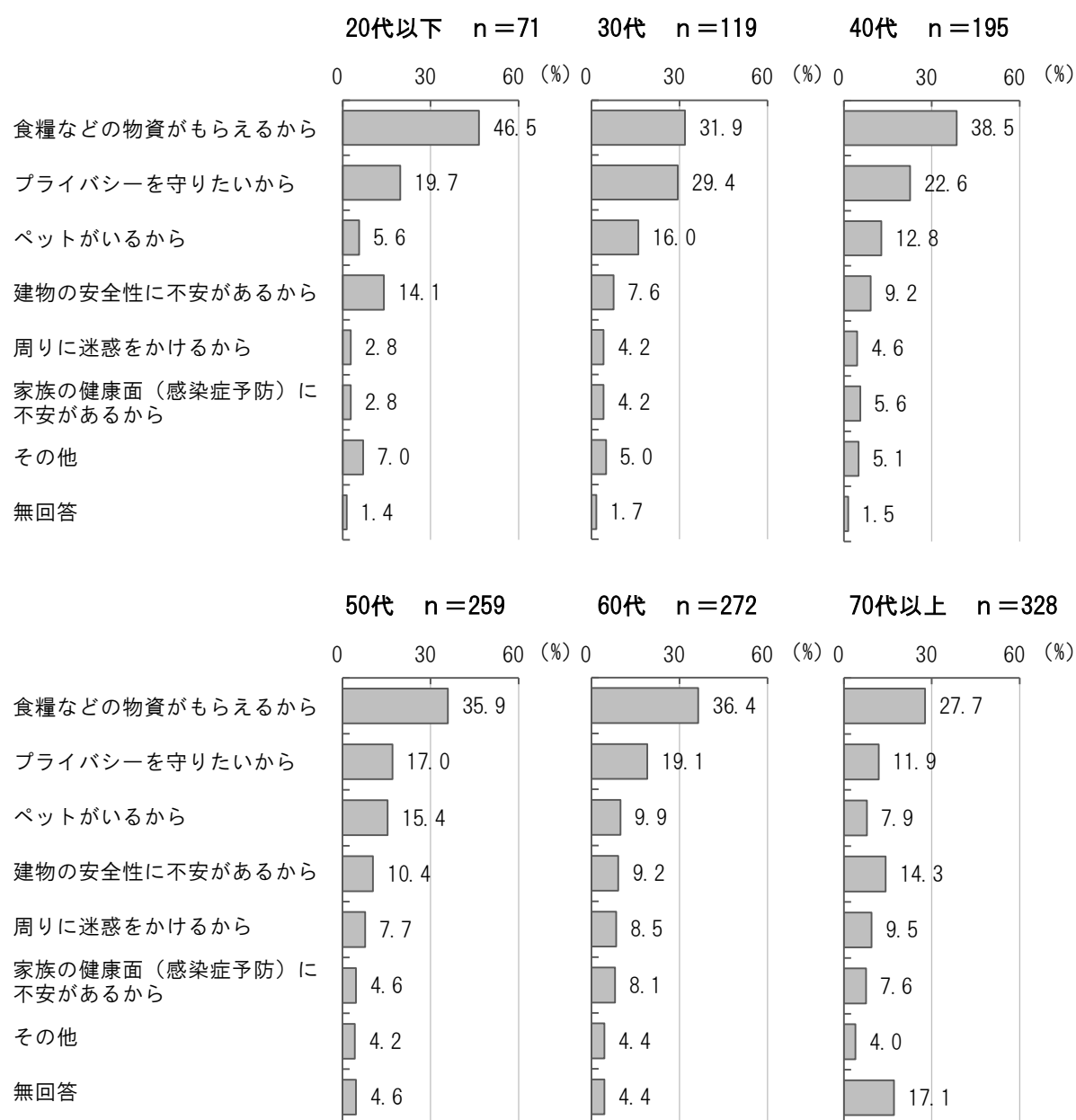
その避難先を選んだ理由は、「食糧などの物資がもらえるから」が 34.6%と最も多く、次いで「プライバシーを守りたいから」が 18.3%、「ペットがいるから」が 11.3%となっている。

<性別>



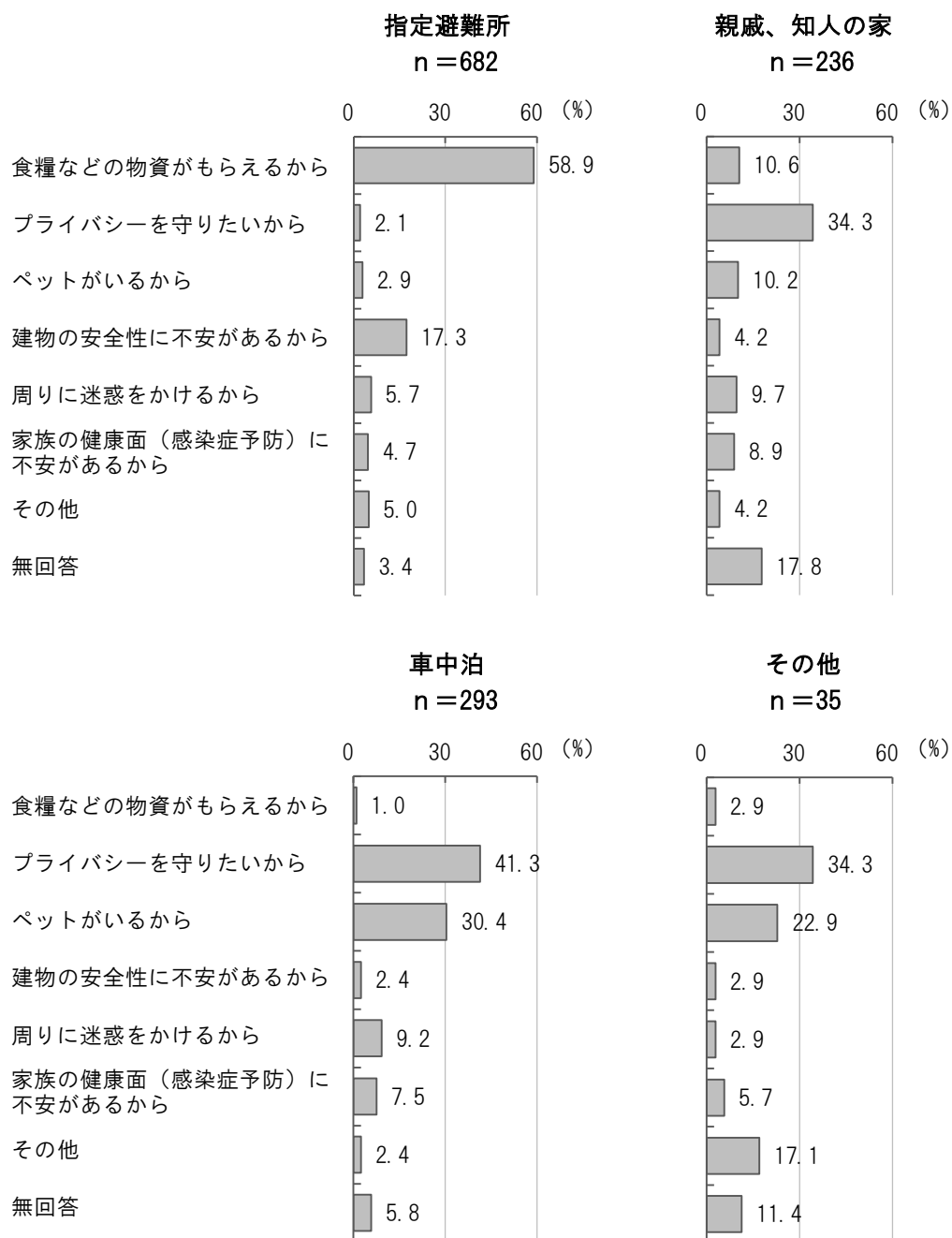
性別で見ると、男性において「食糧などの物資がもらえるから」が 38.8%と、女性より 7.8 ポイント多くなっている。女性においては「ペットがいるから」が 13.0%と、男性より多くなっている。

<年代別>



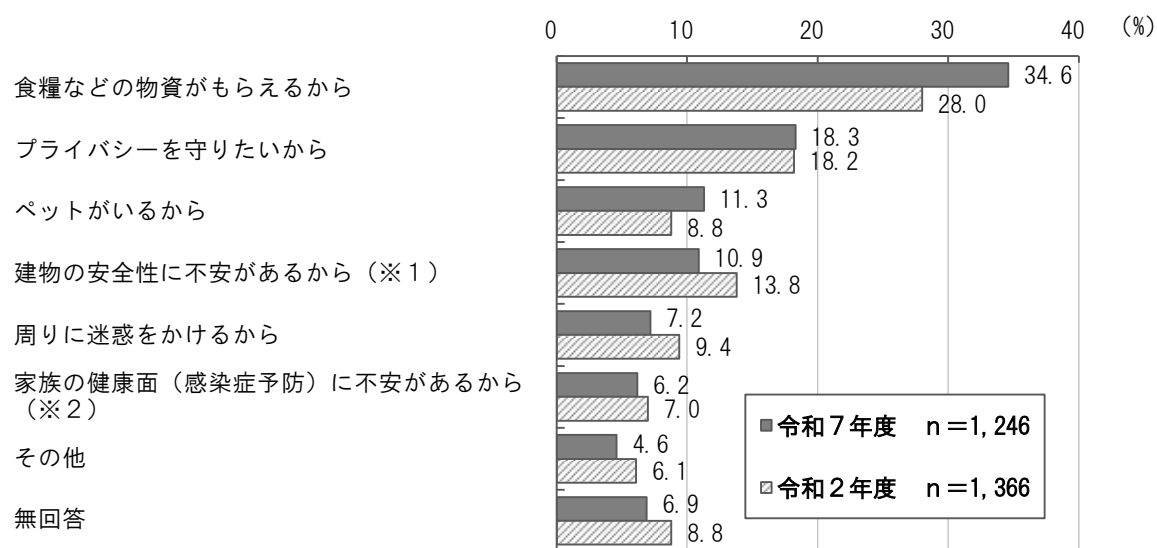
年代別では、20代以下において「食糧などの物資がもらえるから」が46.5%と、4割以下のほかの年代に比べて多くなっている。「プライバシーを守りたいから」は30代が29.4%と、ほかの年代に比べて多く、70代以上においては11.9%と少なくなっている。

<選んだ避難先別>



選んだ避難先別では、指定避難所において「食糧などの物資がもらえるから」が 58.9%、「建物の安全性に不安があるから」が 17.3%と、ほかの避難先に比べて多くなっている。「プライバシーを守りたいから」と「ペットがいるから」は、車中泊がほかの避難先に比べて多く、それぞれ 41.3%、30.4%となっている。

＜経年比較＞



※1 「建物の安全性に不安があるから」は、令和2年度は「自宅の安全性に不安があるから」であった。

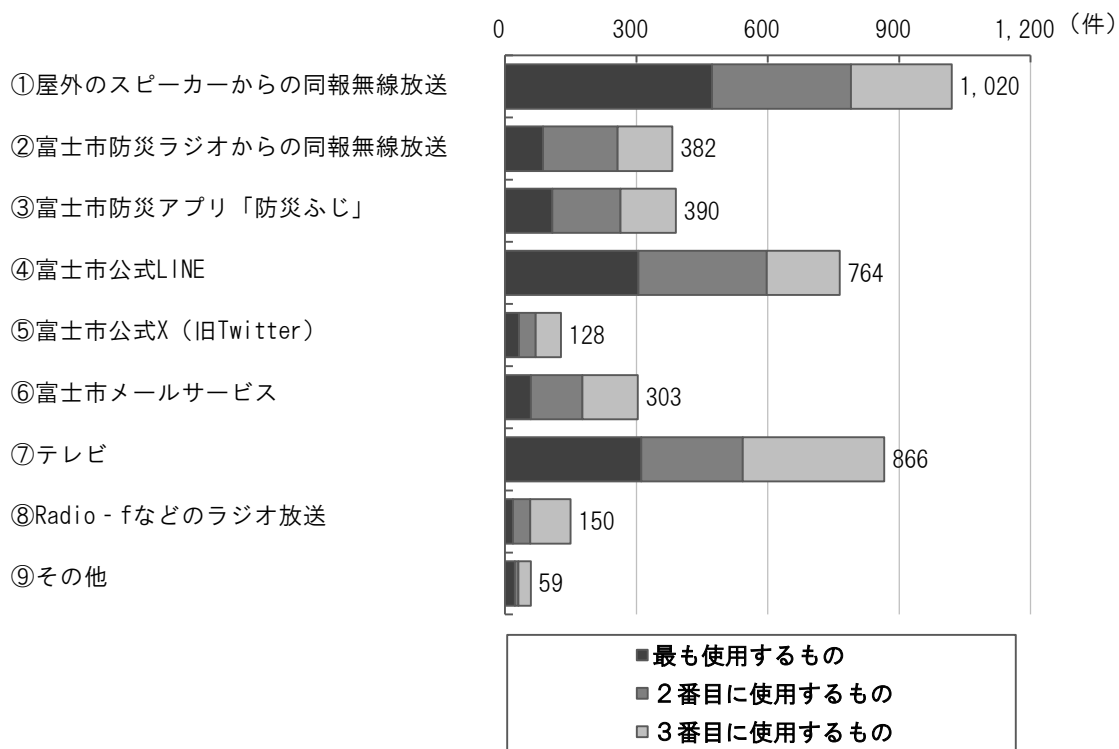
※2 「家族の健康面 (感染症予防) に不安があるから」は、令和2年度は「家族の健康面に不安があるから」であった。

令和2年度の調査結果と比較すると、「食糧などの物資がもらえるから」が 6.6 ポイント増加している。

(19) 災害に関する情報の入手手段

問20 災害発生時や、災害発生のおそれが高まった場合、災害に関する情報をどのような手段で入手しようと思いますか。以下の①～⑨の手段の中から、あなたが使うと思う順番に3つ選択し、回答欄に番号を1つずつ記入してください。

＜使用するもの上位3つの合計件数＞



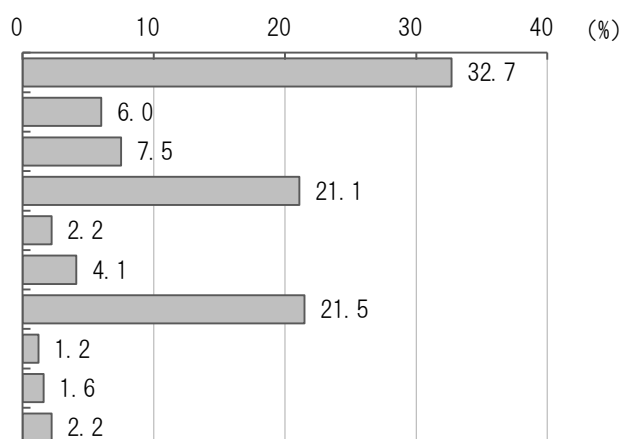
◎最も使用するもの、2番目に使用するもの、3番目に使用するものに記入のあった件数でグラフを作成しています。

災害に関する情報の入手手段の上位3つは、「①屋外のスピーカーからの同報無線放送」が1,020件と最も多く、次いで「⑦テレビ」が866件、「④富士市公式LINE」が764件となっている。

<最も使用するもの>

n = 1, 448

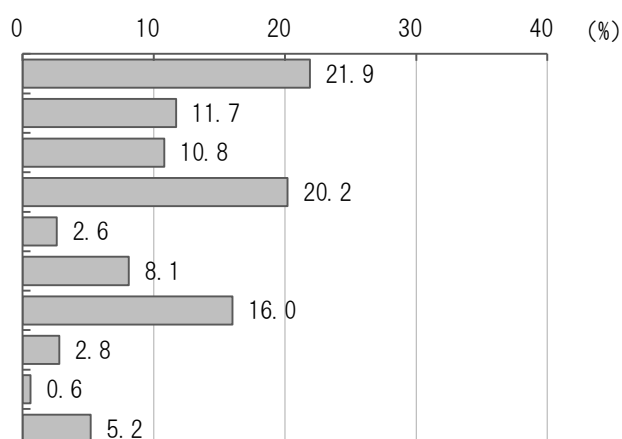
- ①屋外のスピーカーからの同報無線放送
- ②富士市防災ラジオからの同報無線放送
- ③富士市防災アプリ「防災ふじ」
- ④富士市公式LINE
- ⑤富士市公式X（旧Twitter）
- ⑥富士市メールサービス
- ⑦テレビ
- ⑧Radio - fなどのラジオ放送
- ⑨その他
- 無回答



<2番目に使用するもの>

n = 1, 448

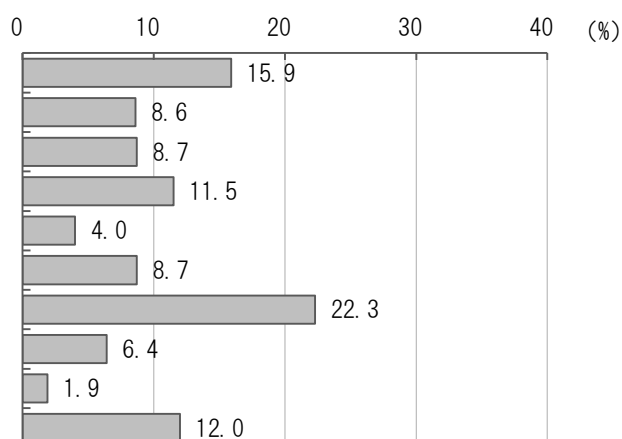
- ①屋外のスピーカーからの同報無線放送
- ②富士市防災ラジオからの同報無線放送
- ③富士市防災アプリ「防災ふじ」
- ④富士市公式LINE
- ⑤富士市公式X（旧Twitter）
- ⑥富士市メールサービス
- ⑦テレビ
- ⑧Radio - fなどのラジオ放送
- ⑨その他
- 無回答



<3番目に使用するもの>

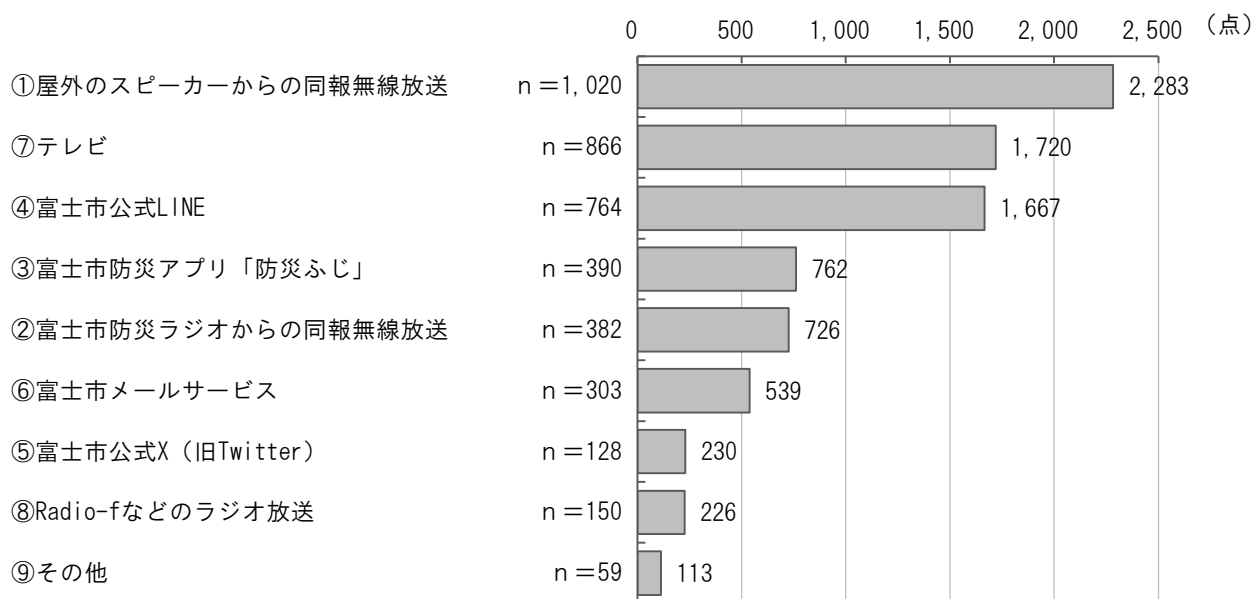
n = 1, 448

- ①屋外のスピーカーからの同報無線放送
- ②富士市防災ラジオからの同報無線放送
- ③富士市防災アプリ「防災ふじ」
- ④富士市公式LINE
- ⑤富士市公式X（旧Twitter）
- ⑥富士市メールサービス
- ⑦テレビ
- ⑧Radio - fなどのラジオ放送
- ⑨その他
- 無回答



災害に関する情報の入手手段で最も使用するものは、「①屋外のスピーカーからの同報無線放送」が 32.7%と最も多く、次いで「⑦テレビ」が 21.5%、「④富士市公式 LINE」が 21.1%となっている。また、2 番目、3 番目に使用するものについても、同様の 3 つが上位に挙がっている。

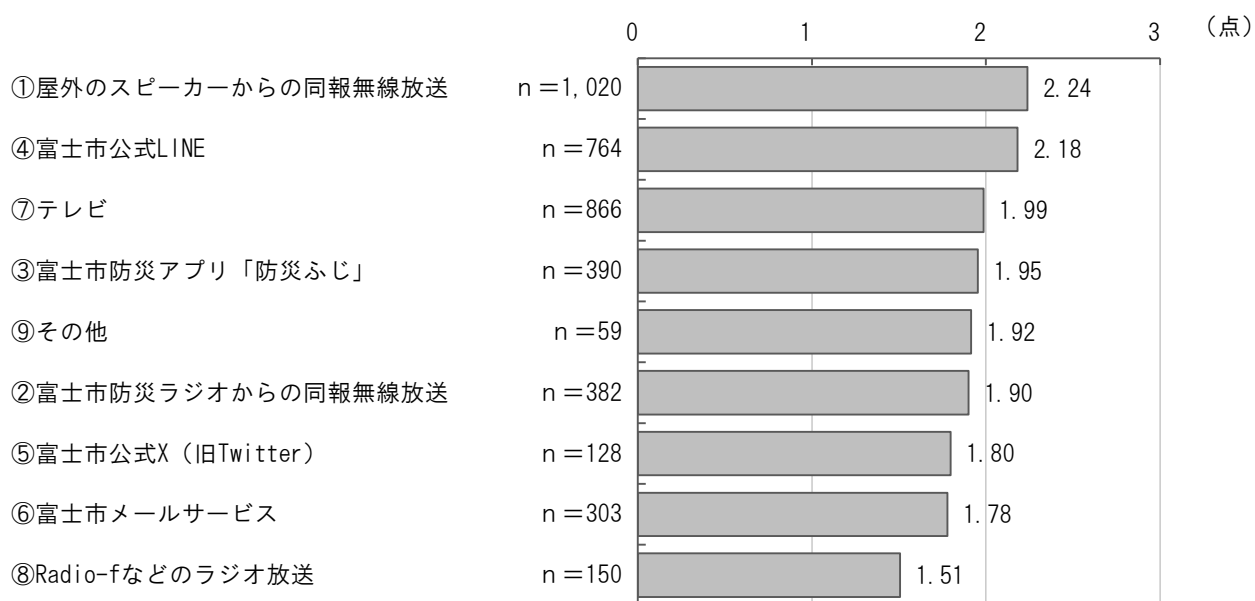
<合計点の高い順>



◎最も使用するものに3点、2番目に使用するものに2点、3番目に使用するものに1点を加え、回答件数に乘じた『合計点』でグラフを作成しています。

災害に関する情報の入手手段で、最も使用するもの、2番目に使用するもの、3番目に使用するものにそれぞれ加えた合計点は、「①屋外のスピーカーからの同報無線放送」が 2,283 点と最も高く、次いで「⑦テレビ」が 1,720 点、「④富士市公式 LINE」が 1,667 点となっている。

＜平均点の高い順＞

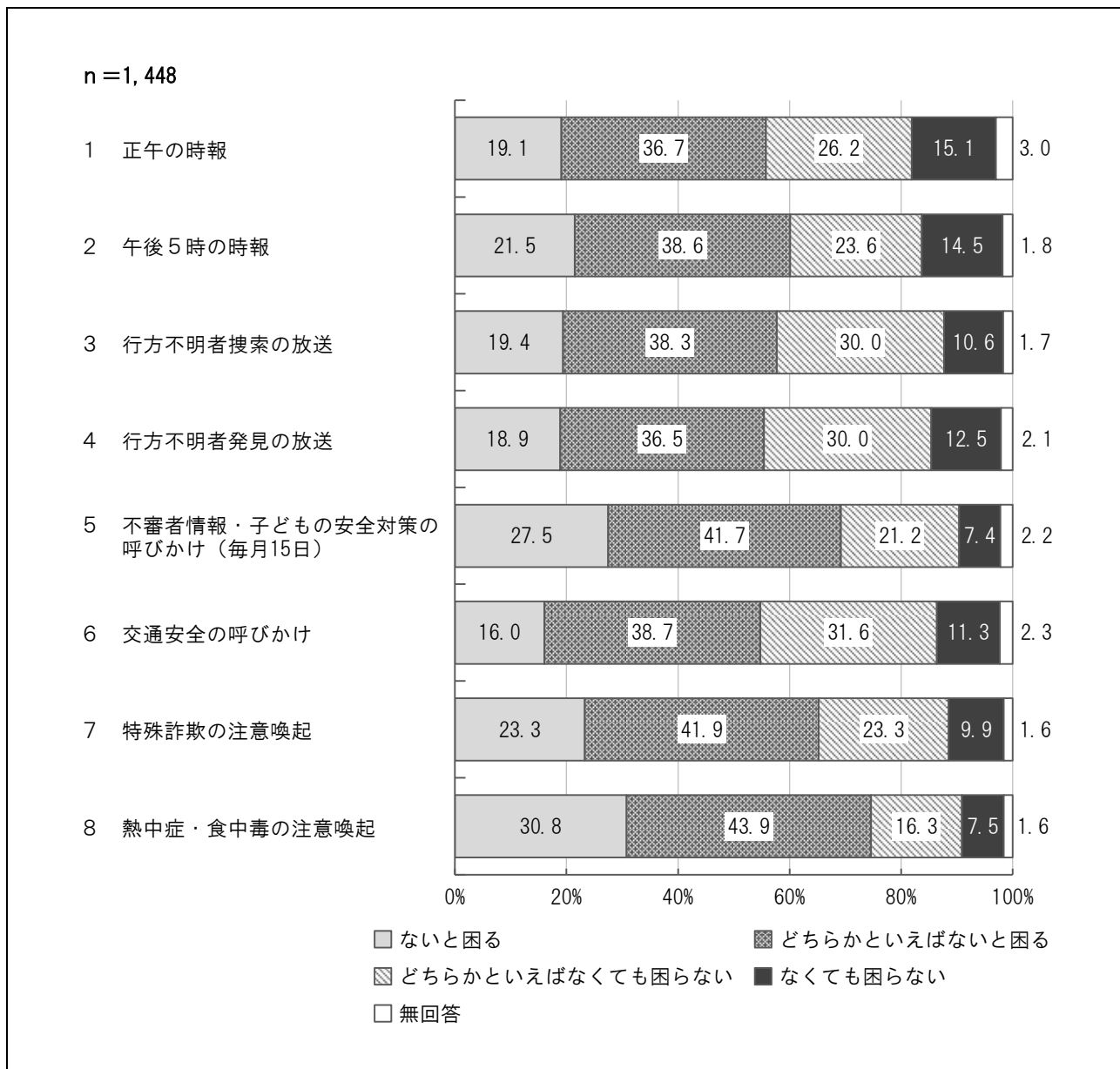


◎最も使用するものに3点、2番目に使用するものに2点、3番目に使用するものに1点を加え、回答件数に乗じたのち、回答総数（＝n）で除した『平均点』でグラフを作成しています。

災害に関する情報の入手手段で、最も使用するもの、2番目に使用するもの、3番目に使用するものにそれぞれ加えて平均点を算出すると、「①屋外のスピーカーからの同報無線放送」が2.24点と最も高く、次いで「④富士市公式LINE」が2.18点、「⑦テレビ」が1.99点となっている。

(20) 同報無線放送の各放送内容に対する考え

問21 「こちらは広報ふじです」で知られる同報無線放送は、緊急情報以外にも日常生活の中で様々な情報をお知らせしています。あなたの生活において、それぞれの放送内容をどのように感じていますか。あなたのお気持ちに近いものに 1 つずつ ○をつけてください。

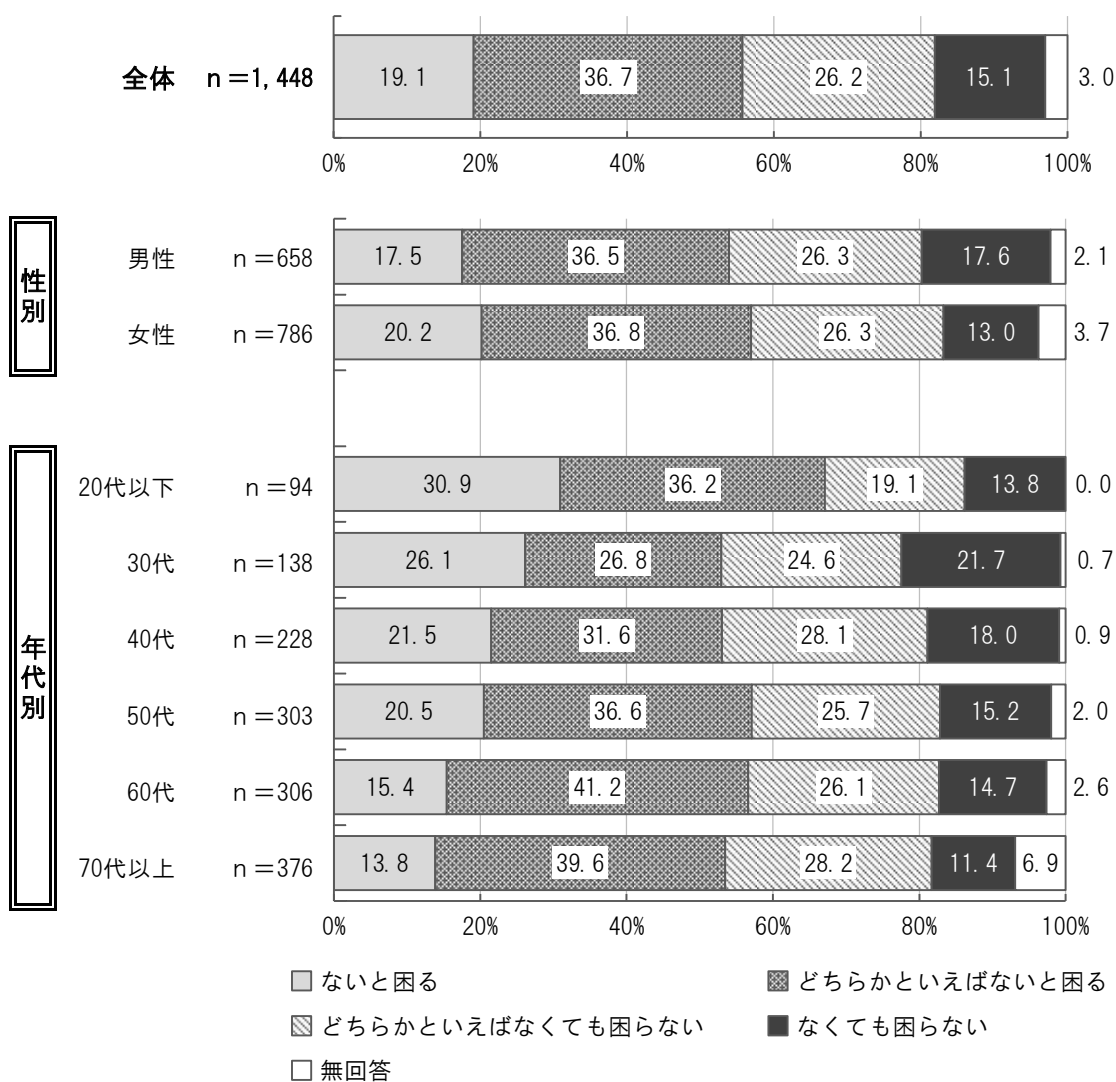


同報無線放送の各放送内容に対する考えにおいて、『困る』（「困る」と「どちらかといえば困る」の合計）が多い放送は、順に「8 熱中症・食中毒の注意喚起」（74.7%）、「5 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月 15 日）」（69.2%）、「7 特殊詐欺の注意喚起」（65.2%）となっている。

一方、『なくとも困らない』（「どちらかといえなくとも困らない」と「なくとも困らない」の合計）が多い放送は、順に「6 交通安全の呼びかけ」（42.9%）、「4 行方不明者発見の放送」（42.5%）、「1 正午の時報」（41.3%）となっている。

※以下、『困る』は「困る」と「どちらかといえば困る」、『なくとも困らない』は「どちらかといえなくとも困らない」と「なくとも困らない」を合わせたものとする。

1 正午の時報

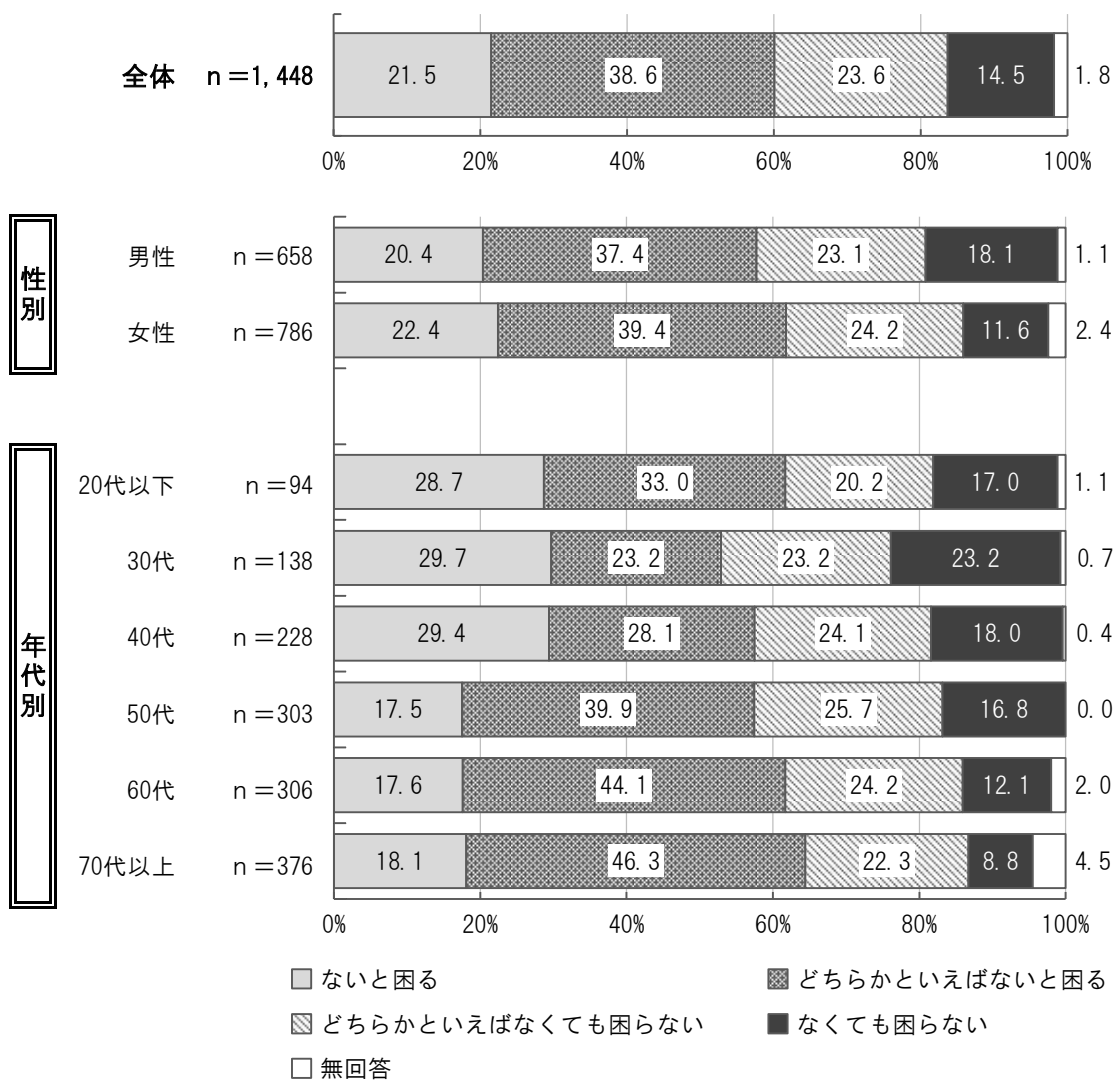


正午の時報は、『ない困る』が55.7%、『なくても困らない』が41.3%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が17.6%と、女性の13.0%より多くなっている。また、『ない困る』は男性が54.0%、女性が57.0%となっている。

年代別では、「ない困る」は年代が下がるごとに多くなっており、20代以下において3割を超えている。また、『ない困る』は20代以下が67.0%と、全年代で最も多くなっている。『なくても困らない』は30代が46.4%と全年代で最も多く、次いで40代が46.1%となっている。

2 午後 5 時の時報

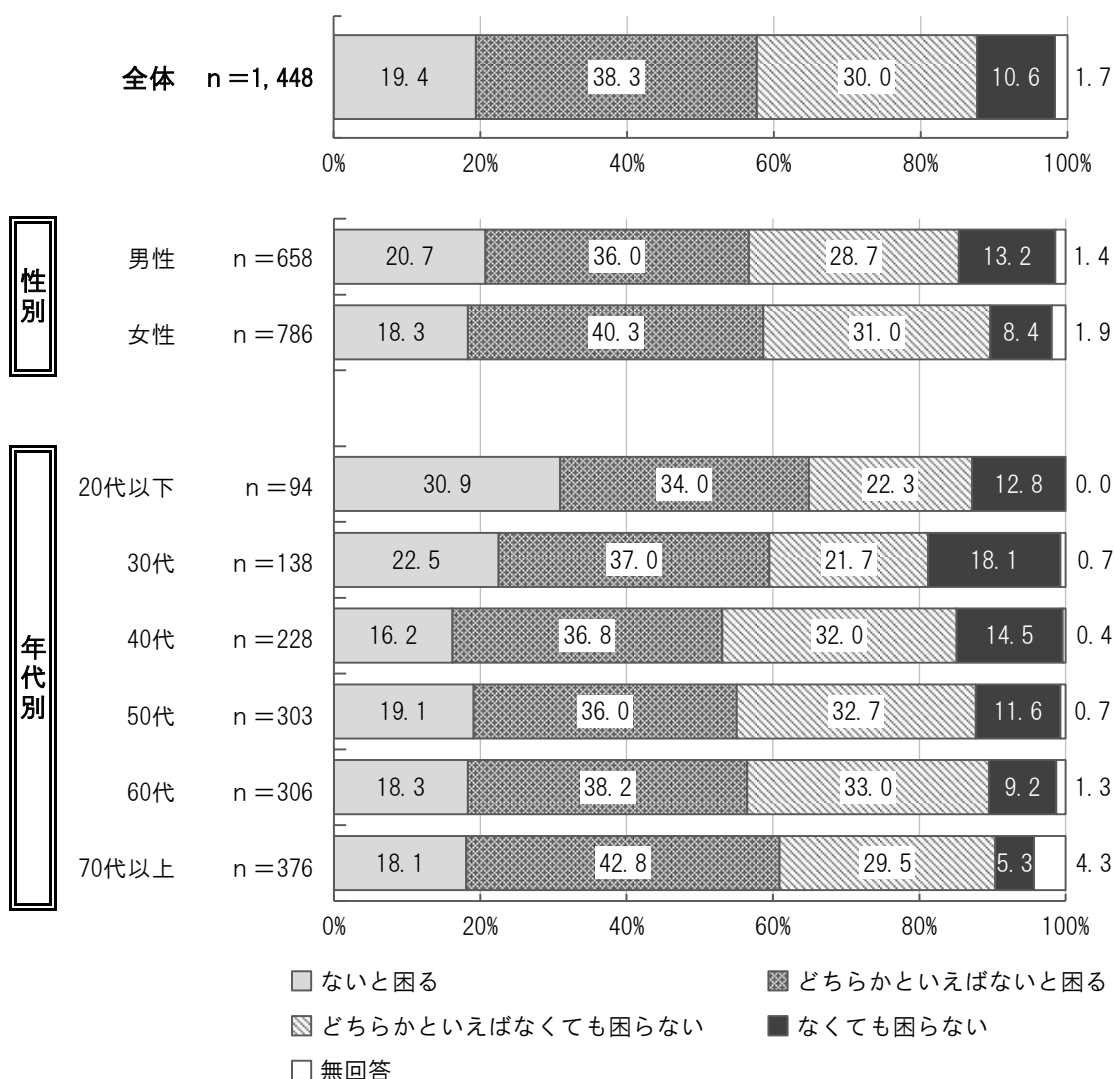


午後 5 時の時報は、『ないと困る』が 60.1%、『なくても困らない』が 38.1%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が 18.1%と、女性の 11.6%より多くなっている。また、『なくても困らない』は男性において 41.2%と、女性の 35.8%に比べて多くなっている。

年代別では、30 代において「なくても困らない」が 23.2%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『ないと困る』は 70 代以上が 64.4%と全年代で最も多く、次いで 20 代以下・60 代がいずれも 61.7%となっている。『なくても困らない』は 30 代が 46.4%と全年代で最も多く、次いで 50 代が 42.5%となっている。

3 行方不明者搜索の放送

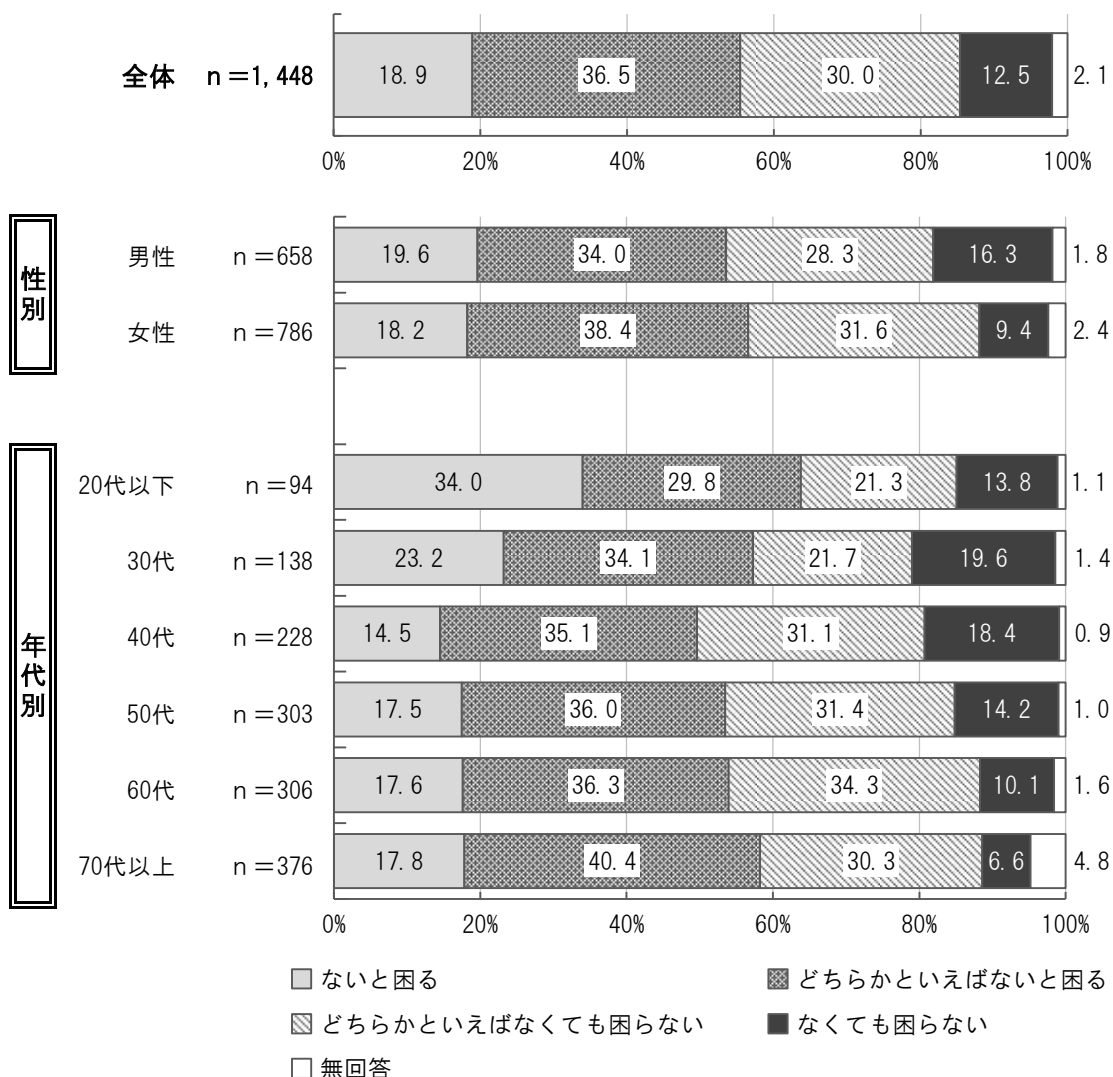


行方不明者搜索の放送は、『困る』が 57.7%、『なくても困らない』が 40.6%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が 13.2%と、女性より多くなっている。女性においては「どちらかといえば困る」が 40.3%と、男性より多くなっている。

年代別では、20 代以下において「困る」が 30.9%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『困る』は 20 代以下が 64.9%と全年代で最も多く、次いで 70 代以上が 60.9%となっている。『なくても困らない』は 40 代が 46.5%と全年代で最も多く、次いで 50 代が 44.3%となっている。

4 行方不明者発見の放送

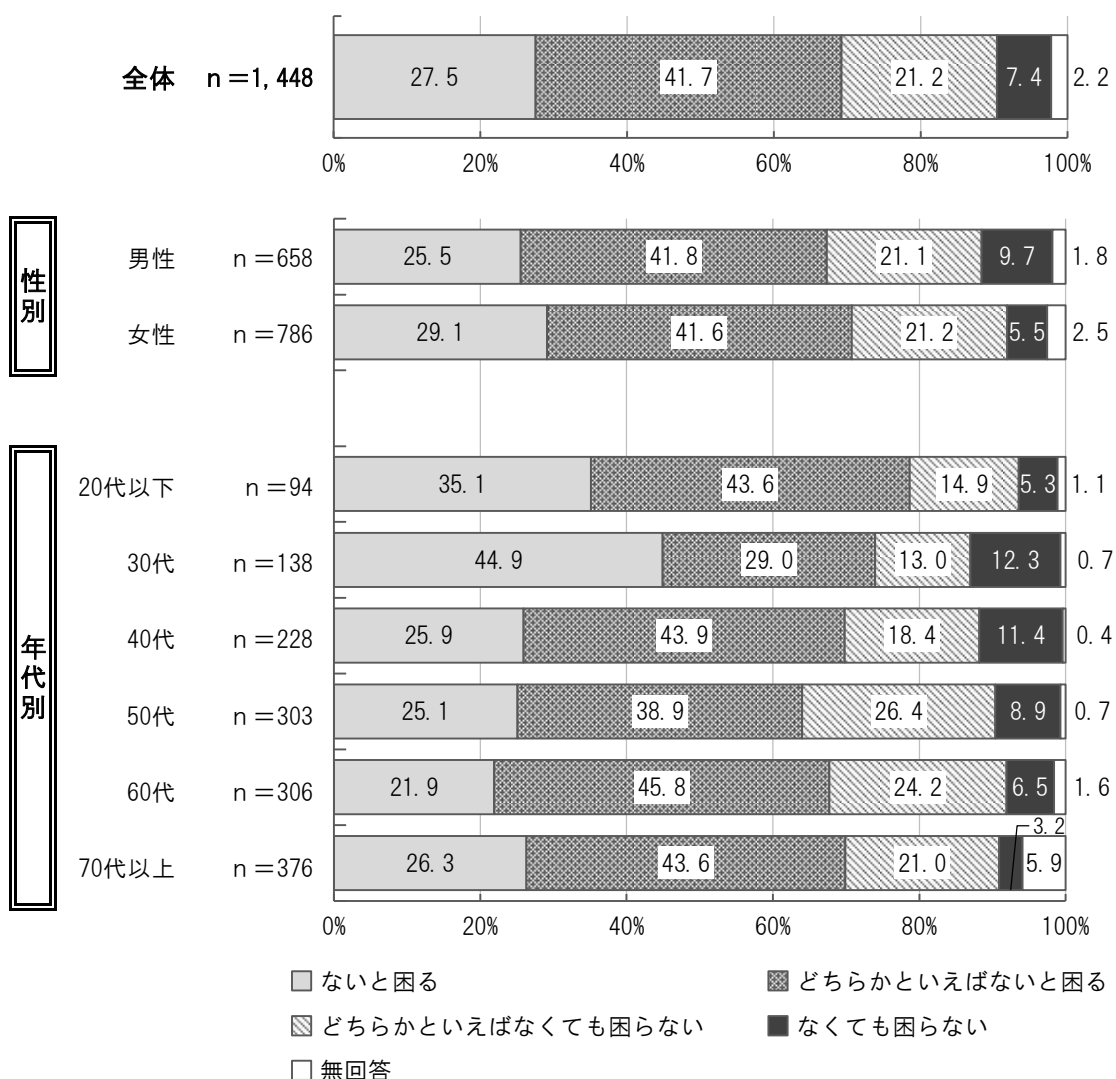


行方不明者発見の放送は、『ないと困る』が55.3%、『なくても困らない』が42.5%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が16.3%と、女性より多くなっている。女性においては、「どちらかといえばないと困る」が38.4%と、男性より多くなっている。

年代別では、20代以下において「ないと困る」が34.0%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『ないと困る』は20代以下が63.8%と全世代で最も多くなっている。『なくても困らない』は40代が49.6%と全世代で最も多く、次いで50代が45.6%となっている。

5 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月 15 日）

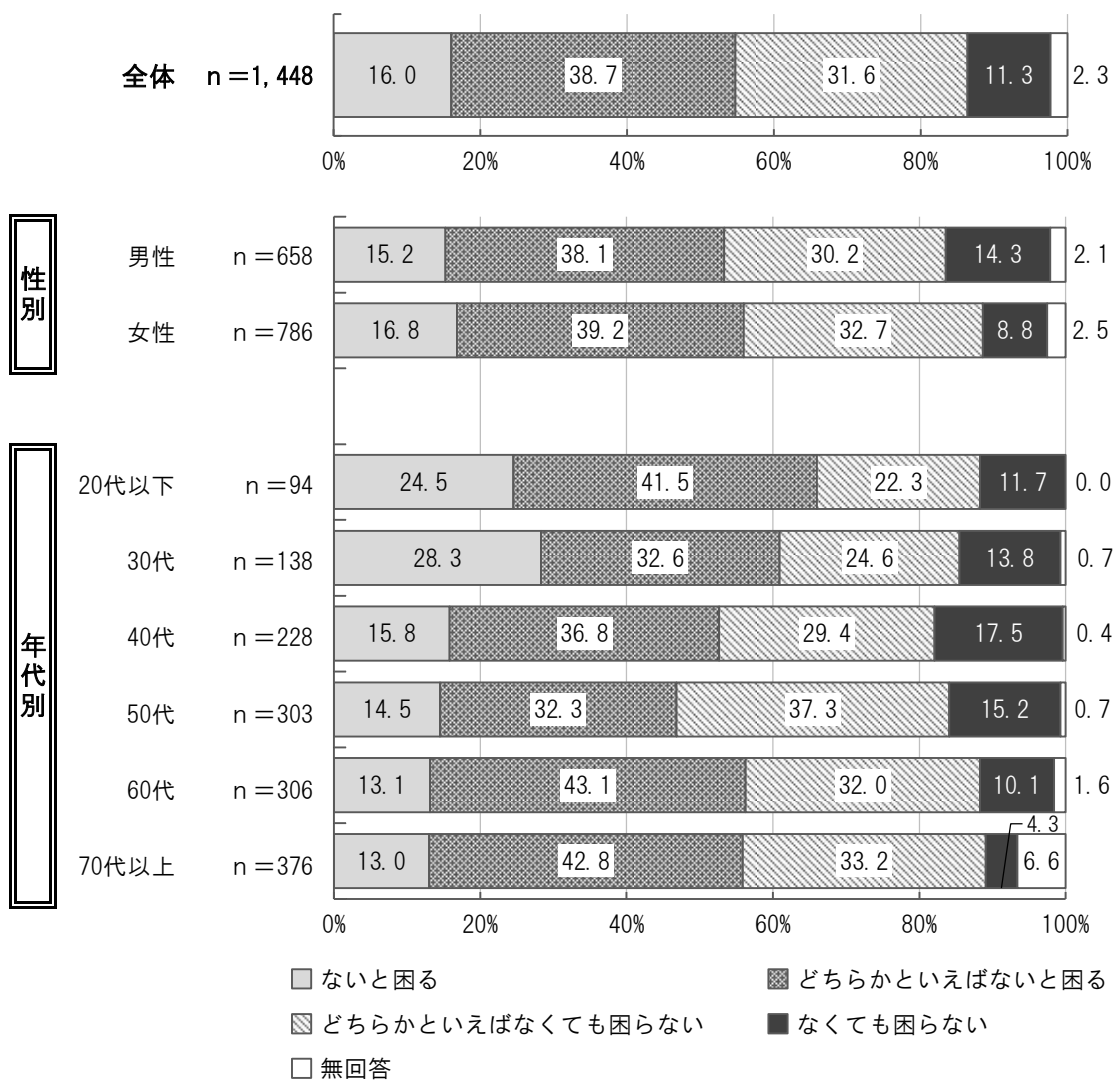


不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月 15 日）は、『ないで困る』が 69.2%、『なくても困らない』が 28.6%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が 9.7%と、女性より多くなっている。また、『ないで困る』は女性において 70.7%と、男性の 67.3%に比べて多くなっている。

年代別では、「ないで困る」は 30 代が 44.9%とほかの年代に比べて多く、40 代～70 代以上は 3 割以下となっている。また、『ないで困る』は 20 代以下が 78.7%と全年代で最も多く、次いで 30 代が 73.9%となっている。『なくても困らない』は 50 代が 35.3%と全年代で最も多く、次いで 60 代が 30.7%となっている。

6 交通安全の呼びかけ

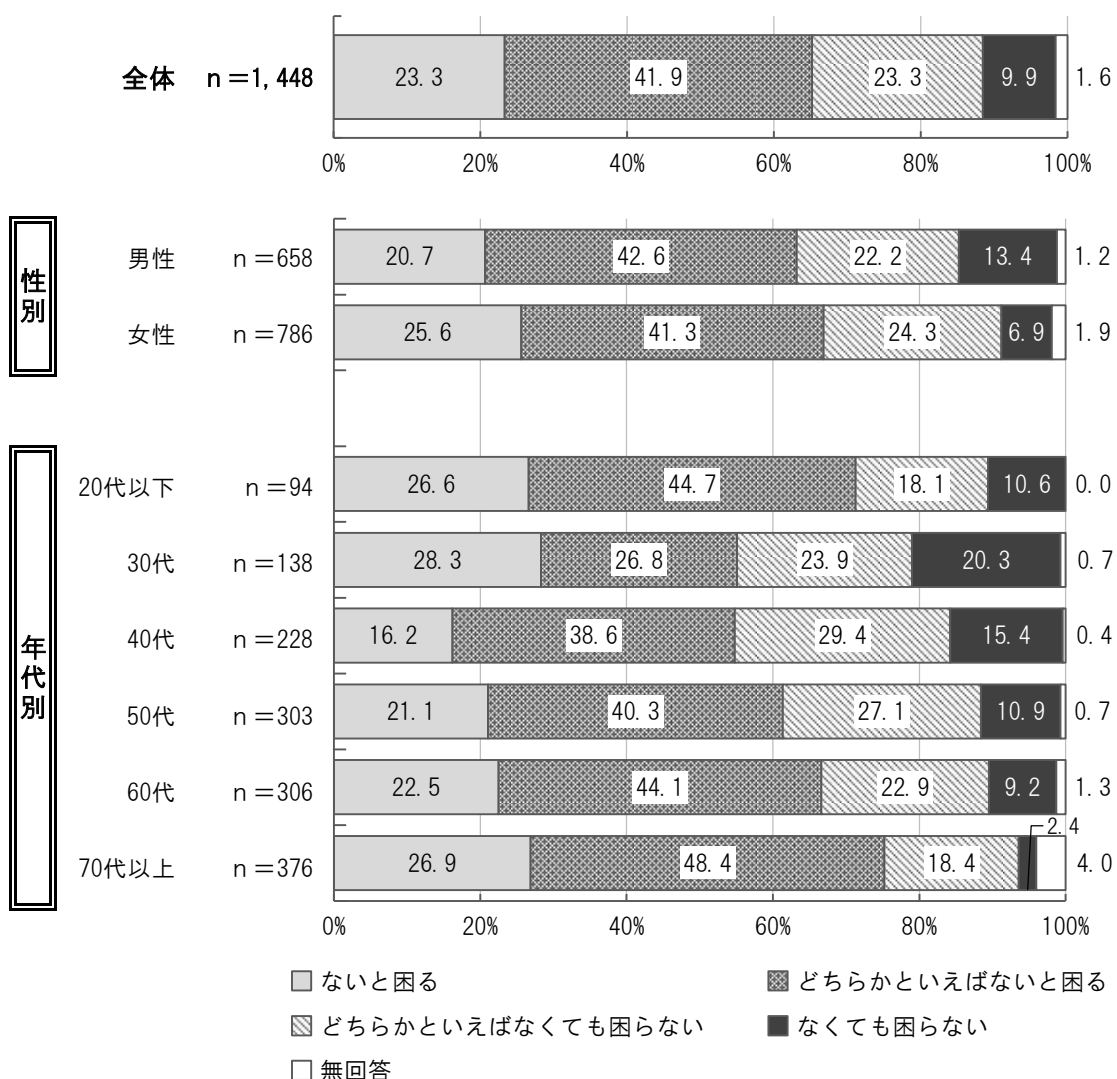


交通安全の呼びかけは、『ない困る』が54.8%、『なくても困らない』が42.9%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が14.3%と、女性より多くなっている。

年代別では、70代以上において「なくても困らない」が4.3%と、1割以上となったほかの年代に比べて少なくなっている。また、『ない困る』は20代以下が66.0%、『なくても困らない』は50代が52.5%と、それぞれ全年代で最も多くなっている。

7 特殊詐欺の注意喚起

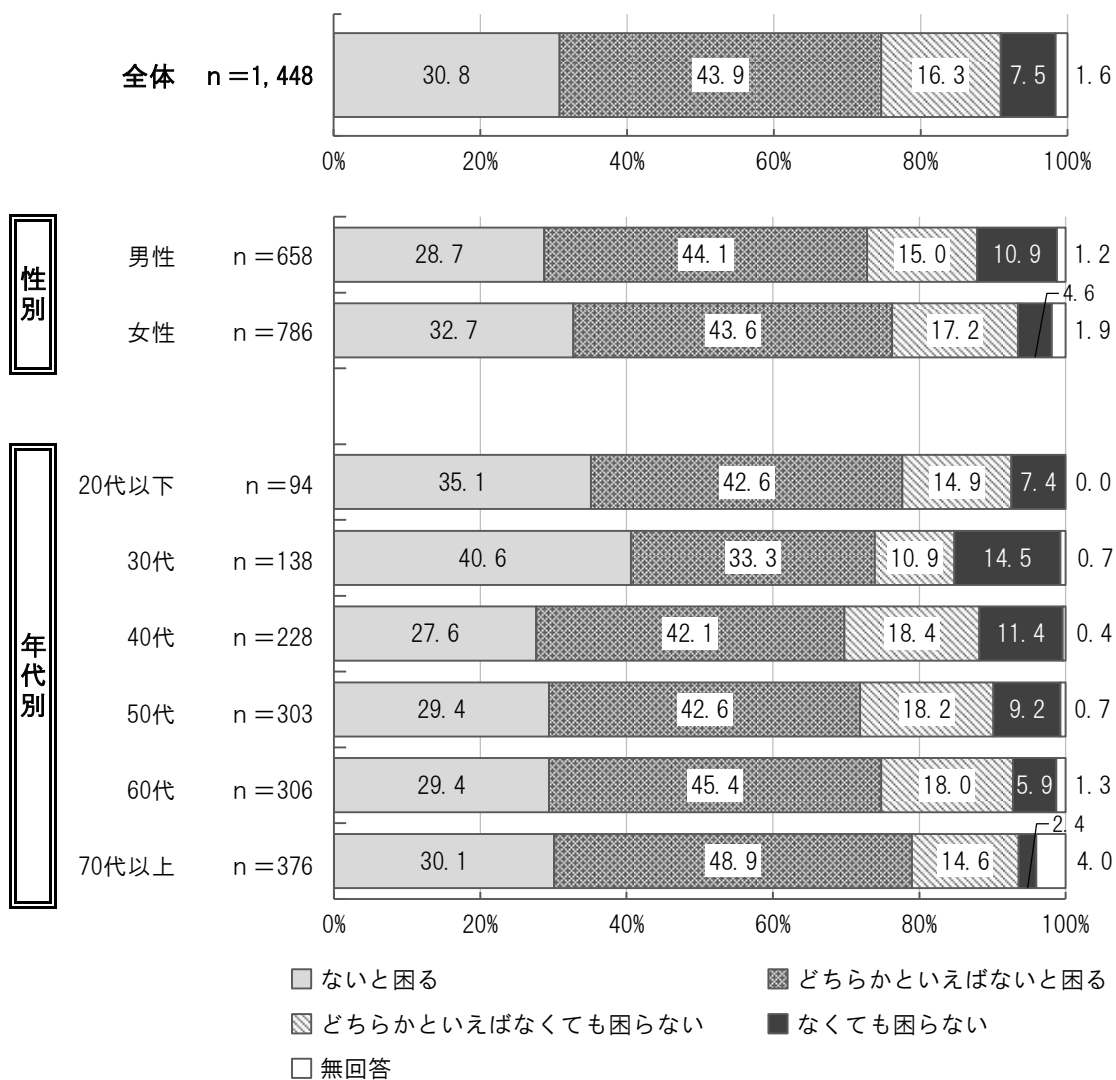


特殊詐欺の注意喚起は、『ない困る』が65.2%、『なくても困らない』が33.2%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が13.4%と、女性の6.9%より多くなっている。女性においては「ない困る」が25.6%と、男性より多くなっている。また、『なくても困らない』は男性において35.6%と、女性の31.2%に比べて多くなっている。

年代別では、「なくても困らない」は30代において20.3%と、ほかの年代に比べて多く、70代以上においては2.4%と、ほかの年代に比べて少なくなっている。また、『ない困る』は70代以上が75.3%と全年代で最も多く、次いで20代以下が71.3%となっている。『なくても困らない』は40代が44.7%と全年代で最も多く、次いで30代が44.2%となっている。

8 熱中症・食中毒の注意喚起



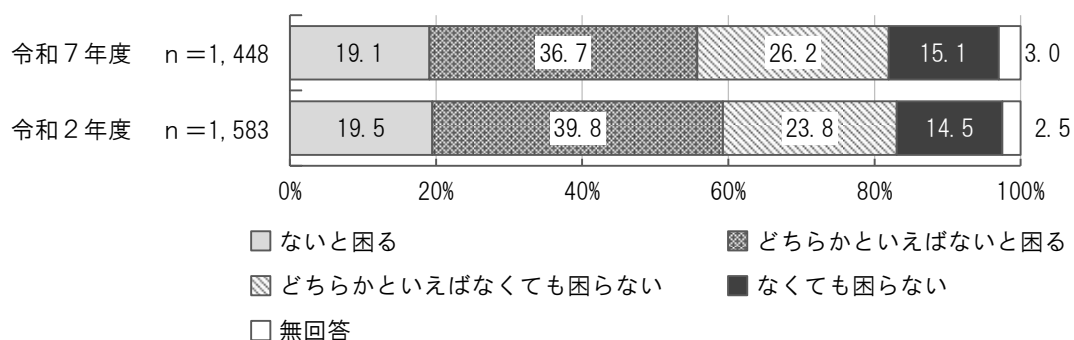
熱中症・食中毒の注意喚起は、『困らない』が74.7%、『なくても困らない』が23.8%となっている。

性別で見ると、男性において「なくても困らない」が10.9%と、女性の4.6%より多くなっている。女性においては「困らない」が32.7%と、男性より多くなっている。また、『なくても困らない』は男性において26.0%と、女性の21.8%に比べて多くなっている。

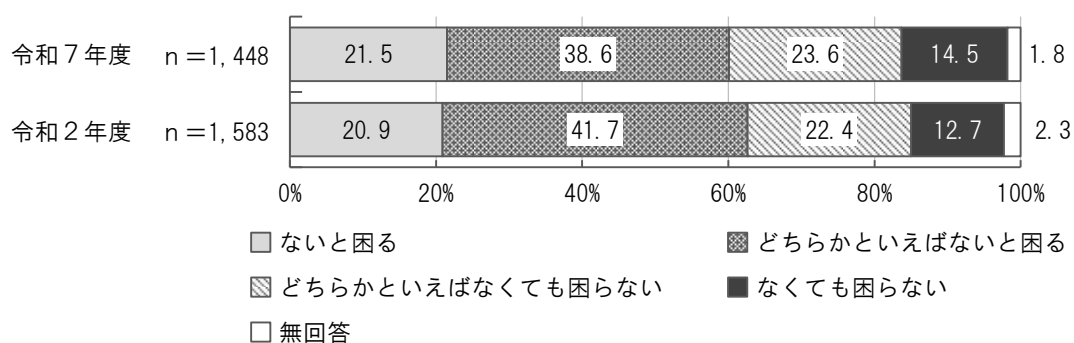
年代別では、30代において「困らない」が40.6%と、ほかの年代に比べて多くなっている。また、『困らない』は70代以上が79.0%と全年代で最も多く、次いで20代以下が77.7%となっている。『なくても困らない』は40代が29.8%と全年代で最も多く、次いで50代が27.4%となっている。

<経年比較>

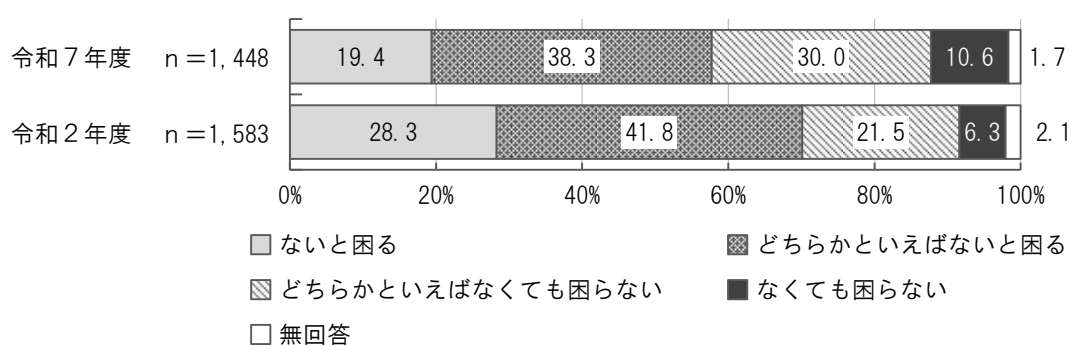
1 正午の時報



2 午後5時の時報

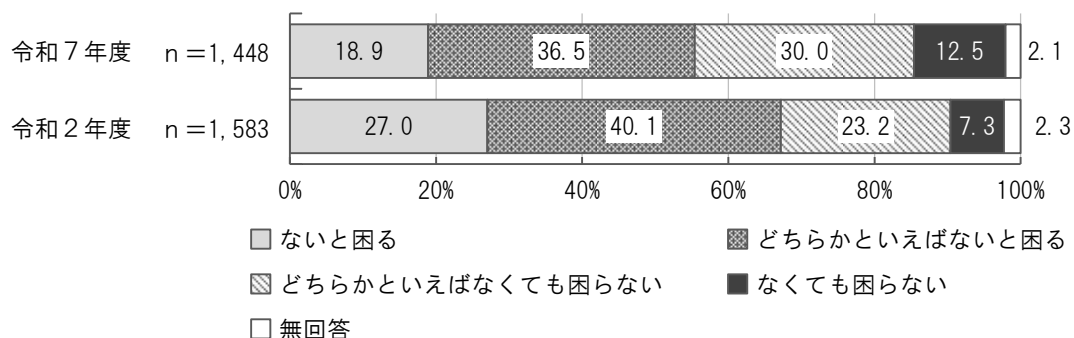


3 行方不明者捜索の放送

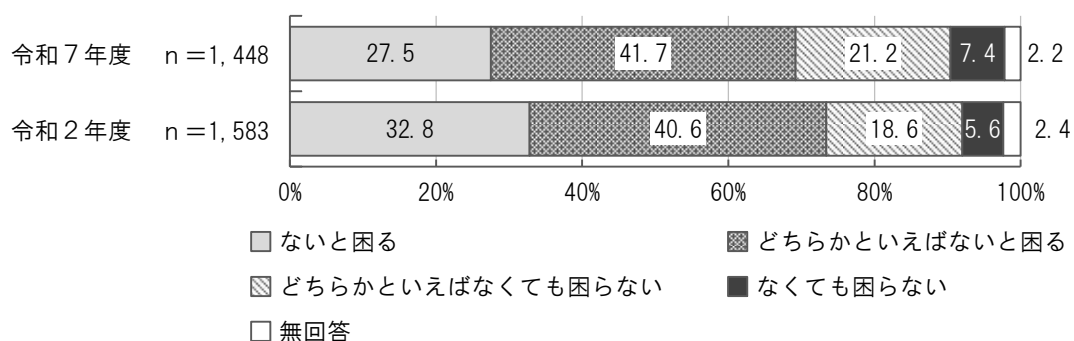


令和2年度の調査結果と比較すると、「3 行方不明者捜索の放送」「4 行方不明者発見の放送」において「ないと困る」がそれぞれ8ポイント以上減少し、『ないと困る』も10ポイント以上減少している。「5 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月15日）」においては「ないと困る」が5.3ポイント減少している。また、「7 特殊詐欺の注意喚起」においては「どちらかといえばないと困る」が5.3ポイント増加し、『ないと困る』も4.6ポイント増加している。

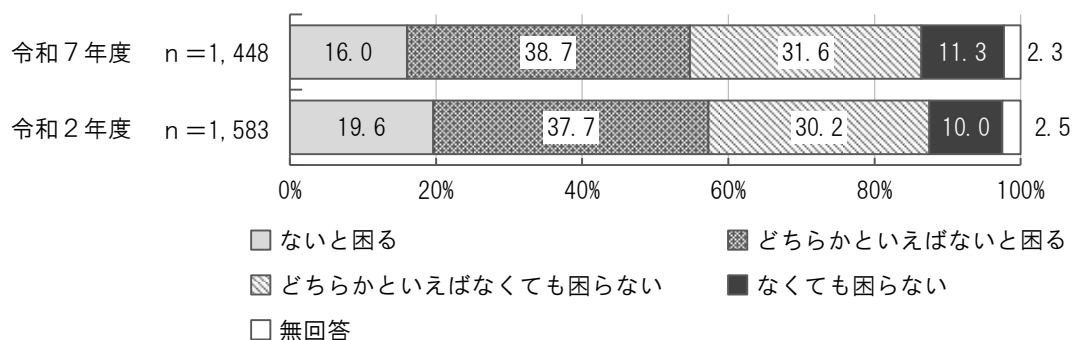
4 行方不明者発見の放送



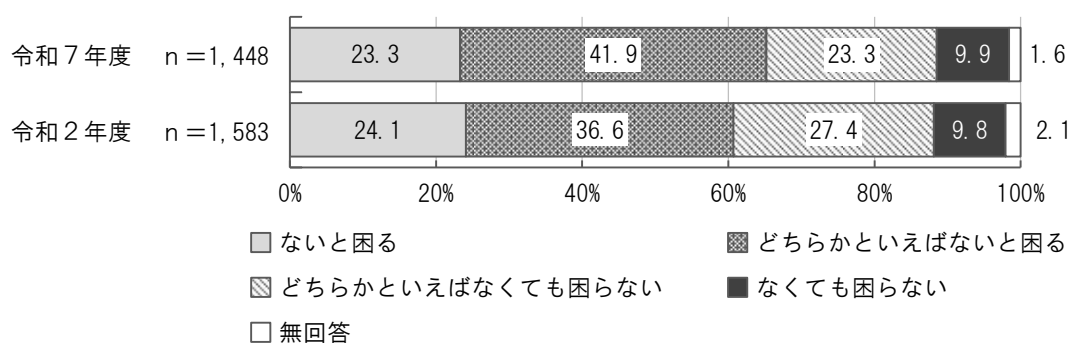
5 不審者情報・子どもの安全対策の呼びかけ（毎月 15 日）



6 交通安全の呼びかけ（※令和 2 年度は、「交通安全運動の呼びかけ（年 4 回）」）



7 特殊詐欺の注意喚起（※令和 2 年度は、「振り込め詐欺防止などの呼びかけ」）



8 熱中症・食中毒の注意喚起（※令和 2 年度の調査項目になし）